



カザフ語文法の手引き

第2版 (日本語訳)

ҚАЗАҚ ТІЛІ: Грамматикалық анықтағыш
Екінші басылым

著／トゥユメバ エフ・ジャンセイト・カンセイトル

Түймебаев Жансейіт Қансейітұлы

翻訳／二ノ宮崇司、シャダエヴァ・マディナ

翻訳版監修／臼山利信

補足資料

「やさしいカザフ語」開発のための資料／二ノ宮崇司、臼山利信



筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター

2025

ISBN 978-4-910114-59-0

カザフ語文法の手引き

第2版(日本語訳)

ҚАЗАҚ ТІЛІ: Грамматикалық анықтағыш
Екінші басылым

著／トウユメバエフ・ジャンセイト・カンセイトル

Түймебаев Жансейіт Қансейітұлы

翻訳／二ノ宮崇司、シャダエヴァ・マディナ

翻訳版監修／臼山利信

補足資料

「やさしいカザフ語」開発のための資料／二ノ宮崇司、臼山利信

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター
2025

本書は、①JSPS 基盤研究（C）課題番号（20K00770）・（19K34567）及び②筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」の研究助成、③JALP 多言語対応研究会の活動による研究成果の一部です。また、本書は、筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」による助成を受けて刊行されたものです。日本財団に対し、記して御礼・感謝申し上げます。

著者より

本書ではカザフ語文法の基礎が体系的に表にまとめられています。専門用語と音韻論、形態論の規則が簡単に理解できるような作りになっています。特に、カザフ語の接辞を丁寧に説明するよう心掛けました。カザフスタンに関心を持つ大学生及び一般読者を中心に、カザフ語の専門家にも関心をもってもらえるようこの手引書を執筆しました。

2023年1月1日

トゥユメバエフ Zh.Q. (Tuimebaev, Zh.Q., Түймебаев, Ж.Қ.)

翻訳者より

2023年10月にアルファラビ・カザフ国立大学の本部より本書の日本語への翻訳が依頼されました。翻訳者は、日々、カザフ国立大学で日本語の授業を行う中、日本人学生向けにカザフ語文法の教科書やカザフ語の語彙集を執筆してきました。日本人にカザフ語やカザフの文化を知ってもらう一環として、本書の翻訳を行いました。翻訳者は、普段からカザフ語と日本語に慣れ親しんでいたものの、カザフ語の言語学用語を日本語に翻訳した経験がなく、その翻訳作業には多くの困難が伴いました。カザフ語独特の文法範疇をどのように訳せばよいのか困ってしまいました。言語学の用語をカザフ語から日本語訳しましたが、初出の用語については原語であるカザフ語もそえるようにしました。また読みやすくするため、原書と構成を一部変えました。日本語への翻訳にあたり、中嶋善輝 (2013) 『カザフ語文法読本』 大学書林と 2023年12月に Oxford University Press によって出版された *Oxford Qazaq Dictionary: қазақша-ағылшынша және ағылшынша-қазақша сөздік* を参考にしました。本書の翻訳には幾つか不備があると思いますが、徐々に出版を重ねることで、よりよい教材を作りたいと考えています。本書を通して、一人でも多くの日本人にカザフ語やカザフの文化を知ってもらえるよう心から願っています。

2025年3月1日

二ノ宮崇司 (Ninomiya, T., Ниномия, Т.),

シャダエヴァ М. (Shadayeva, M., Шадаева, М.)

現代カザフ語文法と「やさしいカザフ語」の組み合わせの試み

本書は、現在日本で入手できる本格的な現代カザフ語文法教材の一つである。著者の TUIMEBAYEV Zhanseit Kabseituly氏は、ソヴィエト時代の1980年にキーロフ記念カザフ国立大学文学部(現アルファラビ・カザフ国立大学)言語学専攻を卒業後、1987年にソ連邦カザフ科学アカデミー言語学研究所で文学博士候補(Ph.D.)の学位を取得した言語学者である。1980年から1993年までキーロフ記念カザフ国立大学において助教、上級講師、准教授として教鞭を取られた。

TUIMEBAYEV氏は、外交や国家行政の分野でも才能を発揮し、在トルコ共和国カザフスタン共和国イスタンブール総領事、カザフスタン共和国大統領顧問、カザフスタン共和国教育科学大臣などを歴任され、現在、カザフスタンの最高学府であるアルファラビ・カザフ国立大学学長として活躍されている。

アルファラビ・カザフ国立大学と筑波大学との交流は、2006年に始まり、20年目を数える。2007年10月に大学間交流協定を締結し、以来学生交流や研究者交流等を地道に続けている。2014年4月には、同大学東洋学部構内に筑波大学アルマトイオフィスを開設した。同オフィスは、筑波大学の中央アジア地域を対象とする国際戦略推進拠点としてのみならず、カザフスタン共和国と日本国の大学間交流全体の発展に寄与する、言わば、二大学間の交流の枠を超えた両国の高等教育・学術交流の推進に貢献するプラットフォームとしての役割を果たしている。2019年9月には、筑波大学はアルファラビ・カザフ国立大学と、それまでの大学間交流協定(全学)をさらに格上げした Campus-in-Campus¹協定を締結した。所定の手続きは必要であるが、双方の学生が互いのキャンパスを自身の2つ目のキャンパスとして、交流人数の制限を設けずに自由に行き来できるような環境が整えられている。

本学グローバルコミュニケーション教育センターは、Campus-in-Campus協定を追い風に、春期休暇期間中に筑波大生のために一ヶ月程度の「海外語学研修ロシア語C」を実施し、ロシア語8割、カザフ語2割の割合の二言語同時並行による学習を行なっている。この研修は、2016年から開始し、現在10年目を迎えている(コロナ禍の2020年度、2021年度は実施できず)。2024年8月には、ロシア語よりもカザフ語の学習に専念することを希望する学生たちのニーズに応じて、夏期休暇期間中に「海外語学研修カザフ語」を新設し、カザフ語学習に特化した語学研修の体制を整えた。

本書は、2004年に第1版が刊行され、2023年に第2版が出版された。原語であるカザフ語版の翻訳を担当したのは、アルファラビ・カザフ国立大学東洋学部准教授・招聘教授である二ノ宮崇司氏

¹ 「CiC協定を締結した海外のパートナー大学との間でキャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えたトランスボーダーな教育研究交流を実現するための取組み」を指す。現在13大学とCampus-in-Campus協定を締結している。
<https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/partner-organizations/>

と同大学東洋学部上級講師のシャダエヴァ・マディナ氏である。二ノ宮氏は、筑波大学大学院で一般言語学を専攻され、「ジッパリー語のプロソディーに関する音響音声学の記述」というテーマで博士号を取得したセム語学の専門家である。2014年5月にアルファラビ・カザフ国立大学に着任されて以来、日本語学・日本語教育学、日本研究の分野で研究と教育の双方の活動に携わっている。同氏は、日本語教員として教鞭を取る傍ら、2014年9月に同大学準備学部予科(カザフ語専攻)に入学し、2年間カザフ語文法の基礎を習得された後、独自にカザフ語を言語学と言語教育学の観点から研究している。

本書の翻訳については、二ノ宮氏が中心となり、シャダエヴァ・マディナ氏と共同で全体の下訳をつくり、それを白山が訳文の表現、専門用語の訳し方など、一つ一つ詳細に検討し、適宜修正や加筆について提案と助言を行いながら、二ノ宮氏と慎重に議論を重ねて最終的な訳を確定するという作業を行なった。特に、原書がソヴィエト言語学における音声学の伝統に則って書かれており、カザフ語の音声学的解説において、カザフ語の音声表記が国際音声字母ではなく、キリル文字をそのまま使用していた。本書はこの特殊性を克服する目的で、キリル文字表記を避け、国際音声字母による表記を採用した。このことによって、日本の読者の理解を大きく助けることができたものと確信する。

また、白山の発案で、JSPS 基盤研究 C(研究代表者：白山利信、課題番号:20K00770、「社会実装のための多様な「やさしい言語」に関する総合的研究」)による研究成果、基盤研究 C(研究代表者：岡本能里子、課題番号:20K00732、「医療機関におけるわかりやすいサインを考えるービジュアル・リテラシーの視点からー」)による研究成果、日本言語政策学会多言語対応研究会の研究成果を本書の内容に組み込むことで、従来にないタイプのカザフ語文法の教材を生み出すことを目指した。具体的には、大規模災害などの緊急時に役立つ「やさしい日本語」の理念(防災・減災)、言語形式としての工夫や機能などを世界各国の言語使用状況の文脈に合わせた「やさしい〇〇語」として発信・提供し、当該社会での実装化の可能性を探究した。本書においては、カザフ語を事例として、長年カザフスタンで暮らす二ノ宮崇司氏の、外国人住民としての視点から「やさしいカザフ語」の実装化の第一歩として、「やさしいカザフ語」の教材づくりを進めるための具体的な構想を論じた論考を補足資料 1 として掲載した。ここでは、二ノ宮氏と白山の間で継続的に行なってきた「やさしい言語」の社会実装化に関する議論のエッセンスが散りばめられている。例えば、「やさしい日本語」の場合の「やさしさ」は外国人住民の視点に立った日本語表現の理解を助ける工夫として現れている。具体的には、災害時によく使われる言葉の使用、分かち書き、簡単な語、漢字にルビ、ローマ字・カタカナ外来語・オノマトペの不使用、動詞の名詞化・二重否定文の回避等である。「やさしい〇〇語」の場合、各言語の言語系統、文字の表記体系、発音の体系、文法の体系などの特性は日本語のそれとは基本的に異なるため、また多種多様な出身国・地域の外国人住民の使用するそれぞれの母語または第一言語と当地の公的な言語との親和性の程度も多様であるため、各

言語の「やさしさ」をどこに求めてどの点を表現上工夫するのかについては、それぞれの言語の特性と社会的目的によって、また主にどのような外国人住民を対象にするのか等によって多様化かつ柔軟に変化する。ロシア語を例に取ると、「やさしいロシア語」と言っても、ロシア語の文字体系であるキリル文字にはひらがなもカタカナも漢字もないので、日本語のように文字上の工夫で「やさしさ」を追求することはできない。一方、複文を避けて単文による表記のルール、専門用語を平易な言い方に変えること、オノマトペの不使用などは普遍的に使える。二ノ宮氏は、その論考の中で主に日本人をイメージした外国人住民を対象として、さらにカザフスタンという社会的文脈に特化した「やさしいカザフ語」の実装化という目的に立った言語的な表現方法や非言語的な情報伝達方法などを提案している。

「やさしいカザフ語」は、在留外国人、特にカザフスタンに駐在する日本人とその家族にとって、事故、災害やトラブルなどの窮地から何とかして脱するという即時的な効果が高いものである。しかし、現地での定住生活が長くなるに従って、カザフ語を体系的に理解したい、自ら考えた内容をカザフ語で表現したい、そのために現代カザフ語の文法規則をわかるようになりたいという気持ちが強くなるのでないか。即効性が高いものの、言語体系の理解の薄い言語学習からより深い言語体系の理解に基づく言語学習への意欲的かつ内発的な意識の転換に対応したカザフ語教材の開発をあえて狙ったのが本書である。

岡本氏の研究の関連では、カザフスタン社会で広く用いられているピクトグラムを補足資料 4 として巻末に掲載した。言うまでもなく、ピクトグラムは必ずしも世界共有ではない。日本社会で見慣れているピクトグラムとよく似ていて類推が容易なものもある。しかし、国や社会が異なれば、ピクトグラムの表す意味をまったく想像できないものも多々ある。その地の外国人住民が、当該のピクトグラムの意味を知らないことで、何らかの不利益等を被ることもあるかもしれない。例えば、補足資料 4 の「カザフスタンの生活で役に立つピクトグラム」の中にウサギのデザインが施されたピクトグラムがある。これが意味するところは、ウサギが道を横切るから注意なさいという意味ではない。無賃乗車厳禁という意味である。ロシア語で直訳すると、「ウサギのように乗る ехать зайцем」という表現があり、「無賃乗車する」という意味の慣用句である。そこからウサギのデザインが出てきているわけである。このロシア語の慣用表現を知らなければ、このピクトグラムの意味はわからない。ピクトグラムは目から重要な情報を入手する。カザフスタンの「薬局」の意味はかろうじて類推できるが、「病院」、「警察」、「銀行」のピクトグラムは一般の日本人には知識がなければ、おそらくほとんどそれらの意味を理解することはできないだろう。二ノ宮氏の、カザフスタン社会での実用性や言語外現実を徹底的に重視した、言葉に頼らない情報伝達方法を駆使した上で「やさしいカザフ語」を併用することの効果を強調している点は、非常に重要な示唆を含んでいる。この言葉に頼らない情報伝達の重要性を踏まえて、それらをあえて本書に組み込むことの

学習効果を意識し、補足資料2～5の巻末掲載を臼山が指示・提案し、二ノ宮氏がその下準備資料を作成した。そして、それらの詳細を臼山と二ノ宮氏で議論して最終的な補足資料の内容を確定した。

本書を刊行することで、①現代カザフ語文法に関する体系的な理解を促進し、②(事故・急病・防災・減災を含む)日常生活のための「やさしいカザフ語」開発の具体的なビジョンの提示による「やさしい言語」実装化の標準化に向けた土台づくりを一步進め、③補足資料「緊急時における病気関連の主要な用語」、「カザフスタンの主要な緊急連絡先」、「カザフスタンの生活で役に立つピクトグラム」の3つをカザフ語文法の教材に入れることで「やさしい言語」の理念を活かし、当該言語の体系を深く学び、実践的な使用にも耐えうる、従来にない新しいタイプの教材を刊行することができたものと考えている。

最後に、カザフスタンでの語学研修(カザフ語、ロシア語)、中級レベルのカザフ語言語運用能力の獲得を目指す大学の授業活動、さらにカザフスタンに駐在するビジネスマンのためのカザフ語研修などにおいて、教員、学生、そして社会人に本書を必要に応じて柔軟に活用していただきたいと願っている。

2025年3月8日

翻訳版監修者 臼山 利信

目次

1. はじめに.....	2
2. 音声学・音韻論.....	6
2.1 母音.....	6
2.2 子音.....	6
2.3 母音調和.....	7
2.4 唇の調和.....	9
2.5 音の調和.....	10
2.5.1 順行同化.....	10
2.5.2 逆行同化.....	15
2.5.3 相互同化.....	20
3. 形態論.....	21
3.1 接辞.....	21
3.1.1 接辞の配列.....	21
3.1.2 複数性の接辞.....	21
3.1.3 所有の人称接辞.....	21
3.1.4 格の範疇.....	23
3.1.5 人称接辞.....	25
3.2 名詞類.....	27
3.2.1 名詞.....	27
3.2.2 形容詞.....	28
3.2.2.1 形容詞の形成.....	29
3.2.2.1.1 形態論的方法による形成.....	29
3.2.2.1.1.1 名詞派生の形容詞.....	29
3.2.2.1.1.2 動詞派生の形容詞.....	30
3.2.2.1.2 統語論的方法による形成.....	31
3.2.2.2 形容詞の比較の程度.....	32
3.2.3 数詞.....	33
3.2.3.1 数詞の種類.....	34
3.2.3.2 順序数詞.....	34
3.2.4 代名詞.....	35
3.2.4.1 人称代名詞の格変化.....	36
3.2.4.2 指示代名詞.....	37
3.2.4.2.1 指示代名詞の格変化.....	37

3.2.4.2.2	人称接辞が付加された指示代名詞.....	38
3.2.4.3	再起代名詞の格変化.....	38
3.3	動詞類.....	39
3.3.1	動詞.....	39
3.3.1.1	態.....	41
3.3.1.2	動詞の否定.....	42
3.3.1.3	現実過去.....	42
3.3.1.4	法.....	44
3.3.1.4.1	条件法.....	44
3.3.1.4.2	命令法.....	45
3.3.1.4.3	願望法.....	47
3.3.1.5	副動詞.....	49
3.3.1.5.1	過去の伝聞.....	49
3.3.1.5.2	未完了の継続.....	51
3.3.1.5.3	進行的現在の通常形.....	53
3.3.1.5.4	進行的現在の複合形.....	55
3.3.1.6	形動詞.....	57
3.3.1.6.1	過去の経験.....	57
3.3.1.6.2	過去の習慣.....	59
3.3.1.6.3	未来の予測.....	62
3.3.1.6.3.1	未来の予測の肯定形.....	62
3.3.1.6.3.2	未来の予測の否定形.....	64
3.3.1.6.4	未来への意思.....	66
3.4	名詞類、動詞類以外の品詞.....	68
3.4.1	副詞.....	68
3.4.2	機能語.....	70
3.4.2.1	接続の機能語.....	70
3.4.2.2	格支配を伴う機能語.....	71
3.4.2.3	補助的機能語.....	72
3.4.2.3.1	疑問の機能語.....	72
3.4.2.4	擬音・擬態語.....	73
3.4.2.5	間投詞.....	74
付録 A	世界におけるカザフ人の数.....	76
付録 B	語彙集 (カザフ語・ロシア語・日本語)	78

補足資料「やさしいカザフ語」開発のための資料／二ノ宮崇司、臼山利信.....	91
1 『カザフスタンに暮らす日本人ビジネス関係者向けのカザフ語：日常生活のためのやさしいカザフ語とビジネスカザフ語』の執筆に向けて.....	92
2 緊急時における病気関連の主要な用語 (カザフ語・日本語).....	107
3 カザフスタンの主要な緊急連絡先.....	109
4 カザフスタンの生活で役に立つピクトグラム.....	110
5 カザフスタンの地図.....	111

カザフ語文法の手引き

トウユメバエフ・ジャンセイト・カンセイトル

1. はじめに

カザフ語 (қазақ тілі) はカザフスタン共和国の先住民であるカザフ人およびカザフスタン共和国以外の地域 (ロシア、ウズベキスタン、中国、モンゴルなど) に住むカザフ人の言語である。カザフ語はカザフスタン共和国の国家語である。カザフ語はテュルク諸語 (түркі тілдері) のうち、主に北部地域に分布するキプチャク語群 (タタール語、バシキール語、カラシャイ・バルカル語、クムク語、カライム語、クリミア・タタール語、カラカルバク語、ノガイ語) に属する。カザフ語は特にノガイ語やカラカルバク語と近い関係にある。キプチャク語群の範囲は東ヨーロッパの北クリミア、ヴォルガ川の下流域と北コーカサス、カザフスタン、ホラズムの一部、カラカルバクスタン、ウズベキスタンの一部にまで及ぶ。

カザフ語の表記は幾つかの変遷を経てきた。1929 年まではアラビア文字、1929 年から 1940 年まではラテン文字が使われた。1940 年から現在までのところ、ロシア語の文字 (キリル文字) が用いられている。現代カザフ語のアルファベット (әліпби) は、42 文字から構成されている。そのうち、a [a], ә [æ], o [o], ө [ø], ы [ɯ], і [i], у [u], ұ [ʊ], ү [y], э [ɛ], и [i], ю [ju], я [ja], е [e], ё [jo] の 15 文字が母音を表し、б [b], в [v], г [g], ғ [ɣ], д [d], ж [ʒ], з [z], й [j], к [k], қ [q], л [l], м [m], н [n], ң [ŋ], п [p], р [r], с [s], т [t], ф [f], х [x], ц [ts], ч [tʃ], ш [ʃ], щ [ʃʃ], һ [h] の 25 文字が子音を表す。それに加えて、硬音記号 (жуандық белгі) の -ъ と軟音記号 (жіңішкелік белгі) の -ь も用いられる。

ロシア語に見られないカザフ語独自の音 (дыбыс) は ә [æ], ө [ø], ұ [ʊ], ғ [ɣ], и [i], қ [q], ғ [ɣ], н [ŋ], һ [h] である。カザフ語のアクセント (екпін) は通常、語 (сөз) の最後の音節 (буын) に置かれる。後舌母音 (жуан「太い」という意味) がある音節の子音 (дауыссыз дыбыс) は太い、つまり後寄りになる場合がある。調音位置が後寄りになる子音というのは к [q], ғ [ɣ] のことであり、これらの子音は後舌母音と共に共起する。一方、前舌母音 (жіңішке「細い」という意味) がある音節の子音は細い、つまり前寄りになる²。調音位置が前寄りになる子音というのは к [k], г [g] のことであり、これらの子音は前舌母音と共に現れる。

カザフ語において物の所有者を表す場合、代名詞 (есімдік) だけでなく、所有の人称接辞 (тәуелдік жалғау) も使われる。

- менің бала-м 「私の息子」
- сенің дәптер-ің 「君のノート」
- оның дәптер-і 「彼のノート」

カザフ語には前置詞 (предлог) がない。ロシア語の前置詞の意味内容はカザフ語において通常、「格支配を伴う機能語」(септеулік шылау) と「格の接辞」(септік жалғау) の意味内容に対応する。なお、この「格支配を伴う機能語」は前置詞との対応関係からロシア語では послелог (後置詞) と訳

² 二ノ宮・シャダエヴァ (2024) は жуан を太母音、жіңішке を細母音と訳した (二ノ宮崇司・Shadayeva Madina (2024) 『実践カザフ語入門: 第2版 増補版』筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター)。

される。以下の最初の文のうち、Мұратқа の -қа が日本語の「に」を意味する格の接辞である。一方、2つ目の文のうち、үшін が「のために」を表す機能語である。

- Мұратқа алдым – Купил для Мурата 「私はムラトに買った」
- балалар үшін – для детей 「子供達のために」

また、たとえ名詞 (зат есім) の前に数詞 (сан есім) が付いていても、その名詞は複数性の接辞 (көптік жалғау) を取らない。

- бес студент 「5人の学生」 ※бес студенттер とはならない
- он оқушы 「10人の生徒」 ※он оқушылар とはならない

カザフ語の数詞と形容詞 (сын есім) は名詞の前に置かれる限定詞 (анықтауыш) としての役割を果たす。ロシア語と異なり、カザフ語の形容詞においては、数の変化が起きず、格変化 (септелу) も起きない。

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| • жақсы кітап – хорошая книга | 「良い本 (が)」 |
| • жақсы кітаптар – хорошие книги | 「良い本 (複数) (が)」 |
| • жақсы кітапты – хорошую книгу | 「良い本を」 |
| • үш оқушы – три ученика | 「3人の生徒 (が)」 |
| • үш оқушыға – трем ученикам | 「3人の生徒に」 |
| • екінші бөлме – вторая комната | 「2番目の部屋 (が)」 |
| • екінші бөлмені – вторую комнату | 「2番目の部屋を」 |

カザフ語にはロシア語のような性 (род) の範疇がない。そのためカザフ語の形容詞、順序数詞 (реттік сан есім)、代名詞をロシア語に翻訳する際、ロシア語の名詞で区別される男性、女性、中性という属性を考慮しなければならない。

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| • үлкен үй – большой дом (男) | 「大きな家」 |
| • үлкен бөлме – большая комната (女) | 「大きな部屋」 |
| • үлкен терезе – большое окно (中) | 「大きな窓」 |
| • біздің үй – наш дом (男) | 「我々の家」 |
| • біздің мектеп – наша школа (女) | 「我々の学校」 |
| • біздің көл – наше озеро (中) | 「我々の湖」 |
| • екінші сынып – второй класс (男) | 「2番目のクラス」 |
| • екінші көше – вторая улица (女) | 「2番目の通り」 |
| • екінші орын – второе место (中) | 「2番目の席」 |

カザフ語はロシア語と異なり、名詞という品詞 (сөз таптары) において人称 (жак) の変化が起きる。即ち、一人称、二人称、三人称で接辞の種類が異なる。また単数 (жекеше) と複数 (көпше) でも違いがあり、カザフ語は次のような活用変化 (жіктелу) を示す。

<単数>

- 一人称 Мен оқушымын – Я ученик 「私は生徒である」
- 二人称 (普通) Сен оқушысың – Ты ученик 「君は生徒である」
- 二人称 (丁寧) Сіз оқушысыз – Вы ученик 「あなたは生徒である」
- 三人称 Ол оқушы – Он ученик 「彼は生徒である」

<複数>

- 一人称 Біз оқушымыз – Мы ученики 「我々は生徒である」
- 二人称 (普通) Сендер оқушысыңдар – Вы ученики 「君達は生徒である」
- 二人称 (丁寧) Сіздер оқушысыздар – Вы ученики 「あなた達は生徒である」
- 三人称 Олар оқушы(лар) – Они ученики 「彼らは生徒である」

上にある Мен や Сен といった人称活用の代名詞 (жіктеу есімдігі) を示すことはカザフ語において義務的でない。なぜなら人称の接辞 (жіктік жалғауы) が何人称であることを示すからである。カザフ語はロシア語と異なり、кім? 「誰?」という問いは人 (адамзат) に対してのみ使われる。生物 (жанды) を含んだ人以外の名詞に対しては、не? 「何?」という問いが立てられる。

- Кім? – Әке 「誰? – 父です」
- Не? – Ат 「何? – 馬です」

形容詞は名詞化 (заттану) する。その名詞化したものでも人称変化が起きる。さらに、その名詞化された語は所有性の接辞を取るだけでなく、格変化もする。

- 一人称 Мен жақсымын 「私は元気である」
- 二人称 Сен жақсысың 「君は元気である」
- 三人称 Ол жақсы 「彼は元気である」
- 一人称 Менің көріктім 「私の美人」
- 二人称 Сенің көріктің 「君の美人」
- 三人称 Оның көріктісі 「彼の美人」

- **жаксы** 「善 (が)」
- **жаксының** 「善の」
- **жаксыға** 「善に」
- **жаксыны** 「善を」
- **жаксыда** 「善において」
- **жаксыдан** 「善から」
- **жаксымен** 「善と」

形動詞 (есімше) が限定詞として名詞の前に来る場合、ロシア語のように格の変化も数の変化も起かない。

- **келген кісі** – **приехавший человек** 「来た人 (が)」
- **келген кісілер** – **приехавшие люди** 「来た人達 (が)」
- **келген кісіні** – **приехавшего человека** 「来た人を」

数詞である基数詞 (есептік) と順序数詞 (реттік) が限定詞として名詞の前に置かれる。カザフ語の名詞は、ロシア語と異なり、数の変化が起きず、格変化も起かない。

- **бір үй** – **один дом** 「1つの家 (が)」
- **бірінші үй** – **первый дом** 「最初の家 (が)」
- **бір үйде** – **в одном доме** 「1つの家で」
- **бірінші балаға** – **первому мальчику** 「最初の子供に」

2. 音声学・音韻論

2.1 母音 (дауысты дыбыс)

発声する際、声帯から何も妨げられることなく、空気を放出することによって生じる音を母音と呼ぶ。カザフ語の母音は а [a], ә [æ], о [o], ө [ø], е [e], ұ [u], ү [y], ы [ɯ], і [i], и [i] (, у [u]) である。このうちロシア語に見られないカザフ語固有の母音は ә [æ], ө [ø], ұ [u], ү [y], і [i] である。

1.	舌 (тіл) の位置	後舌・太い (жуан)	а [a], о [o], ұ [u], ы [ɯ], у [u]
		前舌・細い (жіңішке)	ә [æ], ө [ø], ү [y], і [i], е [e], и [i]
2.	唇 (ерін) の状態	円唇性 (еріндік)	о [o], ө [ø], ұ [u], ү [y], у [u]
		非円唇性 (езулік)	а [a], ә [æ], ы [ɯ], і [i], е [e], и [i]
3.	顎 (жақ) の状態 ※開口の度合い	広い (ашық)	а [a], ә [æ], о [o], ө [ø], е [e]
		狭い (қысаң)	ұ [u], ү [y], ы [ɯ], і [i], и [i], у [u]

2.2 子音 (дауыссыз дыбыс)

発声の際、空気が遮られて出る音を子音と呼ぶ。カザフ語の子音には б [b], в [v], г [g], ғ [ɣ], д [d], ж [ʒ], з [z], ı [j], к [k], қ [q], л [l], м [m], н [n], ң [ŋ], п [p], р [r], с [s], т [t], ф [f], х [h], ц [ts], ч [ʧ], ш [ʃ], щ [ʃʃ], һ [h], ь [w]) といったものがある。このうち、ロシア語に見られないカザフ語特有の子音は қ [q], ғ [ɣ], ң [ŋ], һ [h] である。以下、音の阻害度 (салдыр)、阻害の構成位置 (жасалу орны)、発生の方法 (айтылу жолы) の点から、子音を分類する。

<I. 音の阻害度による分類>

1. 無声子音 (қатаң)	п [p], ф [f], к [k], қ [q], т [t], с [s], ш [ʃ], щ [ʃʃ], х [x], ц [ts], ч [ʧ]	
2. 有声子音 (ұян)	б [b], в [v], г [g], ғ [ɣ], д [d], ж [ʒ], з [z]	
3. 共鳴音 (үнді)	1. 鼻腔性 (мұрын жолды)	м [m], н [n], ң [ŋ]
	2. 口腔性 (ауыз жолды)	л [l], р [r], й [j], у [w]

<II. 阻害の構成位置による分類>

1. 唇性 (еріндік)	1. 唇	п [p], б [b], м [m], у [w]
	2. 唇歯 (ерін мен тіс)	ф [f], в [v]
2. 舌性 (тіл)	1. 前舌性 (тіл алды)	т [t], д [d], с [s], з [z], ц [ts], ң [n], р [r], л [l], ш [ʃ], щ [ʃʃ], ж [ʒ], ч [ʧ], ı [j]
	2. 中舌性 (тіл ортасы)	к [k], г [g]
	3. 後舌性 (тіл арты)	қ [q], ғ [ɣ], ң [ŋ], х [x]
3. 喉頭性 (көмейлік)	һ [h]	

<III. 発声の方法による分類>

1. 破裂音、破擦音、鼻音 (шұғыл)	п [p], б [b], т [t], д [d], к [k], г [g], қ [q], ц [ʦ], ч [ʧ], м [m], н [n], ң [ŋ]
2. 摩擦音、接近音 (ызың)	ф [f], в [v], з [z], с [s], ж [ʒ], ш [ʃ], щ [ʃʃ], х [x], ғ [ɣ], һ [h], л [l], й [j]
3. ふるえ音 (діріл)	р [r]

2.3 母音調和 (буын үндестігі)

カザフ語固有の語 (сөз) は後舌あるいは前舌母音によって音節 (буын) の母音が統一される。これを母音調和と言う。母音調和の規則は кі-тап [kɪtɑp] 「本」や мұ-ғалім [mʊɣɑlɪm] 「教師」のような外来語 (кірме сөз) において必ずしも当てはまらない。母音調和の規則は次の通りである。なお、本書における√ の記号の内部の音は語根・語幹 (түбір) を成す音に対応していることを示す。

<規則 1 単語の最初の音節が後舌母音の場合、次の音節も後舌母音になる>

√ 後舌母音 + 後舌母音

- қа + ғаз 「紙」
[qɑ] + [ɣɑz] → [qɑɣɑz]
- ба + ла 「子供」
[ba] + [la] → [bala]

<規則 2 語根・語幹の最終音節が後舌母音の場合、接辞 (қосымша) の母音も後舌母音になる>

√ 後舌母音 + 後舌母音

- қағаз + ды 「紙+を」
[qɑɣɑz] + [dɯ] → [qɑɣɑzdɯ]
- бала + лар 「子供+達」
[bala] + [lar] → [balaɫar]

<規則 3 単語の最初の音節が前舌母音の場合、次の音節も前舌母音になる>

√ 前舌母音 + 前舌母音

- те + ре + зе 「窓」
[te] + [re] + [ze] → [tereze]
- ең + бек 「労働」
[ʲeŋ] + [bek] → [ʲeŋbek]

<規則 4 語根・語幹の最後の音節が前舌母音の場合、接辞も前舌母音になる>

前舌母音 + 前舌母音

- тереze + re 「窓+に」
[tereze] + [ge] → [terezege]
- еңбек + тиң 「労働+の」
[eŋbek] + [tɯŋ] → [eŋbektɯŋ]

次に母音調和の例外を挙げる。

<例外 1 語根・語幹の最後の音節が後舌母音であるか前舌母音であるかに関係なく、母音を保持する接辞がある> ※以下の -геп [ger], -кер [ker] 「～の人」、-дар [dar] 「～のある (形容詞化)」、-паз [paz] 「～を使った、～の職人」といった接辞は直前の母音の影響を受けない。

後舌母音 +
前舌母音

-геп [ger], -кер [ker] 「～の人」 сау <u>да</u> + геп [saw <u>da</u> ger] 「商人 (сауда 商売)」、ай <u>ла</u> + кер [aj <u>la</u> ker] 「ずるがしこい人 (айла 方法)」、 <u>ic</u> + кер [<u>i</u> sker] 「ビジネスマン (ic 仕事)」
-дар [dar] 「～のある」 жа <u>ра</u> + дар [zar <u>a</u> dar] 「ケガのある (жара ケガ)」、би <u>лім</u> + дар [bıl <u>i</u> mdar] 「知識のある・博学な (білім 知識)」
-паз [paz] 「～を使った、～の職人」 <u>ас</u> + паз [a <u>s</u> paz] 「コック (ас 食事)」、ө <u>неp</u> + паз [ө <u>ne</u> rpaz] 「熟練工 (өнер 技術)」
-пен [pen], -бен [ben], -мен [men] 「～で、～を使って」 <u>қол</u> + мен [qo <u>l</u> men] 「手で (қол 手)」、 <u>жеp</u> + мен [ze <u>m</u> men] 「土地を使って (жеp 土地)」
-хана [xana] 「～の場所」 <u>ем</u> + хана [e <u>m</u> xana] 「診療所 (ем 治療)」、ау <u>ру</u> + хана [aw <u>ru</u> xana] 「病院 (ауру 病気)」
-қор [qor] 「～を求めるような」 жа <u>ла</u> + қор [za <u>la</u> qor] 「中傷的な (жала 中傷)」、 <u>жеm</u> + қор [ze <u>m</u> qor] 「貪欲な・収賄するような (жеm 餌)」
-нікі [niki], -дікі [diki], -тікі [tiki] 「～のもの」 <u>әкеm</u> + дікі [æ <u>ke</u> mdiki] 「私の父のもの (әкеm 私の父)」、ба <u>ла</u> + нікі [ba <u>la</u> niki] 「子供のもの (бала 子供)」

<例外 2 語根・語幹が -x [x] で終わる場合、その直後の接辞の母音は後舌母音である>

$\sqrt{x [x]}$ + 後舌母音

- цех + та 「作業場+で」
[tsex] + [ta] → [tsexta]
- цех + ка 「作業場+に」
[tsex] + [qa] → [tsexqa]

<例外 3 最後が -ог [og], -уг [ug], -рк [rk], -рг [rg], нк [ŋk], нг [ŋg], кс [ks], кт [kt], ск [sk], лк [lk], нкт [ŋkt], кль [kɬ], брь [brʲ], бль [bɬ] のような音の組み合わせで終わる語根・語幹に付く接辞は常に前舌母音になる>

$\sqrt{\begin{matrix} -ог [og], -уг [ug], -рк [rk], -рг [rg], \\ -нк [ŋk], -нг [ŋg], -кс [ks], -кт [kt], \\ -ск [sk], -лк [lk], -нкт [ŋkt], \\ -кль [kɬ], -брь [brʲ], -бль [bɬ] \end{matrix}}$ + 前舌母音

- педагог + ти 「教育者+を」
[pedago:k] + [ti] → [pedago:kti]
- парк + ке 「公園+に」
[park] + [ke] → [park'ke]

2.4 唇の調和 (epin үндөстүгү)

以下に唇の調和の規則を挙げる。

<規則 1 最初の音節に円唇性の о [o], ү [u] という母音が現れる場合、次の音節の狭い ы [ɨ] も円唇性の [u] になる>

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|----------|
| $\sqrt{o [o], ү [u]}$ + ы [ɨ] | → $\sqrt{o [o], ү [u]}$ + ы [u] | |
| • о + рын | → орын | 「席」 |
| [o + rɨn] | [orɨn] | |
| • кү + лын | → күлын | 「子馬」 |
| [qu + lɨn] | [qulɨn] | |
| $\sqrt{o [o], ү [u]}$ + ы [ɨ] | → $\sqrt{o [o], ү [u]}$ + ы [u] | |
| • той + ды | → тойды | 「それが満ちた」 |
| [toj] + [dɨ] | [tojdu] | |
| • түр + ды | → түрды | 「彼が立った」 |
| [tur] + [dɨ] | [turdɨ] | |

<規則 2 最初の音節に円唇性の ө [ø], ү [y] という母音が現れる場合、次の音節の狭い и [ɨ] も円唇性の [y] になる>

$\sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{i} [\text{i}]}$	$\rightarrow \sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{i} [\text{y}]}$	
• ө + мір	$\rightarrow \text{өмір}$	「人生」
[ø + mɪr]	[ømyr]	
• γ + мір	$\rightarrow \gamma\text{мір}$	「希望」
[y + mɪr]	[ymyt]	
$\sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{i} [\text{i}]}$	$\rightarrow \sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{i} [\text{y}]}$	
• өш + ті	$\rightarrow \text{өшті}$	「それが消えた」
[øʃ] + [ti]	[øʃty]	
• күл + ді	$\rightarrow \text{күлді}$	「彼が笑った」
[kyl] + [di]	[kyldy]	

<規則 3 最初の音節の母音が円唇性の ө [ø] と γ [y] である場合、次の音節の狭い е [e] も円唇性の [ø] になる>

$\sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{е} [\text{e}]}$	$\rightarrow \sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{е} [\text{ø}]}$	
• ө + лең	$\rightarrow \text{өлең}$	「詩」
[ø + leŋ]	[øleŋ]	
• кү + рек	$\rightarrow \text{күрек}$	「スコップ」
[ky + rek]	[kyrøk]	
$\sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{е} [\text{e}]}$	$\rightarrow \sqrt{\text{ө} [\text{ø}], \gamma [\text{y}] + \text{е} [\text{ø}]}$	
• көр + се	$\rightarrow \text{көрсе}$	「彼が見るなら」
[kør] + [se]	[kørsø]	
• күл + се	$\rightarrow \text{күлсе}$	「彼が笑うなら」
[kyl] + [se]	[kylsø]	

2.5 音の調和 (дыбыс үндестігі)

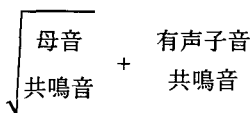
語根・語幹と接辞の間で、あるいは単語と単語の間で隣り合った音が互いに影響し合い、適合しあうことを音の調和と言う。日本語では同化と言われる。音の調和は以下の3種類である。

1. 順行同化 (ілгерінді ықпал)
2. 逆行同化 (кейінді ықпал)
3. 相互同化 (тоғыспалы ықпал)

2.5.1 順行同化

順行同化とは前の音にあわせて、後続の音を変化させることである。以下に順行同化が起きる規則と例外を示す。まず、語根・語幹が母音または共鳴音で終わる状況から述べる。

<規則 1 語根・語幹が母音または共鳴音で終わる場合、接辞の最初の子音は有声子音あるいは共鳴音になる>



- бала + ға 「子供+に」
[bala] + [ɣa] → [balax]
- бала + мен 「子供+と」
[bala] + [men] → [balamen]
- қол + ды 「手+を」
[qol] + [dɯ] → [qoldɯ]
- қол + мен 「手+で」
[qol] + [men] → [qolmen]

次に規則 1 の例外を示す。

＜例外 1 語根・語幹が母音あるいは共鳴音で終わる場合であったとしても、無声子音の с [s] と ш [ʃ] は有聲化しない＞ ※つまり、с [s] は з [z] のように、また ш [ʃ] は ж [ʒ] のようにならない。

- бала + сыз 「子供のない (бала 子供、-сыз ~のない)」
[bala] + [sɯz] → [balasɯz]
- бала + ша 「子供のよう (бала 子供、-ша ~のよう)」
[bala] + [ʃa] → [balaʃa]
- бар + са 「彼が行くなら (бар-行く、-са 彼が~するなら)」
[bar] + [sa] → [barsa]
- бар + сын 「彼が行くように (бар-行く、-сын 彼が~するよう)」
[bar] + [sɯ] → [barsɯ]
- бар + шы 「どうか行ってよ (бар-行く、-шы どうか~してよ)」
[bar] + [ʃɯ] → [barʃɯ]
- ойын + шық 「おもちゃ (ойын 遊び、-шық ちょっとした~)」
[ojɯn] + [ʃɯq] → [ojɯnʃɯq] ※н は [ɲ] になる。

＜例外 2 母音と共鳴子音 の л [l], р [r], й [j], н [n] の後に、(使役の) 態 (etic) を示す т [t] という派生接辞 (жұрнақтар) が接続しうが、その -т- [t] は有聲化しない＞

- қара-т-у 「見させる (қарау 見る)」
[qara]-[t]-[u] → [qaratu]
- қарай-т-у 「暗くする (қараю 暗くなる)」
[qaraj]-[t]-[u] → [qarajtu]
- түрлен-т-у 「変える (түрлену 変わる)」
[tyrlen]-[t]-[u] → [tyrlentu]
- қызар-т-у 「赤くする (қызару 赤くなる)」
[quzar]-[t]-[u] → [quzartu]

<例外3 派生接辞である -қор [qor], -кеш [keʃ], -күнем [kynem], -паз [paz], -хана [xana], -тай [taj] においても、接辞の始まりの無声子音は有声化しない>

- жала + қор 「中傷的な (жала 中傷、-қор ～を求めるような)」
[ʒala] + [qor] → [ʒalaqor]
- арба + кеш 「御者 (арба 馬車・乗り物、-кеш ～の人)」
[arba] + [keʃ] → [arbakeʃ]
- пайда + күнем 「利益しか考えない人・詐欺師 (пайда 利益、-күнем ～の人)」
[paɪda] + [kynem] → [paɪdakynem]
- өнер + паз 「熟練工 (өнер 技術、-паз ～の職人)」
[øner] + [paz] → [ønerpaz]
- ем + хана 「診療所 (ем 治療、-хана ～の場所)」
[ʲem] + [xana] → [ʲemxana]
- әке + тай 「父ちゃん (әке 父、-тай ～ちゃん)」
[æke] + [taj] → [æketaj]

次に語根・語幹あるいは単語が有声子音で終わる状況を述べる。

<規則2 語根・語幹が有声子音で終わる場合、接辞は有声子音で始まる>

$\sqrt{\text{有声子音} + \text{有声子音}}$

- қыз + дар 「娘+達」
[qɯz] + [dar] → [qɯzdar]
- қыз + ға 「娘+に」
[qɯz] + [ʁa] → [qɯzʁa]
- тәж + ді 「王冠+を」
[tæʒ] + [dɪ] → [tæʒdɪ]

以下、規則2の例外を示す。

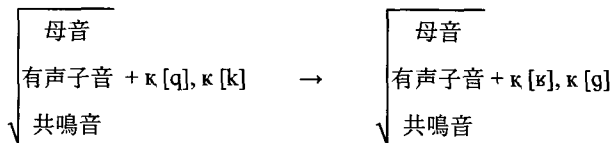
<例外4 語根・語幹が有声子音の б [b], в [v], г [g], д [d] で終わる場合、接辞の最初の子音は無声子音になり、有声子音にはならない> ※ただし、語根・語幹終わりの б [b] は [p] と、в [v] は [f] と、г [g] は [k] と、д [d] は [t] と発音される。

$\sqrt{\begin{matrix} б [b], \\ в [v], \\ г [g], \\ д [d] \end{matrix} + \text{無声子音}}$

- клуб + қа 「クラブ+に」
[klup] + [qa] → [klupqa]
- Болатов + қа 「ボラトフ (人名) +に」
[bolatof] + [qa] → [bolatofqa]
- педагог + пен 「教育者+と」
[pedago:k] + [pen] → [pedago:kpen]
- отряд + тан 「部隊+から」
[etria:t] + [tan] → [etria:t`tan]

語根・語幹から接辞への影響だけでなく、単語が後続の単語に与える影響を指摘する。

<規則 3 単語と単語のうち、最初の単語が母音、有声子音あるいは共鳴子音で終わり、次の単語の最初が無声子音の к [q], к [k] で始まる場合、к は [ɣ], к は [g] のように有声化する>



規則 3-1 2つの単語が統合された語 (біріккен сөз) における変化の例

- Қара + көз → Қаракөз 「カラクズ (人名) (қара 黒い、көз 目)」
[qara] + [köz] → [qaragöz]
- Талды + қорған → Талдықорған 「タルドゥコルガン (地名) (талды ヤナギの、қорған 城)」
[taldı] + [qorqan] → [taldıqorqan]

規則 3-2 句 (сөз тіркесі) 間の変化の例

- күз келді 「秋が来た (күз 秋、келу 来る)」
[kyz] [keldi] → [kyz geldi]
- бір қатар 「幾つかの (бір 1、қатар 列)」
[bir] [qatar] → [bir ɣatar]
- жау қайда? 「敵はどこ? (жау 敵、қайда どこ)」
[zaw] [qajda] → [zaw ɣajda]

最後に、語根・語幹あるいは単語が無声子音で終わる状況を述べる。

<規則 4 語根・語幹が無声子音で終わる場合は、接辞は無声子音で始まる>

$$\sqrt{\text{無声子音} + \text{無声子音}}$$

- **китап + тар** 「本 (複数)」
[kɪtɑp] + [tɑr] → [kɪtɑptɑr]
- **дос + қа** 「友人+に」
[dos] + [qɑ] → [dosqɑ]

<規則 5 語根・語幹が ш [ʃ] の音で終わり、後続する接辞が с [s] の音で始まる場合、с [s] は [ʃ] と発音される>

$$\sqrt{\text{ш [ʃ]} + \text{с [s]}} \rightarrow \sqrt{\text{ш [ʃ]} + \text{с [ʃ]}}$$

- **каш + са** → **кашса** 「彼が逃げるなら (каш- 逃げる、-са 彼が～するなら)」
[qɑʃ] + [sa] → [qɑʃsa]
- **иш + сін** → **ишсін** 「彼が飲むように (иш- 飲む、-сін 彼が～するように)」
[ɪʃ] + [sɪn] → [ɪʃsɪn]

<規則 6 2つの単語のうち、前の単語が無声子音で終わり、次の単語が有声子音の б [b] で始まる場合、б [b] は無声子音の [p] と発音される>

$$\sqrt{\text{無声子音} + \text{б [b]}} \rightarrow \sqrt{\text{無声子音} + \text{б [p]}}$$

規則 6-1 2つの単語が統合された語における変化の例

- **Айт + бай** → **Айтбай**
[ajt] + [baj] → [ajtɐaj]
「アイトバイ (人名) (Айт イードというイスラムの祭り、бай 金持ち)」
- **Жүсіп + бек** → **Жүсіпбек**
[ʒysɪp] + [bek] → [ʒysɪpˈpek]
「ジュспベク (人名) (Жүсіп ジュсп (人名)、бек бекという称号)」

規則 6-2 句間の変化の例

- **көп бала** 「多くの子供 (көп 多い、бала 子供)」
[køp] [bala] → [køpˈpala]
- **әкеп бер** 「持ってきてください (әкеп 持ってくる、беру 与える)」
[ækep] [ber] → [ækepˈper]

2.5.2 逆行同化

語根・語幹と接辞または単語と単語の間において、次の音が前の音に影響を与えることを逆行同化と呼ぶ。まず無声子音 κ [q], κ [k], π [p] の逆行同化の規則を挙げる。

$$\sqrt{\begin{matrix} \kappa [q], \\ \kappa [k], \\ \pi [p] \end{matrix}} + \begin{cases} \text{母音} \\ \text{共鳴音} \\ \text{有声子音の } \text{д} [d], \text{ж} [ʒ], \text{з} [z] \end{cases} \rightarrow \sqrt{\begin{matrix} \text{ғ} [ɣ], \\ \text{г} [g], \\ \text{б} [b] \end{matrix}} + \begin{cases} \text{母音} \\ \text{共鳴音} \\ \text{有声子音の } \text{д} [d], \text{ж} [ʒ], \text{з} [z] \end{cases}$$

＜規則 1 語根・語幹あるいは単語が無声子音の κ [q], κ [k], π [p] で終わり、直後が母音、共鳴子音あるいは有声子音の $\text{д} [d]$, $\text{ж} [ʒ]$, $\text{з} [z]$ で始まる接辞が来る場合、直前の κ [q], κ [k], π [p] は $\text{ғ} [ɣ]$, $\text{г} [g]$, $\text{б} [b]$ と有声子音になる。同様に、単語が無声子音の κ [q], κ [k], π [p] で終わり、直後が母音、共鳴子音あるいは有声子音の $\text{д} [d]$, $\text{ж} [ʒ]$, $\text{з} [z]$ で始まる単語が来る場合、最初の単語の末尾の κ [q], κ [k], π [p] は $\text{ғ} [ɣ]$, $\text{г} [g]$, $\text{б} [b]$ と有声子音になる＞

規則 1-1 語根・語幹と接辞の間の変化の例

- $\text{тарақ} + \text{ым}$ → тарағым 「私のヘアブラシ (тарақヘアブラシ、-ым 私の)」
[taraq] + [ɯm] [taraɣɯm]
- $\text{ақ} + \text{ып}$ → ағып 「流れて (ақ- 流れる、-ып ～て)」
[aq] + [ɯp] [aɣɯp]
- $\text{бақ} + \text{ады}$ → бағады 「彼が育てる (бақ- 育てる、-ады 彼が～する)」
[baq] + [ady] [baɣady]
- $\text{жүрек} + \text{i}$ → жүрегі 「彼の心 (жүрек 心、-і 彼の)」
[žurek] + [i] [žureɣi]
- $\text{шап} + \text{у}$ → шабу 「切り倒すこと (шап- 切り倒す、-у ～すること)」
[ʃap] + [u] [ʃabu]

規則 1-2 単語と単語の間の変化の例

- ақ ешкі 「白い山羊 (ақ 白い、ешкі 山羊)」
[aq] [ʲeʃki] → [aɣ ʲeʃki]
- жоқ зат 「ないもの (жоқ ない、зат もの)」
[ʒoq] [zat] → [ʒoɣ zat]
- ақ жауын 「豪雨 (ақ 白い、жауын 雨)」
[aq] [ʒawɯn] → [aɣ ʒawɯn]
- көк аспан 「青い空 (көк 青い、аспан 空)」
[køk] [aspan] → [køɣ aspan]

以下に規則 1 の例外を示す。

<例外 1 2 音節語の内、2 音節目の核が y [ʏ], i [i] であり、音節末尾が k [q], k [k], n [p] という状況において、直後に母音で始まる接辞が付加されても、音節末尾の k [q], k [k], n [p] は有声音化しない場合がある> ※接辞の付加に伴い、2 音節目の核である母音は省略される。

- $b\bar{e}r\bar{i}k + i \rightarrow b\bar{e}r\bar{k}i$ 「彼の毛皮の帽子 ($b\bar{e}r\bar{i}k$ 毛皮の帽子、 $-i$ 彼の)」
[$b\bar{e}r\bar{i}k$] + [i] [$b\bar{e}r\bar{k}i$]
- $x\bar{a}l\bar{y}q + y \rightarrow x\bar{a}l\bar{k}y$ 「その国民 ($x\bar{a}l\bar{y}q$ 国民、 $-y$ その)」
[$x\bar{a}l\bar{y}q$] + [y] [$x\bar{a}l\bar{k}y$]
- $q\bar{a}l\bar{y}p + y \rightarrow q\bar{a}l\bar{k}y$ 「彼の状態 ($q\bar{a}l\bar{y}p$ 状態、 $-y$ 彼の)」
[$q\bar{a}l\bar{y}p$] + [y] [$q\bar{a}l\bar{k}y$]
- $\bar{e}r\bar{i}p + i \rightarrow \bar{e}r\bar{n}i$ 「その文字 ($\bar{e}r\bar{i}p$ 文字、 $-i$ その)」
[$\bar{e}r\bar{i}p$] + [i] [$\bar{e}r\bar{n}i$]

<例外 2 擬音語・擬態語 ($\bar{e}l\bar{i}k\bar{t}e\bar{y}i\bar{s}$ $\bar{s}\bar{o}z$) の末尾の無声音である k [q], k [k], n [p] といった子音は有声音にならない>

- $k\bar{a}r\bar{k} \bar{e}t\bar{t}i$ 「カーと鳴いた ($k\bar{a}r\bar{k}$ カー、 $\bar{e}t\bar{t}i$ ～した)」
[$q\bar{a}r\bar{q}$] [$\bar{i}et\bar{t}i$] → [$q\bar{a}r\bar{q} \bar{i}et\bar{t}i$]
- $\bar{s}e\bar{l}k \bar{e}t\bar{t}i$ 「ビクツとした ($\bar{s}e\bar{l}k$ ビクツ、 $\bar{e}t\bar{t}i$ ～した)」
[$\bar{s}e\bar{l}k$] [$\bar{i}et\bar{t}i$] → [$\bar{s}e\bar{l}k \bar{i}et\bar{t}i$]
- $\bar{z}y\bar{p} \bar{e}t\bar{t}i$ 「サツと消えた ($\bar{z}y\bar{p}$ サツ、 $\bar{e}t\bar{t}i$ ～した)」
[$\bar{z}y\bar{p}$] [$\bar{i}et\bar{t}i$] → [$\bar{z}y\bar{p} \bar{i}et\bar{t}i$]

<規則 2 副動詞 ($\bar{k}\bar{o}c\bar{e}m\bar{s}h\bar{e}$) の $-y\bar{p}$ [ʏp], $-i\bar{n}$ [ɪp] という接辞が来る場合、語根の末尾に位置する無声子音の n [p] は y [u] になる> ※ n [p] と n [p] の連続を避ける異化と言える。

$$\sqrt{n[p]} + -y\bar{p} [ʏp], -i\bar{n} [ɪp] \rightarrow \sqrt{y[w]} + -y\bar{p} [ʏp], -i\bar{n} [ɪp]$$

- $t\bar{a}p + y\bar{p} \rightarrow t\bar{a}y\bar{y}p$ 「見つけて ($t\bar{a}p$ - 見つける、 $-y\bar{p}$ ～て)」
[$t\bar{a}p$] + [$y\bar{p}$] [$t\bar{a}w\bar{y}p$]
- $k\bar{e}p + i\bar{n} \rightarrow k\bar{e}y\bar{i}p$ 「乾いて ($k\bar{e}p$ - 乾く、 $-i\bar{n}$ ～て)」
[$k\bar{e}p$] + [$i\bar{p}$] [$k\bar{e}w\bar{i}p$]

<規則 3 語根・語幹が共鳴音の n [n] で終わり、後続する接辞が $\bar{b}$ [b], n [p], m [m] で始まる場合、 n [n] は [m] と発音される。単語が共鳴音の n [n] で終わり、後続の単語が $\bar{b}$ [b], n [p], m [m] で始まる場合、 n [n] は [m] と発音される>

$$\sqrt{n[n]} + \begin{cases} \bar{b} [b], \\ n [p], \\ m [m] \end{cases} \rightarrow \sqrt{n[m]} + \begin{cases} \bar{b} [b], \\ n [p], \\ m [m] \end{cases}$$

規則 3-1 語根・語幹と接辞の間の変化の例

- сен + беді → сенбеді 「彼が信じなかった (сену 信じる、-беді 彼が～しなかった)」
[sen] + [bedi] [sembedi]
- келген + мин → келгенмин 「私は来たことがある (келген- 来たこと、-мин 私は～である)」
[kelgen] + [min] [kelgemmin]

規則 3-2 単語と単語の間の変化の例

- Бөген + бай → Бөгенбай 「Богенбай (人名) (бөген ため池、бай 金持ち)」
[bøgen] + [baj] [bøgem baj]
- Жан + пейіс → Жанпейіс 「Жанпейіс (人名) (жан 魂、Пейіс Пейіс という人名)」
[zan] + [pejis] [zam pejis]
- он бес 「15 (он 10、бес 5)」
[on] [bes] → [om bes]
- он парак 「10 枚 (он 10、парак 枚)」
[on] [paraq] → [om paraq]
- кен мен жер 「鉍石と土地 (кен 鉍石、мен ～と、жер 土地)」
[ken] [men] [zer] → [kem men zer]

<規則 4 語根・語幹が н [n] で終わり、後続の接辞が қ [q], к [k], ғ [ɣ], г [g] で始まる場合、н [n] は [ŋ] と発音される。また、単語が н [n] で終わり、後続の単語が қ [q], к [k], ғ [ɣ], г [g] で始まる場合、н [n] は [ŋ] と発音される >

$$\sqrt{n[n]} + \begin{cases} қ [q], \\ к [k], \\ ғ [ɣ], \\ г [g] \end{cases} \rightarrow \sqrt{n[ŋ]} + \begin{cases} қ [q], \\ к [k], \\ ғ [ɣ], \\ г [g] \end{cases}$$

規則 4-1 語根・語幹と接辞の間の変化の例

- сән + қой → сәнқой
[sæn] + [qoj] [sæŋqoj]
「流行に敏感な人 (сән 流行、-қой ～に関する)」
- сен + гем → сенгем
[sen] + [gem] [seŋgem]
「私は信じたことがあった (сену 信じる、-гем 私は～したことがあった)」
- тон + ға → тонға
[ton] + [ɣa] [toŋɣa]
「毛皮のコートに (тон 毛皮のコート、-ға ～に)」

規則 4-2 単語と単語の間の変化の例

- он ғасыр 「10 の世紀 (千年) (он 10, ғасыр 世紀)」
[on] [ʁasur] → [on ʁasur]
- Аман + құл → Аманқұл 「アマンクル (人名) (аман 健康な、құл 奴隷)」
[aman] + [qul] → [amanqul]
- Сәрсен + гүл → Сәрсенгүл 「サルセングル (人名) (Сәрсен Салсен (人名)、гүл 花)」
[særsen] + [gyl] → [særsengyl]

<規則 5 語根・語幹が有声子音 ɜ [z] または無声子音 c [s] で終わり、後続の接辞が ш [ʃ] で始まる場合、ɜ [z], c [s] は [ʃ] と発音される。同様に、単語が有声子音 ɜ [z] または無声子音 c [s] で終わり、後続の単語が ш [ʃ] で始まる場合、ɜ [z], c [s] は [ʃ] と発音される>

$$\sqrt{\begin{matrix} \text{ɜ [z]} \\ \text{c [s]} \end{matrix}} + \text{ш [ʃ]} \rightarrow \sqrt{\begin{matrix} \text{ɜ [ʃ]} \\ \text{c [ʃ]} \end{matrix}} + \text{ш [ʃ]}$$

規則 5-1 語根・語幹と接辞の間の変化の例

- сөз + шең → сөзшең
[söz] + [ʃeŋ] → [søʃʃeŋ]
「おしゃべりな (сөз 言葉、-шең ~ (的) な)」
- таз + ша → тазша
[taz] + [ʃa] → [taʃʃa]
「はげた (таз はげ、-ша ~ (的) な)」
- қос + шы → қосшы
[qos] + [ʃw] → [qoʃʃw]
「付添人 (қосу 加える、-шы ~ の人)」
- ойлас + шы → ойласшы
[ojlas] + [ʃw] → [ojlaʃʃw]
「どうか (一緒に) 考えあってよ (ойласу 考えあう、-шы どうか~してよ)」

規則 5-2 単語と単語の間の変化の例

- тез шық 「すぐに出る! (тез すぐに、шығу 出る)」
[tez] [ʃwq] → [teʃʃwq]
- бос шелек 「空のバケツ (бос 空いた、шелек バケツ)」
[bos] [ʃelek] → [boʃʃelek]
- көз шалды 「目にする (көз 目、шалу つまづかせる・倒す)」
[køz] [ʃaldw] → [køʃʃaldw]
- бас шайқау 「断る (бас 頭、шайқау 揺らす)」
[bas] [ʃajqaw] → [baʃʃajqaw]

<規則 6 語根・語幹が有声子音の 3 [z] で終わり、後続する接辞が無声子音の c [s] で始まる場合、有声子音の 3 [z] は無声子音の [s] と発音される。また、単語が有声子音の 3 [z] で終わり、後続の単語が無声子音の c [s] で始まる場合、有声子音の 3 [z] は無声子音の [s] と発音される>

$$\sqrt{3 [z]} + c [s] \rightarrow \sqrt{3 [s]} + c [s]$$

規則 6-1 語根・語幹と接辞の間の変化の例

- жаз + са → жазса 「彼が書くなら (жаз- 書く、-са 彼が～するなら)」
[ʒaz] + [sa] [ʒassa]
- көз + сіз → көзсіз 「目の見えない (көз 目、-сіз ～のない)」
[køz] + [sɪz] [køssɪz]

規則 6-2 単語と単語の間の変化の例

- көз салу 「目に留まる (көз 目、salу 入れる)」
[køz] [salu] → [køʂ salu]
- күз сайын 「秋ごとに (күз 秋、сайын ～ごとに)」
[kyz] [sayɯn] → [kys sayɯn]

<規則 7 単語が有声子音の 3 [z] で終わり、次の単語が ж [ʒ] で始まる時、3 [z] は [ʒ] となる>

$$\sqrt{3 [z]} + ж [ʒ] \rightarrow \sqrt{3 [ʒ]} + ж [ʒ]$$

- Боз + жігіт → Бозжігіт 「ボズジュグット (人名) (боз 青白い・明るい灰色の、жігіт 青年)」
[boz] + [ʒɪɡɪt] [boʒʒɪɡɪt]
- жүз жыл 「100 年 (жүз 100、жыл 年)」
[ʒyz] [ʒɯl] → [ʒyʒ ʒɯl]
- мұз жарғыш 「碎氷船 (мұз 氷、жарғыш 分け入るもの)」
[muz] [ʒaɣɯʃ] → [muʒ ʒaɣɯʃ]

2.5.3 相互同化

語根・語幹と接辞の間で、また語と語の間で連なる音が互いに影響し合って、両方の音が変化することを相互同化と言う。

<規則 1 単語が有声子音である n [n] で終わり、次の単語が無声子音の q [q] と k [k] で始まる場合、 n [n] は η [ŋ] の音になり、 q [q], k [k] の音は ɸ [ɸ], [g] になる>

$$\sqrt{\begin{matrix} n [n] + q [q], \\ n [n] + k [k] \end{matrix}} \rightarrow \sqrt{\begin{matrix} n [\eta] + q [\text{ɸ}], \\ n [\eta] + k [g] \end{matrix}}$$

- Қазан + қап → Қазанқап 「カザンカプ (人名) (қазан 大鍋、қап 袋)」
[qazan] + [qap] → [qazaŋqap]
- орган қолдай 「標準的な (орган 中の、қолдай 手のように)」
[ortan] [qoldaj] → [ortaŋ ɸoldaj]
- Есен + келді → Есенкелді 「イエセンケルドウ (人名) (Есен イエセン (人名)、келді 彼が来た)」
[esen] [keldi] → [eseŋgeldi]
- мен көрдім 「私が見た (мен 私が、көрдім 私が見た)」
[men] [kørdim] → [meŋ ɸørdim]

<規則 2 単語が c [s] の音で終わり、次の単語が j [ʃ] の音で始まる場合、両方とも ɸ [ɸ] になる>

$$\sqrt{c [s] + j [ʃ]} \rightarrow \sqrt{c [\text{ɸ}] + j [\text{ɸ}]}$$

- Қос + жан → Қосжан 「コスジャン (人名) (қос 両方、жан 魂)」
[qos] + [ʒan] → [qoʃʃan]
- тас жол 「石の道 (тас 石、жол 道)」
[tas] [ʒol] → [taʃ ʃol]
- бас жақ 「頭の方 (бас 頭、жақ ~の方)」
[bas] [ʒaq] → [baʃ ʃaq]

3. 形態論

3.1 接辞 (қосымша)

3.1.1 接辞の配列

カザフ語の接辞 (қосымша) の配列は次の通りである。まず語根 (түбір) に意味拡張の派生接辞 (жұрнақ) が付加され、その後、複数性 (көптік)、所有の人称 (тәуелдік)、格 (септік) の順番で (文法的な) 接辞 (жалғау) が続く。動詞の場合、格の代わりに人称 (жіктік) 接辞が現れる。

語根	接辞 (қосымша)
	派生接辞 (жұрнақ) + 複数性の接辞 (көптік жалғау) + 所有の人称の接辞 (тәуелдік жалғау) + 格の接辞 (септік жалғау) あるいは人称接辞 (жіктік жалғау)

оқу-шы-лар-ыңыз-ға

勉強する一者(派生)一達(複数)一あなたの(所有)一に(格)

= 「あなたの生徒達に」

оқу-шы-лар-ыңыз-быз

勉強する一者(派生)一達(複数)一あなたの(所有)一我々は(人称)

= 「我々はあなたの生徒達である」

3.1.2 複数性の接辞 (көптік жалғау)

複数性の接辞は語根・語幹に複数性の意味を与える。接辞は -лар [lar], -лер [ler], -тар [tar], -тер [ter], -дар [dar], -дер [der] という6つの変種を持つ。

直前の音節 (буын) の母音	語幹末の音		
	母音 (дауысты) と共鳴音 (үнді) の р [r], й [j], у [w]	有声子音 (ұян) の з [z], ж [ʒ] と共鳴子音の л [l], м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音 (қаған) と 有声子音の б [b], в [v], г [g], д [d]
後舌母音 (жуан)	-лар [lar]	-дар [dar]	-тар [tar]
	<u>балалар</u> 「子供達」	<u>қыздар</u> 「娘達」	<u>заводтар</u> 「工場(複数)」
前舌母音 (жіңішке)	-лер [ler]	-дер [der]	-тер [ter]
	<u>әжелер</u> 「祖母達」	<u>әйелдер</u> 「女達」	<u>студенттер</u> 「学生達」

※例の太字は語幹末の音、下線は複数性の接辞

3.1.3 所有の人称接辞 (тәуелдік жалғау)

所有の人称接辞は物が誰の所属であることを示す。ロシア語においてそのような接辞は見られない。ロシア語は人称代名詞を通して、所有性を示す。дәптер+ім 「本+私の=私の本」 (моя тетрадь)、дәптер+ің 「本+君の=君の本」 (твоя тетрадь) という例を挙げることができる。

単数 (онаша)

	語幹末の音			
	母音 (дауысты)		子音 (дауыссыз)	
母音調和	後舌母音	前舌母音	後舌母音	前舌母音
менің 私の	-м [m]	-м [m]	-ым [ɯm]	-ім [im]
	ағам 「私の兄」	әкем 「私の父」	атым 「私の名前」	елім 「私の国」
сенің 君の	-ң [ŋ]	-ң [ŋ]	-ың [ɯŋ]	-ің [iŋ]
	ағаң 「君の兄」	әкең 「君の父」	атың 「君の名前」	елің 「君の国」
сіздің あなたの	-ңыз [ŋɯz]	-ііз [iɯz]	-ыңыз [ɯŋɯz]	-іііз [iŋɯz]
	ағаңыз 「あなたの兄」	әкеііз 「あなたの父」	атыңыз 「あなたの名前」	еліііз 「あなたの国」
оның 彼/彼女の*	-сы [sɯ]	-сі [si]	-ы [ɯ]	-і [i]
	ағасы 「彼/彼女の兄」	әкесі 「彼/彼女の父」	аты 「彼/彼女の名前」	елі 「彼/彼女の国」

*三人称には男女の区別がない。以下、三人称の訳語では「彼/彼女」とせず、「彼」とする。

※例の太字は語幹末の音、下線は所有の人称接辞

複数 (ортақ)

	語幹末の音			
	母音		子音	
母音調和	後舌母音	前舌母音	後舌母音	前舌母音
біздің 我々の	-мыз	-міз	-ымыз	-іміз
	ағамыз 「我々の兄」	әкеміз 「我々の父」	атымыз 「我々の名前」	еліміз 「我々の国」
сендердің 君達の	-лар+ың	-лер+ің	-лар, -дар, -тар +ың	-лер, -дер, -тер +ің
	ағаларың 「君達の兄」	әкелерің 「君達の父」	аттарың 「君達の名前」	елдерің 「君達の国」
сіздердің あなた達の	-лар+ыңыз	-лер+іііз	-лар, -дар, -тар +ыңыз	-лер, -дер, -тер +іііз
	ағаларыңыз 「あなた達の兄」	әкелеріііз 「あなた達の父」	аттарыңыз 「あなた達の名前」	елдеріііз 「あなた達の国」
олардың 彼ら/彼女らの*	-сы	-сі	(-лар, -дар, -тар) +ы	(-лер, -дер, -тер) +і
	ағасы 「彼ら/彼女らの兄」	әкесі 「彼ら/彼女らの父」	аттары 「彼ら/彼女らの名前」	елі 「彼ら/彼女らの国」

*単数の場合と同様、男女の区別がない。三人称の訳語では「彼ら」のみとする。

※例の太字は語幹末の音、下線は所有の人称接辞

3.1.4 格の範疇

格の接辞 (септік жалғау) は単語と単語を結びつけ、互いの関係性を示す。カザフ語には7つの格がある。

格	疑問形 (сұрақ)	接辞
1. 主格 (атау)	кім? 「誰(が)?」、не? 「何(が)?」	—
2. 属格 (ілік)	кімнің? 「誰の?」、ненің? 「何の?」	-ның, -нің, -дың, -дің, -тың, -тің 「～の」
3. 与格 (барыс)	кімге? 「誰に?」、неге? 「何に?」、 қайда? 「どこに?」	-ға, -ге, -қа, -ке, -а, -е, -на, -не 「～に・へ」
4. 対格 (табыс)	кімді? 「誰を?」、нені? 「何を?」	-ны, -ні, -ды, -ді, -ты, -ті, -н 「～を」
5. 位格 (жатыс)	кімде? 「誰の所で?」、неде? 「何の所で?」、 қайда? 「どこで?」、қашан? 「いつ?」	-да, -де, -та, -те, -нда, -нде 「～で・に」
6. 奪格 (шығыс)	кімнен? 「誰から?」、неден? 「何から?」、 қайдан? 「どこから?」	-дан, -ден, -тан, -тен, -нан, -нен 「～から・より」
7. 助格 (көмектес)	кіммен? 「誰と?」、немен? 「何と?」、 қалай? 「どのように?」	-мен (менен), -бен (бенен), -пен (пенен) 「～と・で」

<属格>

語幹末の音			
母音調和	母音と共鳴音の м [m], н [n], ң [ŋ]	有声子音の з [z], ж [ʒ] と共鳴音の р [r], л [l], й [j], у [w]	無声子音 (қаған) と有声 子音 (ұяң) の б [b], в [v], г [g], д [d]
後舌母音	-ның [nɯŋ]	-дың [dɯŋ]	-тың [tɯŋ]
	баланың 「子供の」	қағаздың 「紙の」	аттың 「馬の」
前舌母音	-нің [nɪŋ]	-дің [dɪŋ]	-тің [tɪŋ]
	әкенің 「父の」	елдің 「国の」	студенттің 「学生の」

※例の太字は語幹末の音、下線は属格の接辞

<与格>

	語幹末の音			
母音調和	母音、共鳴音、 有声子音の з [z], ж [ʒ]	無声子音と有声 子音の б [b], в [v], г [g], д [d]	一、二人称の所 有の接辞	三人称の所有の 接辞
後舌母音	-ға [ɣɑ]	-қа [qɑ]	-а [ɑ]	-на [nɑ]
	балаға 「子供に」	атқа 「馬に」	балама 「私の子供に」	баласына 「彼の子供に」
前舌母音	-ге [ɣe]	-ке [ke]	-е [e]	-не [ne]
	әкеге 「父に」	студентке 「学生に」	әкеме 「私の父に」	әкесіне 「彼の父に」

※例の太字は語幹末の音、下線は与格の接辞

<対格>

	語幹末の音			
母音調和	母音	共鳴子音、有声 子音の з [z], ж [ʒ]	無声子音、有声 子音の б [b], в [v], г [g], д [d]	三人称の所有の 接辞
後舌母音	-ны [nɯ]	-ды [dɯ]	-ты [tɯ]	-н [n]
	баланы 「子供を」	қағазды 「紙を」	атты 「馬を」	баласын 「彼の子供を」
前舌母音	-ні [nɪ]	-ді [dɪ]	-ті [tɪ]	-н [n]
	әкені 「父を」	елді 「国を」	студентті 「学生を」	әкесін 「彼の父を」

※例の太字は語幹末の音、下線は対格の接辞

<位格>

	語幹末の音		
母音調和	母音、共鳴子音、有声 子音の з [z], ж [ʒ]	無声子音、有声子音の б [b], в [v], г [g], д [d]	三人称の所有の接辞
後舌母音	-да [da]	-та [ta]	-нда [nda]
	қағазда 「紙において」	атта 「馬の所で」	баласында 「彼の子供の所で」
前舌母音	-де [de]	-те [te]	-нде [nde]
	елде 「国において」	студентте 「学生の所で」	әкесінде 「彼の父の所で」

※例の太字は語幹末の音、下線は位格の接辞

<奪格>

	語幹末の音		
母音調和	母音、共鳴音の р [r], л [l], й [j], у [w]、 有声子音の з [z], ж [ʒ]	共鳴音の м [m], н [n], н [ŋ]、三人称の所有の 接辞	無声子音、有声子音の б [b], в [v], г [g], д [d]
後舌母音	-дан [dan]	-нан [nan]	-тан [tan]
	қағаз <u>дан</u> 「紙から」	ағам <u>нан</u> 「私の兄から」	ат <u>тан</u> 「馬から」
前舌母音	-ден [den]	-нен [nen]	-тен [ten]
	ел <u>ден</u> 「国から」	әкем <u>нен</u> 「私の父から」	студент <u>тен</u> 「学生から」

※例の太字は語幹末の音、下線は奪格の接辞

<助格>

	語幹末の音		
母音調和	母音、共鳴子音	有声子音の з [z], ж [ʒ]	無声子音、有声子音 の б [b], в [v], г [g], д [d]
後舌母音と 前舌母音	-мен [men] / -менен [menen]	-бен [ben] / бенен [benen]	-пен [pen] / -пенен [penen]
	ел <u>мен</u> 「国と」	қағаз <u>бен</u> 「紙と」	студент <u>пен</u> 「学生と」

※例の太字は語幹末の音、下線は助格の接辞

3.1.5 人称接辞 (жіктік жалғау)

人称接辞は誰が行動をするのかを示す文法範疇である。カザフ語には名詞類 (есімдер) と動詞類 (етістіктер) の両方において人称 (жак) に応じた変化が起きる。人称接辞は人称の情報を示すのと同時に、単数 (жекеше) と複数 (көпше) の意味を示すことができる。カザフ語の人称接辞には4つの形式が存在する。

第1形式の人称接辞: 名詞 (зат есім)、形容詞 (сын есім)、代名詞 (есімдік)、状態動詞 (қалып етістік) (進行的現在の отыр, тұр, жатыр, жүр)、形動詞 (есімше) に伴う人称の形式は次の通りである。

人称	単数	複数
一人称	-мын, -бын, -пын, -мін, -бін, -пін	-мыз, -быз, -пыз, -міз, -біз, -піз
	отыр <u>мын</u> 「私が座っている」 студент <u>пін</u> 「私は学生である」	отыр <u>мыз</u> 「我々が座っている」 студент <u>піз</u> 「我々は学生である」
	-сын, -сің	-сындар, -сіңдер
二人称	отыр <u>сын</u> 「君が座っている」 студент <u>сің</u> 「君は学生である」	отыр <u>сындар</u> 「君達が座っている」 студент <u>сіңдер</u> 「君達は学生である」

二人称・丁寧形 (сыпайы түрі)	-сыз, -сіз	-сыздар, -сіздер
	отыр <u>сыз</u> 「あなたが座っている」 студент <u>сіз</u> 「あなたは学生である」	отыр <u>сыздар</u> 「あなた達が座っている」 студент <u>сіздер</u> 「あなた達は学生である」
三人称	—	—
	отыр「彼が座っている」 студент「彼は学生である」	отыр「彼らが座っている」 студент(тер)「彼らは学生(達)である」

第2形式の人称接辞: 以下、副動詞 (көсемше) の -а, -е, -й と -ып, -іп, -п に伴う人称形式である。

人称	単数	複数
一人称	-мын, -пын, -мін, -пін	-мыз, -пыз, -міз, -піз
	барам <u>ын</u> 「私が行く」 келем <u>ін</u> 「私が来る」	барам <u>ыз</u> 「我々が行く」 келем <u>із</u> 「我々が来る」
二人称	-сын, -сін	-сындар, -сіндер
	барас <u>ын</u> 「君が行く」 келес <u>ін</u> 「君が来る」	барас <u>ындар</u> 「君達が行く」 келес <u>індер</u> 「君達が来る」
二人称・丁寧形	-сыз, -сіз	-сыздар, -сіздер
	барас <u>ыз</u> 「あなたが行く」 келес <u>із</u> 「あなたが来る」	барас <u>ыздар</u> 「あなた達が行く」 келес <u>іздер</u> 「あなた達が来る」
三人称	-ды, -ты, -ді, -ті	-ды, -ты, -ді, -ті
	барад <u>ы</u> 「彼が行く」 келед <u>і</u> 「彼が来る」	барад <u>ы</u> 「彼らが行く」 келед <u>і</u> 「彼らが来る」

第3形式の人称接辞: 現実過去 (нақтылы өткен шақ) (-ды, -ді -ты, -ті) と条件法 (шартты рай) (-саあるいは -се) の人称形式は次の通りである。※カザフ語の条件法はドイツ語やフランス語の条件法とは異なる。

人称	単数	複数
一人称	-м	-к, -к
	барды <u>м</u> 「私が行った」 барса <u>м</u> 「私が行くなら」	барды <u>к</u> 「我々が行った」 барса <u>к</u> 「我々が行くなら」
二人称	-ң	-ңдар, -ңдер
	барды <u>ң</u> 「君が行った」 барса <u>ң</u> 「君が行くなら」	барды <u>ңдар</u> 「君達が行った」 барса <u>ңдар</u> 「君達が行くなら」
二人称・丁寧形	-ңыз, -ңіз	-ңыздар, -ңіздер
	барды <u>ңыз</u> 「あなたが行った」 барса <u>ңыз</u> 「あなたが行くなら」	барды <u>ңыздар</u> 「あなた達が行った」 барса <u>ңыздар</u> 「あなた達が行くなら」
三人称	—	—

	барды「彼が行った」 барса「彼が行くなら」	барды「彼らが行った」 барса「彼らが行くなら」
--	-------------------------------	---------------------------------

第4形式の人称接辞: 動詞の命令法 (бұйрық рай) は次の人称形式を伴う。

人称	単数	複数
一人称	-айын, -ейін, -йын, -йін	-айық, -ейік, -йық, -йік
	барайын「(私が)行こう」 келейін「(私が)来よう」	барайық「(我々が)行こう」 келейік「(我々が)来よう」
二人称	—	-ындар, -індер, -ндар, -ндер
	бар「(君が)行け」 кел「(君が)来い」	барындар「(君達が)行け」 келіндер「(君達が)来い」
二人称・丁寧形	-ыңыз, -іңіз, -ңыз, -ңіз	-ыңыздар, -іңіздер, -ңыздар, -ңіздер
	барыңыз「(あなたが)行きなさい」 келіңіз「(あなたが)来なさい」	барыңыздар「(あなた達が)行きなさい」 келіңіздер「(あなた達が)来なさい」
三人称	-сын, -сін	-сын, -сін
	барсын「(彼が)行きますように」 келсін「(彼が)来ますように」	барсын「(彼らが)行きますように」 келсін「(彼らが)来ますように」

3.2 名詞類 (есімдер)

名詞類は名詞、形容詞、数詞、代名詞から構成される。

3.2.1 名詞 (зат есім)

物の概念を示し、誰?、何? という問いに対する回答を示す語のクラスを名詞と呼ぶ。

区分	種類	例
I. 意味 (мағына) による 区分	1. 普通 (жалпы)	бала「子供」、адам「人」、дала「外」、үй「家」
	2. 固有 (жалқы)	Болат「ボラト (人名)」、Алматы「アルマトウ (地名)」、Қазақстан「カザフスタン (地名)」
II. 形式 (тұлға) による 区分	1. 基本 (негізгі)	ел「国」、жер「土地」、су「水」、от「火」、кала「町」
	2. 派生 (туынды)	қойшы「羊飼い (қой 羊)」、балалық「子供っぽさ (бала 子供)」、білім「知識 (білу 知る)」、айтыс「詩の競技 (айту 言う)」

III. 構成 (құрам) による 区分	1. 単純 (дара)	жылқы「馬」、тарақ「ヘアブラシ」、ауыл「村」、 жігіт「青年」
	2. 複合 (күрделі)	
	a) 統合 (біріккен) (1 語)	бәйтерек「大樹 (бәй 大きい、терек ポプラ)」、 белбеу「ベルト (бел 腰)」、Ақсу「Ақсу (地 名) (ақ 白い、су 水)」、қырықаяқ「ムカデ (қырық 40、аяқ 足)」、күнбағыс「ひまわり (күн 日、бағыс 見ること)」、орынбасар「代理人 (орын 席、басар 踏むもの)」
	b) 結合 (қосарлы) (1 語)	ата-ана「両親 (ата 父、ана 母)」、ел-жұрт「国 民 (ел 国、жұрт 民衆)」、ой-қыр「谷と丘 (ой 谷、қыр 丘)」、жауын-шашын「降雨 (жауын 雨 が降ること、шашын 撒くこと)」、тамыр- таныс「友人知人 (тамыр 根・友、таныс 知る こと)」
	c) 関連 (тіркесті) (2 語)	аяқ киім「靴 (аяқ 足、киім 服)」、балалар бакшасы「幼稚園 (балалар 子供達、бакша 庭)」、сары май「バター (сары 黄色い、май 油)」、ауыл шаруашылығы「農業 (ауыл 村、 шаруашылық 産業)」
	d) 省略 (қысқарған) (1 語)	ҚазМҰУ (Қазақ мемлекеттік ұлттық универ- ситеті)「カザフ国立民族大学」、атком (атқару комитеті)「実行委員会」、пединститут (педагогикалық институт)「教育院」、диамат (диалектикалық материализм)「唯物弁証法」、 см (сантиметр)「センチメートル」、кг (килограмм)「キログラム」、кв (квадрат)「平 方」、мм (миллиметр)「ミリメートル」

3.2.2 形容詞 (сын есім)

物の種類、色、形式、性質を表す語のクラスを形容詞と呼ぶ。どんな?、どの? という問いから導き出される。

区分	種類	例
I. 意味による区分	1. 性質 (сапалық)	ақ「白い」、қара「黒い」、жеңіл「軽い」、үлкен「大きい」
	2. (他の単語との) 関係 (қатыстық)	тұзды「塩っぱい (тұз 塩、-ды ~な)」、ақшалы「金持ちの (ақша お金、-лы ~な)」
II. 形式による区分	1. 基本	жақсы「良い」、әдемі「美しい」、кең「広い」、суық「寒い」
	2. 派生	қысқы「冬の (қыс 冬、-қы ~の)」、тауды「山の (тау 山、-лы ~な・の)」、сынық「壊れた (сыну 壊れる、-ық ~した)」、өткір「鋭い (өту 通る、-кір ~することができる)」
III. 構成による区分	1. 単純	кіші「小さい」、тар「狭い」、нәзік「繊細な」、мол「豊富な」
	2. 複合	ойлы-қырлы「デコボコな(ойлы 谷の、қырлы 丘の)」、қызыл ала「赤くてまだらの (қызыл 赤い、ала まだらの)」、ұзын бойлы「背の高い (ұзын 長い、бойлы 背の)」、жақсы-жаман「良くも悪くもあるような (жақсы 良い、жаман 悪い)」

3.2.2.1 形容詞の形成 (сын есімнің жасалуы)

3.2.2.1.1 形態論的 (морфологиялық) 方法による形成

3.2.2.1.1.1 名詞派生の形容詞

派生接辞	例
1. -лы, -лі, -ды, -ді, -ты, -ті 「~な・~の」	атақты「有名な (атақ 名声)」、пайдалы「有益な (пайда 利益)」、тасты「石の (тас 石)」
2. -лық, -лік, -дық, -дік, -тық, -тік 「~の」	қалалық「市立の (қала 町)」、жылдық「年間の (жыл 年)」、қоғамдық「社会の (қоғам 社会)」
3. -сыз, -сіз 「~のない」	пайдасыз「役に立たない (пайда 利益)」、білімсіз「無知な (білім 知識)」、ақылсыз「愚かな (ақыл 知性)」
4. -қы, -кі, -ғы, -гі 「~の」	жазғы「夏の (жаз 夏)」、күзгі「秋の (күз 秋)」、қазіргі「現在の (қазір 今)」、ішкі「中の (іш 中)」

5. -шыл, -шіл 「～の傾向のある」	тура <u>шыл</u> 「正義の(тура 真っ直ぐな)」、ұйқы <u>шыл</u> 「眠そうな(ұйқы 眠り)」、көп <u>шіл</u> 「社交的な(көп 多い)」
6. -дай, -дей, -тай, -тей 「～のような」	таудай「山のような(тау 山)」、тактай <u>дай</u> 「平らな(тактай 板)」、үй <u>дей</u> 「家のように大きな(үй 家)」
7. -лас, -лес, -дас, -лес, -тас, -тес「～が同じ集団の」	пікір <u>лес</u> 「意見が合う(пікір 意見)」、қызмет <u>тес</u> 「同労者の(қызмет 業務)」、көрші <u>лес</u> 「近隣の(көрші 隣人)」
8. -шаң, -шен 「～に関する」	көйлек <u>шен</u> 「ドレスのまま(көйлек Дрес)」、сөз <u>шен</u> 「言葉の巧みな(сөз 言葉)」、ашу <u>шаң</u> 「怒りっぽい(ашу 怒り)」
9. -и 「～的な」	әдеби <u>и</u> 「文学的な(әдебиет 文学)」、мәдени <u>и</u> 「文化的な(мәдениет 文化)」、тарихи「歴史的な(тарих 歴史)」、әскери「軍事的な(әскер 軍)」
10. -қой 「～に関する」	сәнқой「流行に敏感な(сән 流行)」、әзілқой「冗談好きな(әзіл 冗談)」、кәсіпқой「専門的な(кәсіп 職業)」
11. -қор 「～を求めるような」	жемқор「貪欲な、収賄するような(жем 餌)」、жалақор「中傷的な(жала 中傷)」、ызақор「短気な(ыза 怒り)」
12. -паз 「～を使った・～の職人」	өнерпаз「熟練した(өнер 芸術)」、білімпаз「教養のある(білім 知識)」、жағымпаз「へつらうのが上手い(жағым へつらい)」
13. -дар, -тар 「～のある」	қарыздар「義務的な(қарыз 借り)」、білімдар「博学的な(білім 知識)」、хабардар「知っている(хабар 知らせ)」

3.2.2.1.1.2 動詞派生の形容詞

派生接辞	例
1. -қ, -к, -ық, -ік, -ақ, -ек 「～した」	сынық「壊れた(сыну 壊れる)」、жабық「閉まった(жабу 閉める)」、ашық「開いた(ашу 開ける)」、сирек「稀な(сиреу 少なくなる)」、ісік「腫れ(ісу 膨らむ)」※ісік という単語は形容詞としてではなく、名詞としての役割だけを果たす。
2. -қыш, -кіш, -ғыш, -гіш 「～しやすい」	сенгіш「軽信な(сену 信じる)」、сезгіш「敏感な(сезу 感じる)」、тапқыш「精通した(табу 見つける)」、тонғыш「寒がりの(тону 凍える)」
3. -қыр, -кір, -ғыр, -гір 「～することができる」	тапқыр「要領の良い(табу 見つける)」、өткір「鋭い(өту 通る)」、білгір「教養のある(білу 知る)」、ұшқыр「速い(ұшу 飛ぶ)」
4. -ық, -ік 「～するような」	маңырауық「メーメーとよく鳴くような羊(маңырау Мей-Мейとよく鳴く)」、тістеуік「釘抜き(тістеу 挟む・噛む)」※これらの単語は形容詞としてではなく、名詞としての役割を果たす。
5. -нді, -інді, -нды, -ынды 「～された」	туынды「派生した(туу 生む)」、жаттанды「記憶した(жаттау 記憶する)」、жасаңды「作られた・人工的な(жасау 作る)」

6. -нқы, -інкі, -ынқы, -нкі 「～した・～された」	басы <u>нқы</u> 「沈んだ・抑え込まれた (басу 沈む・抑え込む)」、ісінкі「膨らんだ (ісу 膨らむ)」、көтері <u>нкі</u> 「持ち上げられた・高い (көтеру 持ち上げる)」
7. -ма, -ме, -ба, -бе, -па, -пе 「～するような」	кыз <u>ба</u> 「情熱的な (кызу 熱くなる)」、бөсе <u>пе</u> 「自慢屋の (бөсу 自慢する)」、даурық <u>па</u> 「騒々しい (даурығу Гаяガヤする)」、құра <u>ма</u> 「組み合わせられた (құрау 組み合わせる)」
8. -малы, -мелі, -балы, -белі, -палы, -пелі 「～することができる・～された」	ауыс <u>палы</u> 「交代可能な (ауысу 変わる)」、серіп <u>пелі</u> 「反発力のある (серпу гүйіт и тн. 引張る)」、таңдамалы「選択された (таңдау 選ぶ)」、бүрмелі「集められた (бұру 掴まえて握る)」
9. -улы, -улі 「～された」	жина <u>улы</u> 「片付けられた (жинау 集める・片付ける)」、бүктеу <u>лі</u> 「折りたたまれた (бүктеу 折りたたむ)」、ерттеу <u>лі</u> 「鞍が付いた (ерттеу 鞍を乗せる)」
10. -ымды, -імді, -мды, -мді 「～に値する」	жарам <u>ды</u> 「適した (жарау 合う)」、сенім <u>ді</u> 「誠実な (сену 信じる)」、тиім <u>ді</u> 「利益のある (тию 当たる)」、қоным <u>ды</u> 「びったりの (қону 泊まる・一致する)」
11. -шак, -шек 「よく～するような」	мактан <u>шак</u> 「自慢するような (мактану 自慢する)」、ерін <u>шек</u> 「怠惰な (еріну 怠ける)」
12. -қак, -ғақ 「～する性質を持った」	жабыс <u>қак</u> 「粘着性のある (жабысу くっつく)」、майыс <u>қак</u> 「曲がりやすい (майысу 曲がる)」、тоң <u>ғақ</u> 「寒がりの (тоңу 凍える)」
13. -қы, -кі, -ғы, -гі 「～したような」	жина <u>қы</u> 「きちんとした (жинау 集める・片付ける)」、күлдір <u>гі</u> 「滑稽な (күлдіру 笑わす)」、бұрал <u>қы</u> 「流浪の (бұралу ねじれる)」
14. -ғылықты, -гілікті, -қылықты, -кілікті 「～した」	тұрғы <u>лықты</u> 「居住した (тұру 立つ・住む)」、жеткілі <u>кті</u> 「足りた・十分な (жету 足りる・達する)」、тыңғы <u>лықты</u> 「徹底した (тыңау 肥える)」、жергілі <u>кті</u> 「現地の (жеру 遠ざかる)」
15. -аған, -еген 「よく～するような」	сүзеген「角でよく突くような (сүзу 角で突く)」、қашаған「群れからよく逸れるような (қашу 逃げる)」、кабаған「(犬が) 寧猛な (қабу 噛む)」

3.2.2.1.2 統語論的 (синтаксистік) 方法による形成

形成の種類	例
I. 結合的な形成	a) ұзын-ұзын「どれも長い (ұзын 長い)」、биік-биік「どれも高い (биік 高い)」
	b) ұзынды-қысқалы「長短の (ұзын 長い、қысқа 短い)」、үлкенді-кішілі「大小の (үлкен 大きい、кіші 小さい)」
	c) ұсақ-түйек「些細な (ұсақ 細かい)」

	d) қоғамдық-саяси「社会政治の (қоғамдық 社会的な、саяси 政治的な)」、әскери-саяси「軍政の (әскери 軍事的な、саяси 政治的な)」
II. 意味的な繋がりを持つ形成	a) кара қасқа「額に白い模様のある黒色の (кара 黒い、қасқа 額の白い模様)」、қызыл ала「赤くてまだらの (қызыл 赤い、ала まだらの)」 b) ақ шашты「白髪 of (ақ 白い、шашты 髪 of)」、қысқа бойлы「背が低い (қысқа 低い、бойлы 背 of)」 c) жібек баулы「絹の紐の付いた (жібек 絹、баулы 紐 of the)」、ат жақты「馬みたいな細長い顔 of (ат 馬、жақты 頬 of)」
III. 慣用的な (тұрақты) 意味を持つ形成	a) қолы ашық「気前の良い (қол 手、ашық 開いた)」、тілі ұзын「よく話すような (тіл 舌、ұзын 長い)」、көзі ашық「よく知っている (көз 目、ашық 開いた)」 b) көңіл көтерерлік「気分を上げてくれるような (көңіл 気分、көтеру 上げる)」、күн көрерлік「生活できるような (күн 日、көру 見る)」

3.2.2.2 形容詞の比較の程度 (сын есімнің шырайы)

程度	派生接辞	例
I. 通常の程度 (原級) (жай шырай)	—	әдемі「美しい」、жақсы「良い」、ақ「白い」、көк「青い」
II. 比較の程度 (比較級) (салыстырмалы шырай)	-рақ, -рек, -ырақ, -ірек 「より～」	жақсырақ「より良い (жақсы 良い)」、ағырақ「より白い (ақ 白い)」、көгірек「より青い (көк 青い)」
	-лау, -леу, -дау, -тау, -теу 「やや～」	жақсылау「やや良い (жақсы 良い)」、ақтау「やや白い (ақ 白い)」、көктеу「やや青い (көк 青い)」
	-қыл, -ғыл, -қылт, -ғылт, -қылтым, -ғылтым 「～の特性をもった」	қуқыл「青白い・青ざめた」、бозғыл「青白い (боз 灰色 of the・明るい灰色 of the)」、сұрғылт「灰色がかった (сұр 灰色 of the)」、сұрғылтым「灰色がかった (сұр 灰色 of the)」
	-шыл, -шіл, -шылтым 「～っぽい」	ақшыл「白っぽい (ақ 白い)」、ақшылтым「白っぽい (ақ 白い)」
	-ілдір「薄く～」	көгілдір「薄く青い (көк 青い)」
	-ғыш「～っぽい」	сарғыш「黄色っぽい (сары 黄色い)」

III. 強調の程度 (күшейтпелі шырай)	1. 音節の利用	<u>жап-жақсы</u> 「実に良い (жақсы 良い)」、 <u>әп-әдемі</u> 「実に美しい (әдемі 美しい)」、 <u>сап-сары</u> 「実に黄色い (сары 黄色い)」、 <u>қап-кара</u> 「実に黒い (кара 黒い)」
	2. 副詞の利用 өте「とても」、тым「とても」、аса「極めて」、тіпті「全く」、ең「最も」	өте әдемі「とても美しい」、тым жақсы「とても良い」、аса биік「極めて高い」、тіпті жақын「全く近い」、ең жақсы「最も良い」

3.2.3 数詞 (сан есім)

物の数、順序を示す語のクラスを数詞と呼ぶ。

区分	種類	例
I. 形式による区分	1. 基本	екі「2」、төрт「4」、елу「50」、қырық「40」
	2. 派生	бірінші「1 番目」、екеу「2 つ」、елудей「50 ほどの」
II. 構成による区分	1. 単純	бір「1」、он「10」、жүз「100」、мың「千」
	2. 複合	он бес「15」、бес жүз「500」、елу мың「5 万」
III. 意味による区分	1. 数量 (есептік)	бір「1」、екі「2」、жүз「100」、мың「千」
	2. 順序 (реттік)	бірінші「1 番目」、жүзінші「100 番目」
	3. 集合 (жинақтық)	біреу「1 つ」、екеу「2 つ」、бесеу「5 つ」
	4. 均等分割 (топтау)	оннан「10 から・ずつ」、мыңнан「千から・ずつ」、екіден「2 から・ずつ」
	5. 概数 (болжалдық)	бірер「1 つか 2 つ」、елудей「50 ほど」、жүздеп「100 ぐらゐずつ」
	6. 分数 (бөлшектік)	үштен бір「3 分の 1」、оннан екі「10 の内 2 つ」

3.2.3.1 数詞の種類

種類	疑問形	形成法	例
1. 数量	қанша? 「いくら?」、 неше? 「いくら?」	—	бір 「1」、екі 「2」、үш 「3」、төрт 「4」、 бес 「5」、он 「10」、жиырма 「20」、 отыз 「30」、елу 「50」、жүз 「100」、бес мың 「5 千」、жүз мың 「10 万」
2. 順序	нешінші? 「何番目?」、 қаншасыншы? 「何番目?」	-ыншы, -інші, -ншы, -нші 「～番目」	бірінші 「1 番目」、оныншы 「10 番 目」、жүзінші 「100 番目」、мыңыншы 「千番目」
3. 集合	нешеу? 「いくつ?」	-ау, -еу 「～つ」	біреу 「1 つ」、екеу 「2 つ」、үшеу 「3 つ」、төртеу 「4 つ」、бесеу 「5 つ」、 алтау 「6 つ」、жетеу 「7 つ」
4. 均等分割	нешеден? 「いくら から・ずつ?」、 қаншадан? 「いくら から・ずつ?」	-дан, -ден, -тан, -тен, -нан, -нен 「～ずつ」	бестен 「5 ずつ」、оннан 「10 ずつ」、 жүзден 「100 ずつ」、отыз бестен 「35 ずつ」、екі-екіден 「2 ずつ」、бір литрден 「1 リットルずつ (литр リッ トル)」
		-лап, -леп, -дап, -деп 「～ずつ」	ондап 「10 ずつ」、елудеп 「50 ずつ」、 жүздеп 「100 ずつ」
5. 概数	қанша? 「いくら?」、 неше? 「いくら?」、 қаншадай? 「いくら ぐらい?」、нешеге жуық? 「どの程度の 数に近い?」	-дай, -дей, -тай, -тей 「～ほど」	елудей 「50 ほど」、отыздай 「30 ほ ど」、жетпістей 「70 ほど」
		-даған, -деген, -таған, -теген 「～余りの」	ондаған 「10 余りの」、жүздеген 「100 余りの」、мындаған 「千余りの」
		-ер 「～くらい」	бірер 「1 つか 2 つくらい」
		-лар-位格、 基数-基数	ондарда 「10 前後」、елулерде 「50 前 後」、екі-үш 「2、3」、елу-алпыс 「50、60」
6. 分数	қанша? 「いくら?」、 неше? 「いくら?」	基数-奪格、 жарым 「半分」、 基数-属格 + жартысы 「～の半分」	оннан бір 「10 分の 1」、бір бүтін бестен үш 「1 と 5 分の 3」、мың жарым 「千と半分 (1500)」、жүздің жартысы 「100 の半分 (50)」

3.2.3.2 順序数詞 (реттік сан есім)

順序数詞は基数に -ншы, -ыншы, -нші, -інші という接辞をつなげることで形成される。

	語幹末の音	
母音調和	母音	子音
後舌母音	-ншы алтыншы「6 番目」	-ыншы тоғызыншы「9 番目」
前舌母音	-нші екінші「2 番目」	-інші бірінші「1 番目」

3.2.4 代名詞 (есімдік)

物や事の名前、形式、数を具体的に示さず、名詞の代わりにその物や事を表す語のクラスを代名詞と呼ぶ。

区分	種類	例
I. 形式による区分	1. 基本	мен「私」、сен「君」、не「何」、кім「誰」
	2. 派生	біреу「誰か」、мынау「これ」、анау「あれ」、сонау「それ」、қандай「どのような」、барлық「全て」
II. 構成による区分	1. 単純	ол「彼/彼女」、қанша「いくら」
	2. 複合	бірнеше「いくつ」、кейбіреу「若干の人」、ешкім「誰も～ない」、әрбір「各々」、бірде-бір「いかなる 1 つも～ない」、қай-қайсы (да)「どれでもが」、кімде-кім「誰か」
III. 意味による区分	1. 人称代名詞 (жіктеу)	мен「私」、сен「君」、сіз「あなた」、ол「彼」、біз (біздер)「我々」、сендер「君達」、сіздер「あなた達」、олар「彼ら」
	2. 指示代名詞 (сілтеу)	бұл「これ」、сол「それ」、ол「それ」、мына「この」、мынау「これ」、осы「これ」、осынау「この」、міне「ほら(これ)」、эне「ほら(あれ)」、сона「ほら(それ)」、сонау「ほら(その)」、ана「あの」
	3. 疑問代名詞 (сұрау)	кім?「誰」、не?「何」、неше?「いくら」、қай?「どの」、қандай?「どのような」、қалай?「どのように」、қанша?「いくつ」、қайсы?「どれ」、қайдан?「どこから」、қайда?「どこで・へ」、нешеу?「いくつ」

	4. 再帰代名詞 (өздік)	өз「自身」、өзім「私自身」、өзің「君自身」、өзіңіз「あなた自身」、өзі「彼自身」、өзіміз「我々自身」、өздеріңіз「あなた達自身」
	5. 不定代名詞 (белгісіздік)	1) бір А「ある А」、біреу「誰か」、бірдеңе「何か」、бірнеше「いくつか」、біреу-міреу「誰か」、кейбір「若干の」、кейбіреу「若干の人」、қайсыбір「若干の」 2) әркім「それぞれの人」、әрне「それぞれの事」、әрқайсы「それぞれの」、әрқалай「色々」と、әрнеше「色々な」、әрдайым「いつも」、әрқашан「いつでも」 3) әлдекім「誰か」、әлдене「何か」、әлдеқайдан「どこかから」、әлдеқашан「もうすでに」、алдақашан「もうすでに」
	6. 否定代名詞 (болымсыздық)	еш「何も～ない」、ешкім「誰も～ない」、ешбір「いかなる 1 つも～ない」、ешқашан「いつも～ない」、ешқайда「どこでも・どこへも～ない」、ештеме「何も～ない」、дәнеме「何も～ない」、ешқайсы「どれも～ない」、түк「全く～ない」
	7. 全体代名詞 (жалпылау)	бәрі「(その) 全て」、бүкіл「全ての」、барлық「全ての」、күллі「全部の」、бүтін「全部の」、бар А「全ての А」、бүткіл「全ての」、түгел「全て」

3.2.4.1 人称代名詞の格変化 (жіктеу есімдіктерінің септелуі)

单数				
人称				
格	一人称	二人称	二人称・丁寧形	三人称
1. 主格	мен 「私が」	сен 「君が」	сіз 「あなたが」	ол 「彼が」
2. 属格	менің 「私の」	сенің 「君の」	сіздің 「あなたの」	оның 「彼の」
3. 与格	маған 「私に」	саған 「君に」	сізге 「あなたに」	оған 「彼に」

4. 対格	мені 「私を」	сені 「君を」	сізді 「あなたを」	оны 「彼を」
5. 位格	менде 「私の所で」	сенде 「君の所で」	сізде 「あなたの所で」	онда 「彼の所で」
6. 奪格	менен 「私から」	сенен 「君から」	сізден 「あなたから」	онан 「彼から」
7. 助格	менімен 「私と」	сенімен 「君と」	сізбен 「あなたと」	онымен 「彼と」

複数				
人称				
格	一人称	二人称	二人称・丁寧形	三人称
1. 主格	біз 「我らが」	сендер 「君達が」	сіздер 「あなた達が」	олар 「彼らが」
2. 属格	біздің 「我らの」	сендердің 「君達の」	сіздердің 「あなた達の」	олардың 「彼らの」
3. 与格	бізге 「我らに」	сендерге 「君達に」	сіздерге 「あなた達に」	оларға 「彼らに」
4. 対格	бізді 「我らを」	сендерді 「君達を」	сіздерді 「あなた達を」	оларды 「彼らを」
5. 位格	бізде 「我らの所で」	сендерде 「君達の所で」	сіздерде 「あなた達の所で」	оларда 「彼らの所で」
6. 奪格	бізден 「我らから」	сендерден 「君達から」	сіздерден 「あなた達から」	олардан 「彼らから」
7. 助格	бізбен 「我らと」	сендермен 「君達と」	сіздермен 「あなた達と」	олармен 「彼らと」

3.2.4.2 指示代名詞 (сілтеу есімдік)

3.2.4.2.1 指示代名詞の格変化 (сілтеу есімдіктерінің септелуі)

指示代名詞					
格	бұл 「これ」	мына 「これ」	осы 「これ」	ана 「あれ」	сол 「それ」
1. 主格	бұл 「これが」	мына 「これが」	осы 「これが」	анау 「あれが」	сол 「それが」
2. 属格	бұның 「これの」	мынаның 「これの」	осының 「これの」	ананың 「あれの」	соның 「そのの」
3. 与格	бұған 「これに」	мынаған 「これに」	осыған 「これに」	анаған 「あれに」	соған 「それに」
4. 対格	бұны 「これを」	мынаны 「これを」	осыны 「これを」	ананы 「あれを」	соны 「それを」
5. 位格	бұнда 「この所で」	мынада 「これの所で」	осында 「これの所で」	анада 「あれの所で」	сонда 「そのの所で」

6. 奪格	бұдан 「これから」	мынадан 「これから」	осыдан 「これから」	анадан 「あれから」	содан 「それから」
7. 助格	бұнымен 「これと」	мынамен 「これと」	осымен 「これと」	анамен 「あれと」	сонымен 「それと」

3.2.4.2.2 人称接辞が付加された指示代名詞 (сілтеу есімдіктерінің тәуелденуі)

指示代名詞				
	бұл 「これ」	осы 「これ」	ол 「あれ」	сол 「それ」
менің 「私の」	бұным 「私のこれ」	осыным 「私のこれ」	оным 「私のあれ」	соным 「私のそれ」
сенің 「君の」	бұның 「君のこれ」	осының 「君のこれ」	оның 「君のあれ」	соның 「君のそれ」
сіздің 「あなたの」	бұныңыз 「あなたのこれ」	осыныңыз 「あなたのこれ」	оныңыз 「あなたのあれ」	соныңыз 「あなたのそれ」
оның 「彼の」	бұнысы 「彼のこれ」	осынысы 「彼のこれ」	онысы 「彼のあれ」	сонысы 「彼のそれ」

3.2.4.3 再起代名詞の格変化 (өздік есімдіктің септелуі)

単数				
	人称			
格	一人称	二人称	二人称・丁寧形	三人称
1. 主格	өзім 「私自身が」	өзің 「君自身が」	өзіңіз 「あなたが自身」	өзі 「彼自身が」
2. 属格	өзімнің 「私自身の」	өзіңнің 「君自身の」	өзіңіздің 「あなた自身の」	өзінің 「彼自身の」
3. 与格	өзіме 「私自身に」	өзіне 「君自身に」	өзіңізге 「あなた自身に」	өзіне 「彼自身に」
4. 対格	өзімді 「私自身を」	өзіңді 「君自身を」	өзіңізді 「あなた自身を」	өзін 「彼自身を」
5. 位格	өзімде 「私自身の所で」	өзіңде 「君自身の所で」	өзіңізде 「あなた自身の所で」	өзінде 「彼自身の所で」
6. 奪格	өзімнен 「私自身から」	өзіңнен 「君自身から」	өзіңізден 「あなた自身から」	өзінен 「彼自身から」
7. 助格	өзіммен 「私自身と」	өзіңмен 「君自身と」	өзіңізбен 「あなた自身と」	өзімен 「彼自身と」

複数				
人 称				
格	一人称	二人称	二人称・丁寧形	三人称
1. 主格	өзіміз 「我々自身が」	өздерің 「君達自身が」	өздеріңіз 「あなた達自身が」	өздері 「彼ら自身が」
2. 属格	өзіміздің, өздеріміздің 「我々自身の」	өздеріңнің 「君達自身の」	өздеріңіздің 「あなた達自身の」	өздерінің 「彼ら自身の」
3. 与格	өзімізге, өздерімізге 「我々自身に」	өздеріне 「君達自身に」	өздеріңізге 「あなた達自身に」	өздеріне 「彼ら自身に」
4. 対格	өзімізді, өздерімізді 「我々自身を」	өздеріңді 「君達自身を」	өздеріңізді 「あなた達自身を」	өздерін 「彼ら自身を」
5. 位格	өзімізде, өздерімізде 「我々自身の所で」	өздерінде 「君達自身の所で」	өздеріңізде「あなた 達自身の所で」	өздерінде「彼ら 自身の所で」
6. 奪格	өзімізден, өздерімізден 「我々自身から」	өздеріңнен 「君達自身から」	өздеріңізден 「あなた達自身から」	өздерінен 「彼ら自身から」
7. 助格	өзімізбен, өздерімізбен 「我々自身と」	өздеріңмен 「君達自身と」	өздеріңізбен 「あなた達自身と」	өздерімен 「彼ら自身と」

3.3 動詞類 (егістіктер)

ここでは動詞、副動詞、形動詞を取り上げる。

3.3.1 動詞 (егістік)

動詞は人、物の動作と行為を示し、何をしたのか?、何を実施したのか? という問いに対する回答である。

区分	種類	例
I. 形式による区分	1. 基本	оқу「読む」、жазу「書く」、бару「行く」、келу「来る」、беру「与える」
	2. 派生	тұздау「塩味にする (тұз 塩)」、ойнау「遊ぶ (ойын 遊び)」、кешігу「遅れる (кеш 遅い)」、тазару「きれいになる (таза きれい)」
II. 意味による区分	1. 基本	алу「持つ」、қалу「残る」、көру「見る」、сөйлеу「話す」、әкелу「持ってくる」
	2. 補助 (көмекші)	a) ету「する」、деу「言う」 b) болу「である」、әкету「持ち去る」、тұру「立つ」、шығу「出る」

III. 目的語 (объект) の有無による区分	1. 自動詞 (салт)	бару「行く」、келу「来る」、отыру「座る」、жүру「歩く」、тұру「立つ」
	2. 他動詞 (сабақты)	жазу「を書く」、алу「を持つ」、беру「を与える」、айту「を言う」、ашу「を開ける」、жабу「を閉める」
IV. 動作、行為 (ic-әрекет) の有無による区分	1. 肯定 (болымды)	бару「行く」、келу「来る」、оқу「読む」、жазу「書く」
	2. 否定 (болымсыз)	бармау「行かない」、барған жоқ「行かなかった」、келген емес「来たことがない」
V. 構成による区分	1. 単純	жазу「書く」、оқу「読む」、ойнау「遊ぶ」、гүлдеу「花が咲く」
	2. 複合	以下、複合 1 と複合 2 を参照
複合 1: 複合的な動詞 (күрделі етістік)	a) 「動詞+動詞」の組み合わせ (2 語)	барып келу「行って来る」、кіріп шығу「入って出る」、келіп кету「来て去る」、алып бару「持って行く」、алып қайту「持って帰る」
	b) 「名詞+動詞」の組み合わせ (2 語)	жәрдем ету「援助する (жәрдем 援助、ету する)」、қызмет қылу「貢献する (қызмет 仕事、қылу する)」、адам болу「一人前になる (адам 人、болу である)」、арман ету「将来の夢を見る (арман 夢、ету する)」、үлгі қылу「お手本にする (үлгі 例、қылу する)」、қабыл алу「同意を得る (қабыл 受入れ、алу 持つ)」
	c) 結合 (1 語)	алдап-сулау「言いまぎらす(алдау だます)」、арып-ашу「痩せきる (ару 痩せる)」、шаршап-шалдығу「疲れきる (шаршау 疲れる)」、ойланып-толғану「考え込む (ойлану 考える)」
複合 2 分析的な表現形式 (аналитикалық формалы)	d) 統合 (біріккен) (1 語)	апару「持って行く (алу 持つ、бару 行く)」、әкелу「持って来る (алу 持つ、келу 来る)」、әперу「持って渡す・買ってあげる (алу 持つ、беру 与える)」、бүйту「このようにする (былай このように、ету する)」、сүйту「このようにする (солай このように、ету する)」、өйту「あの

		ようにする (олай аのように, етуする)」
e) 慣用 (тұрақты) (2 語以上)		ауыз жаласу「(悪い意味で) 仲間になる (ауыз 口、жаласу なめあう)」、таяк жеу「叱られる (таяк 杖、жеу 食べる)」、жүрек жалғау「少し食べる (жүрек 心臓、жалғау つなぐ)」、опық жеу「後悔する (жеу 食べる)」、жігері құм болу「がっかりする (жігері やる気、құм 砂、болу である)」、бос қою「自由にさせる (бос 空いた、қою 置く)」
f) 分析 (аналитикалық) 「動詞+補助動詞」 (2 語)		барып еді「行ったのですが... (бару 行く、ету する)」、айта салу「ついでに言う (айту 言う、салу 入れる)」、оқи беру「構わず読む (оқу 読む、беру 与える)」、жазып беру「書いてあげる (жазу 書く、беру 与える)」、алып жіберу「(お酒を) 迷わず飲む (алу 持つ、жіберу 送る)」

3.3.1.1 態 (etic)

動作主と動作対象との間の関係を示す動詞の範疇を態と呼ぶ。

種類	派生接辞	例
1. 再帰態 (өздік)	-ын, -ін, -н	киіну「着替える (кию 着る)」、тарау「自分の髪をとかす (тарау とかす)」、жуыну「自分を洗う (жуу 洗う)」
2. 受動態 (ырықсыз)	-ыл, -іл, -л -ын, -ін, -н	киілу「身に着けられる (кию 着る)」、тарау「広められる、とかされる (тарау とかす)」、жуылу「洗われる (жуу 洗う)」、салыну「入れられる (салу 入れる)」、әкеліну「持ってこられる (әкелу 持ってくる)」
3. 相互態 (ортақ)	-ыс, -іс, -с	сөйлесу「～と会話する (сөйлеу 話す)」、ойласу「互いに考える (ойлау 考える)」、әкелісу「互いに持ちあう (әкелу 持ってくる)」
4. 使役態 (өзгелік)	-дыр, -дір, -тыр, -тір, -ғыз, -гіз, -қыз, -кіз, -т	жуғызу「洗わせる (жуу 洗う)」、жаздыру「書かせる (жазу 書く)」、айтқыздыру「言わせる (айту

		言う)」、 <u>кескізу</u> 「切らせる (кесу 切る)」、 <u>әкелдіру</u> 「持ってこさせる (әкелу 持つてくる)」、 <u>келтіру</u> 「来させる (келу 来る)」、 <u>жүгірту</u> 「走らせる (жүгіру 走る)」
--	--	--

3.3.1.2 動詞の否定 (болымсыз етістік)

動詞の否定形は、動詞の語幹に -ма, -ме, -ба, -бе, -па, -пе という接辞を付加することで形成される。これらの否定接辞の後に人称接辞などがつく。

	語幹末の音		
母音調和	母音、共鳴音の <u>р</u> [r], л [l], й [j], у [w]	共鳴音の <u>м</u> [m], н [n], н [ŋ], 有声子音の <u>з</u> [z], ж [ʒ]	無声子音
後舌母音	-ма- [ma]	-ба- [ba]	-па- [pa]
	<u>бар</u> ма-「行かない」、 ка <u>ра</u> ма-「見ない」	жа <u>з</u> ба-「書かない」、 на <u>н</u> ба-「信じない」	айт <u>п</u> а-「言わない」、 шық <u>п</u> а-「出ない」
前舌母音	-ме- [me]	-бе- [be]	-пе- [pe]
	кел <u>м</u> е-「来ない」、 жүр <u>м</u> е-「歩かない」	ез <u>б</u> е-「潰さない」、 сен <u>б</u> е-「信じない」	іш <u>п</u> е-「飲まない」、 өт <u>п</u> е-「通らない」

※例の太字は語幹末の音、下線は否定の接辞

3.3.1.3 現実過去 (нақтылы өткен шақ)

現実過去は、「～した」のように、行為が実際に起きたことを示す。カザフ語の一般的な教科書では直近の過去時制 (жедел өткен шақ) という名称で知られている。この場合、第3形式の人称接辞を伴う。

単数				
	語幹末の音			
人称	無声子音	母音、有声子音、共鳴音	人称接辞	母音調和
一人称	-ты [tu]	-ды [du]	-м [m]	後舌母音
	-ті [ti]	-ді [di]	-м [m]	前舌母音
二人称	-ты [tu]	-ды [du]	-ң [ŋ]	後舌母音
	-ті [ti]	-ді [di]	-ң [ŋ]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ты [tu]	-ды [du]	-ңыз [ɣɯz]	後舌母音
	-ті [ti]	-ді [di]	-ңіз [ɣiz]	前舌母音
三人称	-ты [tu]	-ды [du]	—	後舌母音
	-ті [ti]	-ді [di]	—	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	無声子音	母音、有声子音、 共鳴音	母音調和
一人称	айт тым 「私が言った」	жаз дым 「私が書いた」	後舌母音
	кет тім 「私が去った」	кел дім 「私が来た」	前舌母音
二人称	айт тың 「君が言った」	жаз дың 「君が書いた」	後舌母音
	кет тің 「君が去った」	кел дің 「君が来た」	前舌母音
二人称・丁寧形	айт тыңыз 「あなたが言った」	жаз дыңыз 「あなたが書いた」	後舌母音
	кет тіңіз 「あなたが去った」	кел діңіз 「あなたが来た」	前舌母音
三人称	айт ты 「彼が言った」	жаз ды 「彼が書いた」	後舌母音
	кет ті 「彼が去った」	кел ді 「彼が来た」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は現実過去の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	無声子音	母音、有声子音、 共鳴音	人称接辞	母音調和
一人称	-ты [tɯ]	-ды [dɯ]	-к [q]	後舌母音
	-ті [tɪ]	-ді [dɪ]	-к [k]	前舌母音
二人称	-ты [tɯ]	-ды [dɯ]	-ндар [ɲdar]	後舌母音
	-ті [tɪ]	-ді [dɪ]	-ндер [ɲder]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ты [tɯ]	-ды [dɯ]	-ңыздар [ɲɯzdar]	後舌母音
	-ті [tɪ]	-ді [dɪ]	-ңиздер [ɲɪzder]	前舌母音
三人称	-ты [tɯ]	-ды [dɯ]	—	後舌母音
	-ті [tɪ]	-ді [dɪ]	—	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	無声子音	母音、有声子音、 共鳴音	母音調和
一人称	айттык 「我々が言った」	жаздык 「我々が書いた」	後舌母音
	кеттік 「我々が去った」	келдік 「我々が来た」	前舌母音
二人称	айттыңдар 「君達が言った」	жаздыңдар 「君達が書いた」	後舌母音
	кеттіңдер 「君達が去った」	келдіңдер 「君達が来た」	前舌母音
二人称・丁寧形	айттыңыздар 「あなた達が言った」	жаздыңыздар 「あなた達が書いた」	後舌母音
	кеттіңіздер 「あなた達が去った」	келдіңіздер 「あなた達が来た」	前舌母音
三人称	айтты 「彼らが言った」	жазды 「彼らが書いた」	後舌母音
	кетті 「彼らが去った」	келді 「彼らが来た」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は現実過去の接辞

3.3.1.4 法 (рай)

カザフ語には条件法、命令法、願望法という3つの法がある。

3.3.1.4.1 条件法 (шартты рай)

条件法は、「～するなら」というように、ある行為を実行する、あるいは実行しない条件を示す。
この場合、第3形式の人称接辞を伴う。

単数				
人称	語幹末の音	人称接辞	母音調和	例
一人称	-ca [sa]	-м [m]	後舌母音	барсам 「私が行くなら」
	-ce [se]	-м [m]	前舌母音	келсем 「私が来るなら」
二人称	-ca [sa]	-ң [ŋ]	後舌母音	барсаң 「君が行くなら」
	-ce [se]	-ң [ŋ]	前舌母音	келсең 「君が来るなら」
二人称・丁寧形	-ca [sa]	-ңыз [ŋwz]	後舌母音	барсаныз 「あなたが行くなら」

	-ce [se]	-ніз [ɲɪz]	前舌母音	келсе <u>ніз</u> 「あなたが来るなら」
三人称	-ca [sa]	—	後舌母音	бар <u>са</u> 「彼が行くなら」
	-ce [se]	—	前舌母音	кел <u>се</u> 「彼が来るなら」

※例の下線は条件法の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	母音、子音	人称接辞	母音調和	例
一人称	-ca [sa]	-к [q]	後舌母音	бар <u>са</u> к 「我々が行くなら」
	-ce [se]	-к [k]	前舌母音	кел <u>се</u> к 「我々が来るなら」
二人称	-ca [sa]	-ндар [ɲdar]	後舌母音	бар <u>са</u> ндар 「君達が行くなら」
	-ce [se]	-ндер [ɲder]	前舌母音	кел <u>се</u> ндер 「君達が来るなら」
二人称・丁寧形	-ca [sa]	-ңыздар [ɲɪzdar]	後舌母音	бар <u>са</u> ңыздар 「あなた達が行くなら」
	-ce [se]	-ніздер [ɲɪzder]	前舌母音	кел <u>се</u> ніздер 「あなた達が来るなら」
三人称	-ca [sa]	—	後舌母音	бар <u>са</u> 「彼らが行くなら」
	-ce [se]	—	前舌母音	кел <u>се</u> 「彼らが来るなら」

※例の下線は条件法の接辞

3.3.1.4.2 命令法 (бұйрық рай)

命令法は命令、依頼、助言、要求を表現する。この場合、第4形式の人称接辞を伴う。

単数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	-айын [ajɪn]	-йын [jɪn]	後舌母音
	-ейін [ejɪn]	-йін [jɪn]	前舌母音
二人称	—	—	後舌母音
	—	—	前舌母音
二人称・丁寧形	-ыңыз [ɲɪɲɪz]	-ңыз [ɲɪz]	後舌母音
	-ініз [ɲɪz]	-ніз [ɲɪz]	前舌母音

三人称	-сын [swɯn]	-сын [swɯn]	後舌母音
	-сін [sin]	-сін [sin]	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	<u>барайын</u> 「(私が) 行こう」	<u>ойнайын</u> 「(私が) 遊ぼう」	後舌母音
	<u>келейін</u> 「(私が) 来よう」	<u>билейін</u> 「(私が) 踊ろう」	前舌母音
二人称	<u>бар</u> 「(君が) 行きなさい」	<u>ойна</u> 「(君が) 遊びなさい」	後舌母音
	<u>кел</u> 「(君が) 来なさい」	<u>биле</u> 「(君が) 踊りなさい」	前舌母音
二人称・丁寧形	<u>барыңыз</u> 「(あなたが) 行きなさい」	<u>ойнаңыз</u> 「(あなたが) 遊びなさい」	後舌母音
	<u>келіңіз</u> 「(あなたが) 来なさい」	<u>билеңіз</u> 「(あなたが) 踊りなさい」	前舌母音
三人称	<u>барсын</u> 「(彼が) 行くように」	<u>ойнасын</u> 「(彼が) 遊ぶように」	後舌母音
	<u>келсін</u> 「(彼が) 来るように」	<u>сөйлесін</u> 「(彼が) 話すように」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は命令法の接辞

複数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	-айық [ajɯq]	-йық [jɯq]	後舌母音
	-ейік [ejik]	-йік [jik]	前舌母音
二人称	-ыңдар [ɯŋdar]	-ңдар [ŋdar]	後舌母音
	-іңдер [iŋder]	-ңдер [ŋder]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ыңыздар [ɯŋɯzdar]	-ңыздар [ŋɯzdar]	後舌母音
	-іңіздер [iŋizder]	-ңіздер [ŋizder]	前舌母音
三人称	-сын [swɯn]	-сын [swɯn]	後舌母音
	-сін [sin]	-сін [sin]	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	<u>барайық</u> 「(我々が) 行こう」	<u>ойнайық</u> 「(我々が) 遊ぼう」	後舌母音
	<u>келейік</u> 「(我々が) 来よう」	<u>билейік</u> 「(我々が) 踊ろう」	前舌母音
二人称	<u>барындар</u> 「(君達が) 行きなさい」	<u>ойнандар</u> 「(君達が) 遊びなさい」	後舌母音
	<u>келіндер</u> 「(君達が) 行きなさい」	<u>билеңдер</u> 「(君達が) 踊りなさい」	前舌母音
二人称・丁寧形	<u>барыңыздар</u> 「(あなた達が) 行きなさい」	<u>ойнаңыздар</u> 「(あなた達が) 遊びなさい」	後舌母音
	<u>келініздер</u> 「(あなた達が) 来なさい」	<u>билеңіздер</u> 「(あなた達が) 踊りなさい」	前舌母音
三人称	<u>барсын</u> 「(彼らが) 行くように」	<u>ойнасын</u> 「(彼らが) 遊ぶように」	後舌母音
	<u>келсін</u> 「(彼らが) 来るように」	<u>сөйлесін</u> 「(彼らが) 話すように」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は命令法の接辞

3.3.1.4.3 願望法 (қалау рай)

願望法は「～したい、～したがる」などのように、願望を示す。人称変化は他の動詞の場合と異なり、所有の人称接辞が用いられる。前項動詞の後に келу「来る」を置くことで、願望の表現をすることができる。例えば、「барғым келеді»は元々「私の行く気が来る」という意味であったが、そこから「私が行きたい」という意味が派生した。願望の時制やアスペクトを調整する場合、後項動詞の形態を変化させる必要がある。

単数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音、有声子音	無声子音	人称接辞	母音調和	補助動詞
一人称	-ғы [ɣʃ]	-қы [qʃ]	-м [m]	後舌母音	келеді, келді, келген, келер, келетін, келіпті
	-гі [gɪ]	-кі [kɪ]	-м [m]	前舌母音	
二人称	-ғы [ɣʃ]	-қы [qʃ]	-н [ŋ]	後舌母音	
	-гі [gɪ]	-кі [kɪ]	-н [ŋ]	前舌母音	
二人称・丁寧形	-ғы [ɣʃ]	-қы [qʃ]	-ңыз [ŋɯz]	後舌母音	
	-гі [gɪ]	-кі [kɪ]	-іңіз [ŋɪz]	前舌母音	
三人称	-ғы [ɣʃ]	-қы [qʃ]	-сы [sʃ]	後舌母音	
	-гі [gɪ]	-кі [kɪ]	-сі [sɪ]	前舌母音	

単数			
	語幹末の音		
人称	母音、共鳴音、有声子音	無声子音	補助動詞
一人称	барғым 「私が行きたい」	айтқым 「私が言いたい」	келеді「～たい・たがる」、келді「～たかった・たがった」、келген「～たかったことがある・たがったことがある」、келер「～たいだろう・たがるだろう」、келетін「～たいものであった・たがるものだった」、келіпті「～たかったそうだ」
	келгім 「私が来たい」	кеткім 「私が去りたい」	
二人称	барғың 「君が行きたがる」	айтқың 「君が言いたがる」	
	келгің 「君が来たがる」	кеткің 「君が去りたがる」	
二人称・丁寧形	барғыңыз 「あなたが行きたがる」	айтқыңыз 「あなたが言いたがる」	
	келгіңіз 「あなたが来たがる」	кеткіңіз 「あなたが去りたがる」	
三人称	барғысы 「彼が行きたがる」	айтқысы 「彼が言いたがる」	
	келгісі 「彼が来たがる」	кеткісі 「彼が去りたがる」	

※例の太字は語幹末の音、下線は願望法の接辞

複数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音、有声子音	無声子音	人称接辞	母音調和	補助動詞
一人称	-ғы [ɣɯ]	-қы [qɯ]	-мыз [mɯz]	後舌母音	келеді, келді, келген, келер, келетін, келіпті
	-гі [ɣɪ]	-кі [kɪ]	-міз [mɪz]	前舌母音	
二人称	-ғы [ɣɯ]	-қы [qɯ]	-ларың [larɯŋ]	後舌母音	
	-гі [ɣɪ]	-кі [kɪ]	-лерің [lerɯŋ]	前舌母音	
二人称・丁寧形	-ғы [ɣɯ]	-қы [qɯ]	-ларыңыз [larɯŋɯz]	後舌母音	
	-гі [ɣɪ]	-кі [kɪ]	-леріңіз [lerɯŋɪz]	前舌母音	
三人称	-ғы [ɣɯ]	-қы [qɯ]	-лары [larɯ]	後舌母音	
	-гі [ɣɪ]	-кі [kɪ]	-лері [lerɪ]	前舌母音	

複数			
	語幹末の音		
人称	母音、共鳴音、有声子音	無声子音	補助動詞
一人称	барғымыз 「我々が行きたい」	айтқымыз 「我々が言いたい」	

	келгіміз 「我々が来たい」	кеткіміз 「我々が去りたい」	келеді「～たい・たがる」、 келді「～たかった・たが った」、келген「～たかつ たことがある・たがった ことがある」、келер「～た いだろう・たがるだろ う」、келетін「～たいもの であった・たがるものだ った」、келіпті「～たかつ たそうだ」
二人称	барғыларың 「君達が行きたがる」	айтқыларың 「君達が言いたがる」	
	келгілерің 「君達が来たがる」	кеткілерің 「君達が去りたがる」	
二人称・ 丁寧形	барғыларыңыз 「あなた達が行きたがる」	айтқыларыңыз 「あなた達が言いたがる」	
	келгілеріңіз 「あなた達が来たがる」	кеткілеріңіз 「あなた達が去りたがる」	
三人称	барғылары 「彼らが行きたがる」	айтқылары 「彼らが言いたがる」	
	келгілері 「彼らが来たがる」	кеткілері 「彼らが去りたがる」	

※例の太字は語幹末の音、下線は願望法の接辞

3.3.1.5 副動詞 (көсемше)

副動詞は動詞から派生して副詞的な役割を果たす。副動詞の派生接辞の後ろに人称接辞が付くことで、述語として使用されることがある。

種類	派生接辞	例
1. 過去の伝聞 (субъективті өткен шақ)	-ып, -іп, -п	бар <u>ып</u> 「行ったそうだ」、кел <u>іп</u> 「来たそうだ」、 оқ <u>ып</u> 「読んだそうだ」
2. 未完了の継続 (ауыспалы келер шақ)	-а, -е, -й	бар <u>а</u> 「行く」、кел <u>е</u> 「来る」、ойнай <u>ы</u> 「遊ぶ」
3. 目的 (мақсат)	-ғалы, -гелі, -қалы, -келі	бар <u>ғалы</u> 「行くつもりで」、кел <u>гелі</u> 「来るつも りで」、айт <u>қалы</u> 「言うつもりで」、кет <u>келі</u> 「去 るつもりで」
4. 期限 (мезгіл)	-ғанша, -генше, -қанша, -кенше	бар <u>ғанша</u> 「行く前に・までに」、кел <u>генше</u> 「来 る前に・までに」、кет <u>кенше</u> 「去る前に・まで に」
5. (否定の) 範囲 (шарт)	-майынша, -мейінше	бар <u>майынша</u> 「行かない限り」、кел <u>мейінше</u> 「来ない限り」、бер <u>мейінше</u> 「与えない限り」

3.3.1.5.1 過去の伝聞 (субъективті өткен шақ)

過去の伝聞が述語として使われる場合、-ып,-іп,-п という接辞の後に第2形式の人称接辞が付加される必要がある。話者が動作の瞬間にその場に居合わせなかったことから、「～したそうだ」のよう

に、他の人から聞いたことを示す。この他、「実は～した」のように、動作が起きた後になって話者が気づいたことも示す。カザフ語の教科書では *бұрынғы өткен шақ* (昔の過去時制) という名称で知られている。この表現は過去時制以外も表現でき、例えば、文中で、列挙する際の「～して、～して」と同じような意味になる。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-пын [pɯn]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-пін [pɪn]	前舌母音
二人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-сын [sɯn]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-сін [sɪn]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ып [ɯp]	-п [p]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-сіз [sɪz]	前舌母音
三人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-ты [tɯ]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-ті [tɪ]	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	<u>барып</u> пын 「私が行ったそうだ」	<u>оқып</u> пын 「私が読んだそうだ」	後舌母音
	<u>келіп</u> пін 「私が来たそうだ」	<u>іздеп</u> пін 「私が探したそうだ」	前舌母音
二人称	<u>барып</u> сың 「君が行ったそうだ」	<u>оқып</u> сың 「君が読んだそうだ」	後舌母音
	<u>келіп</u> сін 「君が来たそうだ」	<u>іздеп</u> сін 「君が探したそうだ」	前舌母音
二人称・丁寧形	<u>барып</u> сыз 「あなたが行ったそうだ」	<u>оқып</u> сыз 「あなたが読んだそうだ」	後舌母音
	<u>келіп</u> сіз 「あなたが来たそうだ」	<u>іздеп</u> сіз 「あなたが探したそうだ」	前舌母音
三人称	<u>барып</u> ты 「彼が行ったそうだ」	<u>оқып</u> ты 「彼が読んだそうだ」	後舌母音
	<u>келіп</u> ті 「彼が来たそうだ」	<u>іздеп</u> ті 「彼が探したそうだ」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の伝聞の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-пыз [pɯz]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-піз [pɪz]	前舌母音
二人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-сыңдар [sɯŋdar]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-сіндер [sɪnder]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ып [ɯp]	-п [p]	-сыздар [sɯzdar]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-сіздер [sɪzder]	前舌母音
三人称	-ып [ɯp]	-п [p]	-ты [tɯ]	後舌母音
	-іп [ɪp]	-п [p]	-ті [tɪ]	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	бары <u>ппыз</u> 「我々が行ったそうだ」	оқы <u>ппыз</u> 「我々が読んだそうだ」	後舌母音
	келі <u>ппіз</u> 「我々が来たそうだ」	ізде <u>ппіз</u> 「我々が探したそうだ」	前舌母音
二人称	бары <u>псыңдар</u> 「君達が行ったそうだ」	оқы <u>псыңдар</u> 「君達が読んだそうだ」	後舌母音
	келі <u>псіндер</u> 「君達が来たそうだ」	ізде <u>псіндер</u> 「君達が探したそうだ」	前舌母音
二人称・丁寧形	бары <u>псыздар</u> 「あなた達が行ったそうだ」	оқы <u>псыздар</u> 「あなた達が読んだそうだ」	後舌母音
	келі <u>псіздер</u> 「あなた達が来たそうだ」	ізде <u>псіздер</u> 「あなた達が探したそうだ」	前舌母音
三人称	бары <u>пты</u> 「彼らが行ったそうだ」	оқы <u>пты</u> 「彼らが読んだそうだ」	後舌母音
	келі <u>пті</u> 「彼らが来たそうだ」	ізде <u>пті</u> 「彼らが探したそうだ」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の伝聞の接辞

3.3.1.5.2 未完了の継続 (ауыспалы келер шак)

未完了の継続が述語として用いられる場合、-а, -е という接辞の後に第2形式の人称接辞が置かれる必要がある。これは、文脈によって、現在時制の意味（「～する」）でも未来時制（「～するだろう」）の意味でも使用される。カザフ語の一般的な教科書では、келер шак (未来時制) と説明され、文中の従属節では「～しながら」という付帯状況を示す。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-a [a]	-й [j]	-мын [mɯn]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-мін [mɪn]	前舌母音
二人称	-a [a]	-й [j]	-сын [sɯŋ]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-сін [sɪŋ]	前舌母音
二人称・丁寧形	-a [a]	-й [j]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-сіз [sɪz]	前舌母音
三人称	-a [a]	-й [j]	-ды [dɯ]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-ді [dɪ]	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	барамын 「私が行く」	ойнаймын 「私が遊ぶ」	後舌母音
	келемін 「私が来る」	сөйлеймін 「私が話す」	前舌母音
二人称	барасың 「君が行く」	ойнайсың 「君が遊ぶ」	後舌母音
	келесің 「君が来る」	сөйлейсің 「君が話す」	前舌母音
二人称・丁寧形	барасыз 「あなたが行く」	ойнайсыз 「あなたが遊ぶ」	後舌母音
	келесіз 「あなたが来る」	сөйлейсіз 「あなたが話す」	前舌母音
三人称	барaды 「彼が行く」	ойнайды 「彼が遊ぶ」	後舌母音
	келеді 「彼が来る」	сөйлейді 「彼が話す」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未完了の継続の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-a [a]	-й [j]	-мыз [mɯz]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-міз [mɪz]	前舌母音
二人称	-a [a]	-й [j]	-сындар [sɯŋdar]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-сіндер [sɪŋder]	前舌母音

二人称・丁寧形	-a [a]	-й [j]	-сыздар [suɪzdar]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-сіздер [sɪzder]	前舌母音
三人称	-a [a]	-й [j]	-ды [dɪ]	後舌母音
	-e [e]	-й [j]	-ді [dɪ]	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	барамыз 「我々が行く」	ойнаймыз 「我々が遊ぶ」	後舌母音
	келеміз 「我々が来る」	сөйлейміз 「我々が話す」	前舌母音
二人称	барасындар 「君達が行く」	ойнайсындар 「君達が遊ぶ」	後舌母音
	келесіндер 「君達が来る」	сөйлейсіндер 「君達が話す」	前舌母音
二人称・丁寧形	барасыздар 「あなた達が行く」	ойнайсыздар 「あなた達が遊ぶ」	後舌母音
	келесіздер 「あなた達が来る」	сөйлейсіздер 「あなた達が話す」	前舌母音
三人称	баралды 「彼らが行く」	ойнайды 「彼らが遊ぶ」	後舌母音
	келеді 「彼らが来る」	сөйлейді 「彼らが話す」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未完了の継続の接辞

3.3.1.5.3 進行的現在の通常形 (нак осы шақ (жай түрі))

進行的現在の通常形は、отыр, тұр, жатыр, жүр という動詞に第 1 形式の人称接辞を組み合わせることで作られる。進行的現在は、話し手が話している時にまさに起こっている動作を指す。

単数			
人称	動詞	人称接辞	母音調和
一人称	отыр, тұр, жатыр	-мын	後舌母音
	отырмын「私が座っている」、 тұрмын「私が立っている」 жатырмын「私が横になっている」		
	жүр	-мін	
	жүрмін「私が歩いている」		前舌母音
二人称	отыр, тұр, жатыр	-сың	後舌母音
	отырсың「君が座っている」 тұрсың「君が立っている」		

	жатырсың「君が横になっている」		前舌母音
	жүр	-сің	
	жүрсің「君が歩いている」		
二人称・丁寧形	отыр, тұр, жатыр	-сыз	後舌母音
	отырсыз「あなたが座っている」、 тұрсыз「あなたが立っている」 жатырсыз「あなたが横になっている」		
	жүр	-сіз	
	жүрсіз「あなたが歩いている」		前舌母音
	三人称	отыр, тұр, жатыр	—
отыр「彼が座っている」 тұр「彼が立っている」 жатыр「彼が横になっている」			
жүр		—	
жүр「彼が歩いている」		前舌母音	

複数			
人称	補助動詞	人称接辞	母音調和
一人称	отыр, тұр, жатыр	-мыз	後舌母音
	отырмыз「我々が座っている」		
	тұрмыз「我々が立っている」		
	жатырмыз「我々が横になっている」		
	жүр	-міз	前舌母音
жүрміз「我々が歩いている」			
二人称	отыр, тұр, жатыр	-сындар	後舌母音
	отырсындар「君達が座っている」		
	тұрсындар「君達が立っている」		
	жатырсындар「君達が横になっている」		
	жүр	-сіндер	前舌母音
жүрсіндер「君達が歩いている」			
二人称・丁寧形	отыр, тұр, жатыр	-сыздар	後舌母音
	отырсыздар「あなた達が座っている」		
	тұрсыздар「あなた達が立っている」		
	жатырсыздар「あなた達が横になっている」		
	жүр	-сіздер	前舌母音
жүрсіздер「あなた達が歩いている」			
三人称	отыр, тұр, жатыр	—	後舌母音
	отыр「彼らが座っている」		
	тұр「彼らが立っている」		
	жатыр「彼らが横になっている」		

	жүр	—	前舌母音
	жүр「彼らが歩いている」		

3.3.1.5.4 進行的現在の複合形 (нақ осы шақ (күрделі түрі))

進行的現在の複合形は、前項動詞の語幹末に過去の伝聞の -ып, -іп, -п または未完了の継続の -а, -е という接辞をつけ、後項動詞の отыр, тұр, жатыр, жүр を補助動詞化することで作られる。後項動詞には第 1 形式の人称接辞が付加される。この場合でも、通常形と同様、行為と動作がまさに話している時に起きていることを示す。

単数				
人称	接辞	補助動詞	人称接辞	母音調和
一人称	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	-мын	後舌母音
	сөйлеп отырмын「私が話している」			
	келіп тұрмын「私が来ている」			
	жазып жатырмын「私が書いている」			
	-а, -е	жатыр	-мын	前舌母音
	бара жатырмын「私が行く途中にある」			
	-ып, -іп, -п	жүр	-мін	
二人称	-ып, -іп, -п	отыр, тұр, жатыр	-сың	後舌母音
	сөйлеп отырсың「君が話している」			
	келіп тұрсың「君が来ている」			
	жазып жатырсың「君が書いている」			
	-а, -е	жатыр	-сың	前舌母音
	бара жатырсың「君が行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр	-сің	
二人称・丁寧形	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	-сыз	後舌母音
	сөйлеп отырсыз「あなたが話している」			
	келіп тұрсыз「あなたが来ている」			
	жазып жатырсыз「あなたが書いている」			
	-а, -е	жатыр	-сыз	前舌母音
	бара жатырсыз「あなたが行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр	-сіз	
三人称	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	—	後舌母音
	сөйлеп отыр「彼が話している」			
	келіп тұр「彼が来ている」			
	жазып жатыр「彼が書いている」			

	-а, -е	жатыр	—	前舌母音
	бара жатыр「彼が行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр	—	
	оқып жүр「彼が読んでいる」			

※例の下線は進行的現在の複合形を作るための前項動詞の語幹につく接辞

複数				
人称	接辞	補助動詞	人称接辞	母音調和
一人称	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	-мыз	後舌母音
	сөйлеп отырмыз「我々が話している」			
	келіп тұрмыз「我々が来ている」			
	жазып жатырмыз「我々が書いている」			
	-а, -е	жатыр	-мыз	前舌母音
	бара жатырмыз「我々が行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр	-міз	
оқып жүрміз「我々が読んでいる」				
二人称	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	-сыңдар	後舌母音
	сөйлеп отырсыңдар「君達が話している」			
	келіп тұрсыңдар「君達が来ている」			
	жазып жатырсыңдар「君達が書いている」			
	-а, -е	жатыр	-сыңдар	前舌母音
	бара жатырсыңдар「君達が行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр	-сіңдер	
оқып жүрсіңдер「君達が読んでいる」				
二人称・丁寧形	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	-сыздар	後舌母音
	сөйлеп отырсыздар「あなたが話している」			
	келіп тұрсыздар「あなたが来ている」			
	жазып жатырсыздар「あなたが書いている」			
	-а, -е	жатыр	-сыздар	前舌母音
	бара жатырсыздар「あなた達が行く途中にある」			
	-п, -ып, -іп	жүр		
оқып жүрсіздер「あなたが読んでいる」				
三人称	-п, -ып, -іп	отыр, тұр, жатыр	—	後舌母音
	сөйлеп отыр「彼らが話している」			
	келіп тұр「彼らが来ている」			
	жазып жатыр「彼らが書いている」			
	-а, -е	жатыр	—	
	бара жатыр「彼らが行く途中にある」			

	-п, -ып, -іп	жүр	—	前舌母音
	оқып жүр「彼らが読んでいる」			

※例の下線は進行的現在の複合形を作るための前項動詞の語幹につく接辞

3.3.1.6 形動詞 (есімше)

形動詞は動詞から派生して形容詞的な役割を果たす。形容詞だけでなく、そこから派生して動詞や名詞の文法的特徴を持ちうる。例えば、барған は бару 「行く」という動詞から派生した「過去の経験」の形動詞である、そして、барған бала と言えば、「行った子供」というように形容詞としての役割を果たし、барған емес と言えば、「行ったことがない」というように名詞の役割を果たす。形動詞に人称接辞が付くことで、形動詞は動詞になる。

種類	派生接辞	例
1. 過去の経験 (нәтижелі өткен шақ)	-ған, -ген, -қан, -кен	бар <u>ған</u> 「行ったことがあった」、кел <u>ген</u> 「来たことがあった」、айт <u>қан</u> 「言ったことがあった」、кет <u>кен</u> 「去ったことがあった」
2. 過去の習慣 (дағдылы өткен шақ)	-атын, -етін, -йтын, -йтін	бар <u>атын</u> 「(当時よく) 行くものであった」、кел <u>етін</u> 「(当時よく) 来るものであった」、окит <u>ын</u> 「(当時よく) 読むものであった」
	-ушы, -уші	бару <u>шы</u> 「(当時よく) 行くものであった」、келу <u>ші</u> 「(当時よく) 来るものであった」
3. 未来の予測 (болжалды келер шақ)	-ар, -ер, -р	бар <u>ар</u> 「行くだろう」、кел <u>ер</u> 「来るだろう」、айт <u>ар</u> 「言うだろう」、кет <u>ер</u> 「去るだろう」
	否定接辞-с	бар <u>мас</u> 「行くはずがない」、кел <u>мес</u> 「来るはずがない」
4. 未来への意思 (мақсатты келер шақ)	-мақ, -мек, -бақ, -бек, -пақ, -пек	бар <u>мақ</u> 「行くつもりである」、кел <u>мек</u> 「来るつもりである」、айт <u>пақ</u> 「言うつもりである」、көр <u>мек</u> 「見るつもりだ」、кет <u>пек</u> 「去るつもりである」

3.3.1.6.1 過去の経験 (нәтижелі өткен шақ)

過去の経験は -ған, -ген, -қан, -кен という接辞によって表され、話者が経験したことを示す。カザフ語の一般的な教科書では бұрынғы өткен шақ (昔の過去時制) という名称で知られている。過去の経験が述語として使用される場合、-ған, -ген, -қан, -кен という接辞の後に第 1 形式の人称接辞がつく必要がある。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数				
	語幹末の音			
人称	母音、有声子音、共鳴音	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-ған [ɣan]	-қан [qan]	-мын [mɯn]	後舌母音
	-ген [gen]	-кен [ken]	-мін [mɪn]	前舌母音
二人称	-ған [ɣan]	-қан [qan]	-сың [sɯŋ]	後舌母音
	-ген [gen]	-кен [ken]	-сің [sɪŋ]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ған [ɣan]	-қан [qan]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	-ген [gen]	-кен [ken]	-сіз [sɪz]	前舌母音
三人称	-ған [ɣan]	-қан [qan]	—	後舌母音
	-ген [gen]	-кен [ken]	—	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	母音、有声子音、共鳴音	無声子音	母音調和
一人称	барғанмын 「私は行ったことがあった」	айтқанмын 「私は言ったことがあった」	後舌母音
	келгенмін 「私は来たことがあった」	кеткенмін 「私は去ったことがあった」	前舌母音
二人称	барғансың 「君は行ったことがあった」	айтқансың 「君は言ったことがあった」	後舌母音
	келгенсің 「君は来たことがあった」	кеткенсің 「君は去ったことがあった」	前舌母音
二人称・丁寧形	барғансыз 「あなたは行ったことがあった」	айтқансыз 「あなたは言ったことがあった」	後舌母音
	келгенсіз 「あなたは来たことがあった」	кеткенсіз 「あなたは去ったことがあった」	前舌母音
三人称	барған 「彼らは行ったことがあった」	айтқан 「彼らは言ったことがあった」	後舌母音
	келген 「彼らは来たことがあった」	кеткен 「彼らは去ったことがあった」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の経験の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	母音、有声子音、共鳴音	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-ған [ɣɑn]	-қан [qɑn]	-быз [bɯz]	後舌母音
	-ген [ɣen]	-кен [ken]	-біз [bɪz]	前舌母音
二人称	-ған [ɣɑn]	-қан [qɑn]	-сыңдар [sɯŋdar]	後舌母音
	-ген [ɣen]	-кен [ken]	-сіңдер [sɪŋder]	前舌母音
二人称・丁寧形	-ған [ɣɑn]	-қан [qɑn]	-сыздар [sɯzdar]	後舌母音
	-ген [ɣen]	-кен [ken]	-сіздер [sɪzder]	前舌母音
三人称	-ған [ɣɑn]	-қан [qɑn]	—	後舌母音
	-ген [ɣen]	-кен [ken]	—	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	母音、有声子音、共鳴音	無声子音	母音調和
一人称	бар <u>ған</u> быз 「我々は行ったことがあった」	айт <u>қан</u> быз 「我々は言ったことがあった」	後舌母音
	кел <u>ген</u> біз 「我々は来たことがあった」	кет <u>кен</u> біз 「我々は去ったことがあった」	前舌母音
二人称	бар <u>ған</u> сыңдар 「君達は行ったことがあった」	айт <u>қан</u> сыңдар 「君達は言ったことがあった」	後舌母音
	кел <u>ген</u> сіңдер 「君達は来たことがあった」	кет <u>кен</u> сіңдер 「君達は去ったことがあった」	前舌母音
二人称・丁寧形	бар <u>ған</u> сыздар 「あなた達は行ったことがあった」	айт <u>қан</u> сыздар 「あなた達は言ったことがあった」	後舌母音
	кел <u>ген</u> сіздер 「あなた達は来たことがあった」	кет <u>кен</u> сіздер 「あなた達は去ったことがあった」	前舌母音
三人称	бар <u>ған</u> 「彼らは行ったことがあった」	айт <u>қан</u> 「彼らは言ったことがあった」	後舌母音
	кел <u>ген</u> 「彼らは来たことがあった」	кет <u>кен</u> 「彼らは去ったことがあった」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の経験の接辞

3.3.1.6.2 過去の習慣 (дағдылы өткен шақ)

過去の習慣は、-атын, -етін, -йтын, -йтін という接辞によって表現され、「当時よく～するものであった」というように、過去に起きた出来事が習慣化された、つまり反復された行為を示す。過去の習慣が述語として用いられる場合、-атын, -етін, -йтын, -йтін という接辞の後に第1形式の人称接辞がつく。カザフ語の教科書では өткен шақ (過去時制) と説明されているが、「～することになってい

る」、「本来なら～するところだ」というように、過去以外の時制を指すのにも使われることがある。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-атын [atun]	-йтын [jtun]	-мын [mun]	後舌母音
	-егін [etn]	-йгін [jtn]	-мін [mn]	前舌母音
二人称	-атын [atun]	-йтын [jtun]	-сың [suŋ]	後舌母音
	-егін [etn]	-йгін [jtn]	-сің [sɪŋ]	前舌母音
二人称・丁寧形	-атын [atun]	-йтын [jtun]	-сыз [swz]	後舌母音
	-егін [etn]	-йгін [jtn]	-сіз [siz]	前舌母音
三人称	-атын [atun]	-йтын [jtun]	—	後舌母音
	-егін [etn]	-йгін [jtn]	—	前舌母音

単数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	баратынмын 「私は(当時よく)行く ものであった」	ойнайтынмын 「私は(当時よく)遊ぶ ものであった」	後舌母音
	келетінмін 「私は(当時よく)来る ものであった」	сөйлейтінмін 「私は(当時よく)話す ものであった」	前舌母音
二人称	баратынсың 「君は(当時よく)行く ものであった」	ойнайтынсың 「君は(当時よく)遊ぶ ものであった」	後舌母音
	келетінсің 「君は(当時よく)来る ものであった」	сөйлейтінсің 「君は(当時よく)話す ものであった」	前舌母音
二人称・丁寧形	баратынсыз 「あなたは(当時よく) 行くものであった」	ойнайтынсыз 「あなたは(当時よく) 遊ぶものであった」	後舌母音
	келетінсіз 「あなたは(当時よく) 来るものであった」	сөйлейтінсіз 「あなたは(当時よく) 話すものであった」	前舌母音
三人称	баратын 「彼らは(当時よく)行 くものであった」	ойнайтын 「彼らは(当時よく)遊 ぶものであった」	後舌母音

	келетін 「彼らは(当時よく)来るものであった」	сөйлейтін 「彼らは(当時よく)話すものであった」	前舌母音
--	---------------------------------------	---	------

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の習慣の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-атын [atɯn]	-йтын [jtɯn]	-быз [bɯz]	後舌母音
	-етін [etɯn]	-йтін [jtɯn]	-біз [bɯz]	前舌母音
二人称	-атын [atɯn]	-йтын [jtɯn]	-сыңдар [sɯŋdar]	後舌母音
	-етін [etɯn]	-йтін [jtɯn]	-сіңдер [sɯŋder]	前舌母音
二人称・丁寧形	-атын [atɯn]	-йтын [jtɯn]	-сыздар [sɯzdar]	後舌母音
	-етін [etɯn]	-йтін [jtɯn]	-сіздер [sɯzder]	前舌母音
三人称	-атын [atɯn]	-йтын [jtɯn]	—	後舌母音
	-етін [etɯn]	-йтін [jtɯn]	—	前舌母音

複数			
	語幹末の音		
人称	子音	母音	母音調和
一人称	баратынбыз 「我々は(当時よく)行くものであった」	ойнайтынбыз 「我々は(当時よく)遊ぶものであった」	後舌母音
	келетінбіз 「我々は(当時よく)来るものであった」	сөйлейтінбіз 「我々は(当時よく)話すものであった」	前舌母音
二人称	баратыңсыңдар 「君達は(当時よく)行くものであった」	ойнайтынсыңдар 「君達は(当時よく)遊ぶものであった」	後舌母音
	келетінсіндер 「君達は(当時よく)来るものであった」	сөйлейтінсіндер 「君達は(当時よく)話すものであった」	前舌母音
二人称・丁寧形	баратыңсыздар 「あなた達は(当時よく)行くものであった」	ойнайтынсыздар 「あなた達は(当時よく)遊ぶものであった」	後舌母音
	келетінсіздер 「あなた達は(当時よく)来るものであった」	сөйлейтінсіздер 「あなた達は(当時よく)話すものであった」	前舌母音

三人称	баратын 「彼らは(当時よく)行くものであった」	ойнайтын 「彼らは(当時よく)遊ぶものであった」	後舌母音
	келетін 「彼らは(当時よく)来るものであった」	сөйлейтін 「彼らは(当時よく)話すものであった」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は過去の習慣の接辞

3.3.1.6.3 未来の予測 (болжалды келер шақ)

未来の予測は、未来の行動が実現するのか、あるいは実現しないのかという曖昧さを予測する範疇である。肯定形と否定形で形が異なる。

3.3.1.6.3.1 未来の予測の肯定形

未来の予測の肯定形は動詞語幹の後に -р, -ар, -ер という接辞を付加することで形成される。述語として使われる場合、これらの接辞の後に第 1 形式の人称接辞がつく。カザフ語の教科書では、**келер шақ** (未来時制) となっている。主要な訳である「～だろう」という意味以外にも、「本来なら～するところだ」という意味も指す。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-ар [ar]	-р [r]	-мын [mɯn]	後舌母音
	барармын「私が行くだろう」 оқырмын「私が読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-мін [mɪn]	前舌母音
	келермін「私が来るだろう」 сөйлермін「私が話すだろう」			
二人称	-ар [ar]	-р [r]	-сын [sɯŋ]	後舌母音
	барарсың「君が行くだろう」 оқырсың「君が読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-сін [sɪŋ]	前舌母音
	келерсің「君が来るだろう」 сөйлерсің「君が話すだろう」			
二人称・丁寧形	-ар [ar]	-р [r]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	барарсыз「あなたが行くであろう」 оқырсыз「あなたが読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-сіз [sɪz]	前舌母音
	келерсіз「あなたが来るだろう」 сөйлерсіз「あなたが話すだろう」			

三人称	-ар [ar]	-р [r]	—	後舌母音
	барар「彼が行くだろう」 окыр「彼が読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	—	前舌母音
	келер「彼が来るだろう」 сөйлер「彼が話すだろう」			

※例の太字は語幹末の音、下線は未来の予測 (肯定形) の接辞

複数				
	語幹末の音			
人称	子音	母音	人称接辞	母音調和
一人称	-ар [ar]	-р [r]	-мыз [muwz]	後舌母音
	барармыз「我々が行くだろう」 оқырмыз「我々が読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-миз [miz]	
	келерміз「我々が来るだろう」 сөйлерміз「我々が話すだろう」			前舌母音
二人称	-ар [ar]	-р [r]	-сыңдар [suŋdar]	後舌母音
	барарсыңдар「君達が行くだろう」 оқырсыңдар「君達が読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-сіндер [sɪnder]	
	келерсіндер「君達が来るだろう」 сөйлерсіндер「君達が話すだろう」			前舌母音
二人称・丁寧形	-ар [ar]	-р [r]	-сыздар [suwzdar]	後舌母音
	барарсыздар「あなたが行くだろう」 оқырсыздар「あなたが読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	-сіздер [sɪzder]	
	келерсіздер「あなたが来るだろう」 сөйлерсіздер「あなたが話すだろう」			前舌母音
三人称	-ар [ar]	-р [r]	—	後舌母音
	барар「彼らが行くだろう」 оқыр「彼らが読むだろう」			
	-ер [er]	-р [r]	—	
	келер「彼らが来るだろう」 сөйлер「彼らが話すだろう」			前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未来の予測 (肯定形) の接辞

3.3.1.6.3.2 未来の予測の否定形 (болжалды келер шақ (болымсыз түрі))

未来の予測の否定形は「～するはずがない」という意味を持っている。動詞の語幹の後に否定の -ма-, -ме-, -ба-, -бе-, -па-, -пе- という接辞をつけ、さらに、-с を置くことで形成される。この場合、第1形式の人称接辞を伴う。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音 の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共 鳴音の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-ма-с [mas]	-ба-с [bas]	-па-с [pas]	-пын [pɯn]	後舌母音
	-ме-с [mes]	-бе-с [bes]	-пе-с [pes]	-пін [pɪn]	前舌母音
二人称	-ма-с [mas]	-ба-с [bas]	-па-с [pas]	-сын [sɯŋ]	後舌母音
	-ме-с [mes]	-бе-с [bes]	-пе-с [pes]	-сін [sɪŋ]	前舌母音
二人称・ 丁寧形	-ма-с [mas]	-ба-с [bas]	-па-с [pas]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	-ме-с [mes]	-бе-с [bes]	-пе-с [pes]	-сіз [sɪz]	前舌母音
三人称	-ма-с [mas]	-ба-с [bas]	-па-с [pas]	—	後舌母音
	-ме-с [mes]	-бе-с [bes]	-пе-с [pes]	—	前舌母音

単数				
	語幹末の音			
人称	母音、共鳴音の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共鳴 音の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	母音調和
一人称	бармасын 「私が行くはずが ない」	жазбасын 「私が書くはずが ない」	айтпасын 「私が言うはずが ない」	後舌母音
	келмесін 「私が来るはずが ない」	сенбесін 「私が信じるはず がない」	күтпесін 「私が待つはずが ない」	前舌母音
二人称	бармассың 「君が行くはずが ない」	жазбассың 「君が書くはずが ない」	айтпассың 「君が言うはずが ない」	後舌母音
	келмессің 「君が来るはずが ない」	сенбессің 「君が信じるはず がない」	күтпессің 「君が待つはずが ない」	前舌母音
二人称・丁寧形	бармассыз 「あなたが行くは ずがない」	жазбассыз 「あなたが書くは ずがない」	айтпассыз 「あなたが言うは ずがない」	後舌母音

	<u>келмессіз</u> 「あなたが来るは ずがない」	<u>сенбессіз</u> 「あなたが信じる はずがない」	<u>күтпессіз</u> 「あなたが待つは ずがない」	前舌母音
三人称	<u>бармас</u> 「彼が行くはずが ない」	<u>жазбас</u> 「彼が書くはずが ない」	<u>айтпас</u> 「彼が言うはずが ない」	後舌母音
	<u>келмес</u> 「彼が来るはずが ない」	<u>сенбес</u> 「彼が信じるはず がない」	<u>күтпес</u> 「彼が待つはずが ない」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未来の予測(否定形)の接辞

複数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音 の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共 鳴音の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-ма-с	-ба-с	-па-с	-пыз	後舌母音
	-ме-с	-бе-с	-пе-с	-піз	前舌母音
二人称	-ма-с	-ба-с	-па-с	-сыңдар	後舌母音
	-ме-с	-бе-с	-пе-с	-сіндер	前舌母音
二人称・丁寧 形	-ма-с	-ба-с	-па-с	-сыздар	後舌母音
	-ме-с	-бе-с	-пе-с	-сіздер	前舌母音
三人称	-ма-с	-ба-с	-па-с	—	後舌母音
	-ме-с	-бе-с	-пе-с	—	前舌母音

複数				
	語幹末の音			
人称	母音、共鳴音の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共鳴音 の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	母音調和
一人称	<u>бармасып</u> ыз 「我々が行くはず がない」	<u>жазбасып</u> ыз 「我々が書くはず がない」	<u>айтпасып</u> ыз 「我々が言うはず がない」	後舌母音
	<u>келмесіп</u> ыз 「我々が来るはず がない」	<u>сенбесіп</u> ыз 「我々が信じるは ずがない」	<u>күтпесіп</u> ыз 「我々が待つはず がない」	前舌母音
二人称	<u>бармасыңдар</u> 「君達が行くはず がない」	<u>жазбасыңдар</u> 「君達が書くはず がない」	<u>айтпасыңдар</u> 「君達が言うはず がない」	後舌母音

	келмессіндер 「君達が来るはず がない」	сенбессіндер 「君達が信じるは ずがない」	күтпессіндер 「君達が待つはず がない」	前舌母音
二人称・ 丁寧形	бармассыздар 「あなたが行く はずがない」	жазбассыздар 「あなたが書く はずがない」	айтпассыздар 「あなたが言う はずがない」	後舌母音
	келмессіздер 「あなたが来る はずがない」	сенбессіздер 「あなたが信じ るはずがない」	күтпессіздер 「あなたが待つ はずがない」	前舌母音
三人称	бармас 「彼らが行くはず がない」	жазбас 「彼らが書くはず がない」	айтпас 「彼らが言うはず がない」	後舌母音
	келмес 「彼らが来るはず がない」	сенбес 「彼らが信じるは ずがない」	күтпес 「彼らが待つはず がない」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未来の予測(否定形)の接辞

3.3.1.6.4 未来への意思 (мақсатты келер шак)

未来への意思は、動詞語幹の後に -мақ, -мек, -бақ, -бек, -пақ, -пек という接辞を付加することで表現される。「～するつもりだ」のように、話し手の行為の意思、意図を示す。ただし、その未来の行為が実際に起こるかどうかは明らかでない。述語として使われる場合、これらの接辞の後に第1形式の人称接辞を伴う。カザフ語の一般的な教科書では、келер шак(未来時制)と説明されているが、「～するつもりでいた」のように、未来以外の時制も指すことがある。以下、人称接辞が付いた述語形のパラダイムを示す。

単数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音 の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共 鳴音の м [m], н [n], н [ŋ]	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-пын [pɯn]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-пін [pɪn]	前舌母音
二人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-сын [sɯŋ]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-сін [sɪŋ]	前舌母音
二人称・ 丁寧形	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-сыз [sɯz]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-сіз [sɪz]	前舌母音
三人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	—	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	—	前舌母音

単数				
	語幹末の音			
人称	母音、共鳴音の <u>p</u> [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共鳴音の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	母音調和
一人称	бармақпын 「私が行くつもりだ」	жазбақпын 「私が書くつもりだ」	айтпақпын 「私が言うつもりだ」	後舌母音
	келмекпін 「私が来るつもりだ」	мінбекпін 「私が乗るつもりだ」	күтпекпін 「私が待つつもりだ」	前舌母音
二人称	бармақсың 「君が行くつもりだ」	жазбақсың 「君が書くつもりだ」	айтпақсың 「君が言うつもりだ」	後舌母音
	келмексің 「君が来るつもりだ」	мінбексің 「君が乗るつもりだ」	күтпексің 「君が待つつもりだ」	前舌母音
二人称・ 丁寧形	бармақсыз「あなたが 行くつもりだ」	жазбақсыз「あなたが 書くつもりだ」	айтпақсыз「あなたが 言うつもりだ」	後舌母音
	келмексіз「あなたが来 るつもりだ」	мінбексіз「あなたが乗 るつもりだ」	күтпексіз「あなたが待 つつもりだ」	前舌母音
三人称	бармақ 「彼が行くつもりだ」	жазбақ 「彼が書くつもりだ」	айтпақ 「彼が言うつもりだ」	後舌母音
	келмек 「彼が来るつもりだ」	мінбек 「彼が乗るつもりだ」	күтпек 「彼が待つつもりだ」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未来への意思の接辞

複数					
	語幹末の音				
人称	母音、共鳴音 の <u>p</u> [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共 鳴音の <u>м</u> [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	人称接辞	母音調和
一人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-пыз [pɯz]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-піз [piz]	前舌母音
二人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-сындар [sɯŋdar]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-сіндер [sɪnder]	前舌母音
二人称・ 丁寧形	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	-сыздар [sɯzdar]	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	-сіздер [sɪzder]	前舌母音
三人称	-мақ [maq]	-бақ [baq]	-пақ [paq]	—	後舌母音
	-мек [mek]	-бек [bek]	-пек [pek]	—	前舌母音

複数				
	語幹末の音			
人称	母音、共鳴音の р [r], л [l], й [j], у [w]	有声子音、共鳴 音の м [m], н [n], ң [ŋ]	無声子音	母音調和
一人称	<u>бармақпыз</u> 「我々が行くつも りだ」	<u>жазбақпыз</u> 「我々が書くつも りだ」	<u>айтпақпыз</u> 「我々が言うつも りだ」	後舌母音
	<u>келмекпіз</u> 「我々が来るつも りだ」	<u>мінбекпіз</u> 「我々が乗るつも りだ」	<u>күтпекпіз</u> 「我々が待つつも りだ」	前舌母音
二人称	<u>бармақсыңдар</u> 「君達が行くつも りだ」	<u>жазбақсыңдар</u> 「君達が書くつも りだ」	<u>айтпақсыңдар</u> 「君達が言うつも りだ」	後舌母音
	<u>келмексіңдер</u> 「君達が来るつも りだ」	<u>мінбексіңдер</u> 「君達が乗るつも りだ」	<u>күтпексіңдер</u> 「君達が待つつも りだ」	前舌母音
二人称・丁寧形	<u>бармақсыздар</u> 「あなた達が行く つもりだ」	<u>жазбақсыздар</u> 「あなた達が書く つもりだ」	<u>айтпақсыздар</u> 「あなた達が言う つもりだ」	後舌母音
	<u>келмексіздер</u> 「あなた達が来る つもりだ」	<u>мінбексіздер</u> 「あなた達が乗る つもりだ」	<u>күтпексіздер</u> 「あなた達が待つ つもりだ」	前舌母音
三人称	<u>бармақ</u> 「彼らが行くつも りだ」	<u>жазбақ</u> 「彼らが書くつも りだ」	<u>айтпақ</u> 「彼らが言うつも りだ」	後舌母音
	<u>келмек</u> 「彼らが来るつも りだ」	<u>мінбек</u> 「彼らが乗るつも りだ」	<u>күтпек</u> 「彼らが待つつも りだ」	前舌母音

※例の太字は語幹末の音、下線は未来への意思の接辞

3.4 名詞類、動詞類以外の品詞

ここでは、副詞、機能語、擬音語・擬態語、間投詞を取り上げる。

3.4.1 副詞 (үстеу)

動作、行動、物の質の様々な兆候を示し、動詞を修飾する範疇は副詞と呼ばれる。

区分	種類	例
I. 形式による区分	1. 基本	әрең「やっと」、азар「やっと」、әрі「あちらに」、 бері「こちらに」、дәл「ちょうど」、сәл「少し」

	2. 派生	ескіше「以前のように (ескі 古い)」、күздей「秋の間ずっと (күз 秋)」、мұнша「こんなにも (мұнау これ)」、жаяулап「歩いて (жаяу 徒歩で)」、тысқары「外側に (тыс 外に)」、астыртын「不正に (аст 下)」
II. 構成による区分	1. 単純	ерте「早く」、тым「とても」、кеш「遅く」、ерекше「とても」、басқаша「異なる方法で」、кыстай「冬の間ずっと」、кешке「夕方に」
	2. 複合	1) биыл「今年 (бұл この、жыл 年)」、бүгін「今日 (бұл この、күн 日)」、бірталай「かなり (бір 1つ、талай たくさん)」、біраз「多少 (бір 1つ、аз 少し)」 2) бірте-бірте「徐々に」、анда-санда「時々」、қысы-жазы「一年中 (冬も夏も) (кыс 冬、жаз 夏)」 3) алдын-ала「前もって (алды 前)」、құлан таза「すっかり」、күні кеше「～したばかり (昨日のように) (күн 日、кеше 昨日)」
III. 意味による区分	1. 時間 (меzгіл) қашан? 「いつ?」、 қашаннан? 「いつから?」	кеше「昨日」、бүгін「今日」、ертең「明日」、қазір「今」、кешке「夕方に」、ертемен「早朝に」、ертесіне「次の日」、танертең「朝」、түнеугүні「当時」、бүрсігүні「明後日」、жаздыгүні「夏季に」、кыстыгүні「冬季に」、биыл「今年」、күні-түні「昼も夜もずっと」
	2. 場所 (мекен) қайда? 「どこ?」、 қайдан? 「どこから?」	әрі「あちらに」、бері「こちらに」、жоғары「上に」、төмен「下に」、алға「前に」、артқа「後ろに」、ішке「中に」、іште「中で」、ішкері「中の方に」、ілгері「先に」、мұнда「ここで」、сонда「そこで」
	3. 量 (мөлшер) қанша? 「いくつ?」、 қаншалық? 「いくつの?」、қаншадан? 「いくつから?」、нешелеп? 「いくつずつ?」	сонша「それほど」、онша「それほど」、оншалық「それほど」、соншалық「それほど」、мұндайлық「このような範囲で」、мұнша「こんなにも」、сондайлық「それほど」、біраз「多少」、бірталай「かなり」、недәуір「かなり」、неғұрлым「できる限り」、бірен-саран「いくつか」、азды-көпті「多かれ少なかれ」

4. 質・状態 (сын-бейне) калай? 「どのように?」、 калайша? 「何故? どう して?」、кайтп? 「どの ようにして?」		эрең 「やっと」、эзер 「やっと」、дереу 「すぐ に」、жедел 「早急に」、шапшаң 「速く」、тез 「速 く」、жылдам 「素早く」、кенет 「突然に」、күр 「唯一」、түгел 「全て」、ауызша 「口頭で」、 өзгеше 「特別に」、осылай 「このように」、 көйлекшең 「ドレスのまま」、тікелей 「直に」、 бірге 「一緒に」、зорға 「かろうじて」、аздап 「わ ずかに」
5. 強調 (күшейту) калай? 「どれくらい?」、 кайтп? 「どのようにし て?」、қандай? 「どの ような」		аса 「極めて」、нағыз 「本当に」、ең 「最も」、өте 「とても」、тым 「とても」、тіпті 「全く」、 айрықша 「特に」、барынша 「できるだけ」、 кілең 「～ばかり」、небір 「色々と」、өңкей 「～ ばかり」、әбден 「すっかり」
6. 目的 (мақсат) не үшін? 「何のため に?」、неге? 「何故?」、 не мақсатпен? 「どんな 目的で?」		әдейі 「わざと」、жорта 「意図的に」、қасақана 「わざと」、көре-біле тұра 「分かっている」、 әдейілеп 「わざわざ」
7. 理由・結果 (себеп-салдар) неліктен? 「何故?」、не себепті? 「何の理由 で?」、калай? 「どのよ うに?」		бекерге 「無駄に」、амалсыздан 「いや応なく」、 босқа 「無駄に」、текке 「無駄に」、лажсыздан 「いや応なく」、шарасыздан 「希望を持たず」、 күр босқа 「無駄に」、әншейін 「単に」
8. 集団・均等分割 (топтау) калай? 「どれくらい?」、 қаншалап? 「どれくら いずつ?」		екеулеп 「2人で一緒に」、үшеулеп 「3人で一緒 に」、бір-бірлеп 「1つずつ」、рет-ретімен 「順々 に」、он-ондап 「10ずつ」、аз-аздан 「少しずつ」、 көп-көптен 「大量に」、бас-басына 「それぞれ に」、жұп-жұбымен 「2つ一組で」

3.4.2 機能語 (шылау)

3.4.2.1 接続の機能語 (жалғаулық шылаулар)

互いに等しい語 (等位の構成素) や節・文 (並列節・文) をつなげ、それらの間の文法的関係を示す語を接続の機能語と言う。

種類	例
並列的接続 (салаластырғыш)	
1. 順接 (ынғайластық)	мен (бен, пен, менен) 「と」、да (де, та, те) 「も」、және 「そして」、әрі 「また」、әм 「また」
2. 選択 (талғаулықты)	әлде 「もしくは」、біресе 「時によって」、я 「または」、яки 「または」、бірде 「時によって」、болмаса 「さもなくば」、не 「もしくは」、немесе 「もしくは」、құй А(肯定) құй А(否定) 「A しても、A しなくても」、мейлі 「どうせ」
従属的接続 (сабақтастырғыш)	
1. 逆接 (қарсылықты)	бірақ 「しかし」、алайда 「でも」、әйтсе де 「とは言え」、әйткенмен 「にも関わらず」、әйтпесе 「さもないと」、әйткенде 「さもないと」、дегенмен 「とは言え」、онда да 「それでも」、сонда да 「それでも」、сөйтсе де 「にも関わらず」
2. 理由 (себепті)	себебі 「その理由は」、өйткені 「なぜなら」、неге десен 「なぜかと言えば」、не үшін десен 「何のためかと言えば」
3. 因果 (салдарлық)	сондықтан 「だから」、сол себепті 「それ故」、сол үшін 「そのため」、соның үшін 「そのため」、демек 「それゆえ」
4. 条件 (шарттық)	егер 「もし」、егер де 「もし」、алда-жалда 「万一」
5. 明確化 (айқындағыш)	яғни 「すなわち」
6. 後接 (ұстастырғыш)	ал ендеше 「それでは」、ендеше 「その場合」、олай болса 「それなら」、онда 「それでは」

3.4.2.2 格支配を伴う機能語 (септеулік шылаулар)

自立語 (атаушы сөз) 間の時間的、空間的な関係をつなぎ、因果関係を示す役割を果たす補助的な語は「格支配を伴う機能語」と呼ばれる。この機能語は特定の格接辞と結合して、その文法的意味を明確にし、補強する。格支配を伴う機能語は英語やロシア語の前置詞と似たような役割を果たすため、その統語的位置から послелог (後置詞) とロシア語で訳される。英語やロシア語の前置詞は名詞の前に置かれるが、カザフ語の「格支配を伴う機能語」は名詞の後に置かれる。例えば、А арқылы は「А を通じて」、В дейін は「В まで」という順番である。この機能語は支配する格が決まっている。例えば、арқылы 「を通じて」は主格支配であるが、дейін 「～まで」は与格支配である。

支配される格の種類 (менгерілетін септіктер)	例
1. 主格	арқылы 「を通じて」、туралы 「について」、жайында 「に関して」、жайлы 「に関して」、жөнінде 「について」、сияқты 「のような」、секілді

	「のような」、бойы「の(期間)ずっと」、бойда「～してすぐに」、бойынша「に基づいて」、үшін「のために」、бойымен「に沿って」、сайын「～ごとに」、ғұрлы「のように(否定形を伴う)」、шамалы「～ぐらい」、шақты「～程度」、каралы「～程度」
2. 与格	дейін「～まで」、шейін「～まで」、қарай「に向って」、қарап「に向って」、қарсы「に反対して」、салым「～間近の頃」、тарта「～くらい」、жуық「～近い」、таяу「～近い」
3. 奪格	бері「～以来」、кейін「より後に」、соң「の後に」、бұрын「より前に」、бетер「より更に」、гөрі「よりも」、әрі「～以上」、бөлек「と他に」、өзге「と他に」
4. 助格	қатар「と同時に」、бірге「と一緒に」、қабат「と共に」、қоса「に加えて」

3.4.2.3 補助的機能語 (демеулік шылаулар)

ともに使用される語に対して補足的意味を付け加えたり、もとの意味を強調したりするような語を補助的機能語という。補助的機能語はロシア語で частица (小詞) と訳される。

種類	例
1. 疑問 (сұраулық)	ма (ме, ба, бе, па, пе) 「か?」、ше? 「～はどう?」: тау <u>ма</u> ? 「山か?」、барасың <u>ба</u> ? 「君が行くか?」; жок <u>па</u> ? 「ないか?」; сен <u>ше</u> ? 「君はどう?」
2. 強調 (күшейткіш)	-ақ 「全く～だけ」、-ау 「～だなあ」、-ай 「～だなあ」、да (де, та, те) 「も」、-шы (ші) 「どうか～してよ」: сен- <u>ақ</u> 「全く君だけ」、солай- <u>ау</u> 「そのようであるなあ」、шіркін- <u>ай</u> 「素晴らしいなあ」、ол <u>да</u> 「彼も」、маған айт <u>шы</u> 「どうか私に言ってよ」
3. 確定 (нақтылық)	кой (ғой) 「～だよ」、-ды (-ді, -ты, -ті) 「～のだが」: екен <u>ғой</u> 「～だそうだよ」、қойған- <u>ды</u> 「やめたのだが」
4. 限定 (шектік)	-ақ 「全く～だけ」、қана (ғана) 「～だけ」、тек 「ただ～」: жақсы- <u>ақ</u> 「良いことだけ」、сонда <u>ғана</u> 「そこでだけ」、 <u>тек қана</u> 「単に」
5. 対比の強調 (болымсыздық)	түгіл 「～どころか」、тұрсын 「～どころか」、тұрмақ 「～どころか」: ол <u>түгіл</u> 「それどころか」、былай <u>тұрсын</u> 「これどころか」、ауру <u>тұрмақ</u> 「病気どころか」
6. 感情 (көңіл күй)	-мыс (-міс) 「～だそうだ」、екеш 「～でさえ」: болыпты- <u>мыс</u> 「～であったそうだ」、айтты- <u>мыс</u> 「言ったそうだ」、бала <u>екеш</u> 「子供でさえ」

3.4.2.3.1 疑問の機能語 (сұраулық шылаулар)

カザフ語の ма? ме? ба? бе? па? пе? という疑問の助詞は日本語の「か?」に相当する。これを省略することはできない。

	語末の音		
母音調和	母音、共鳴音の <u>p</u> [r], л [l], й [j], у [w]	共鳴音の <u>м</u> [m], н [n], н [ŋ]、有声音音の з [z], ж [ʒ]	無声子音、有声音音 の б [b], в [v], г [g], д [d]
後舌母音	ма? [ma]	ба? [ba]	па? [pa]
	ұл <u>ма</u> ? 「少年か?」 барды <u>ма</u> ? 「彼が行ったか?」	кыз <u>ба</u> ? 「娘か?」 бардын <u>ба</u> ? 「君が行ったか?」	завод <u>па</u> ? 「工場か?」 алыс <u>па</u> ? 「遠いか?」
前舌母音	ме? [me]	бе? [be]	пе? [pe]
	терезе <u>ме</u> ? 「窓か?」 келді <u>ме</u> ? 「彼が来たか?」	теңіз <u>бе</u> ? 「海か?」 келдің <u>бе</u> ? 「君が来たか?」	ит <u>пе</u> ? 「犬か?」 күшік <u>пе</u> ? 「子犬か?」

※例の太字は語末の音、下線は疑問の機能語

3.4.2.4 擬音・擬態語 (еліктеу сөз)

色々な音を模倣したり、ある現象や動作を表現したりする語を擬音・擬態語と呼ぶ。擬音・擬態語は意味の点から擬音語 (еліктеуіш сөз) と擬態語 (бейнелеуіш сөз) に分かれる。生物および無生物が発する様々な音を伝えるために使用される語は音の擬音語と呼ばれる。一方、物体、現象、動作の色々な特徴や動きが視覚によって認識され、発せられる語を擬態語と言う。

区分	種類	例
I. 意味による区分	1. 擬音 (еліктеуіш)	тарс「バタン」、ар「ガルル(犬などの動物の唸り声)」、қарқ-қарқ「カーカー(カラスの鳴き声)」、сарт「バタン」、саңқ「ビヤー(鷺などの鋭い鳴き声)」、салдыр-күлдір「ガチャン(複数の堅い物が落ちる音)」
	2. 擬態 (бейнелеуіш)	зып「さっさと(動作が素早い感じ)」、бүлк「ブクッ」、қалт「ゆらっ」、селк「ピクッ」、желп「フワッ(布が風などで一回動く様子)」
II. 形式による区分	1. 基本	дүрс「ドスン」、ар「ガルル(犬などの動物の唸り声)」、лып「さっ」、морт「ボキッ」、солк「ボヨーン(柔らかい物が打撃で一回ゆれる感じ)」
	2. 派生	томп- <u>аң</u> 「ベタッ(小さい子が歩く様子)」、елп- <u>ең</u> 「ペコッ」、қорб- <u>аң</u> 「のそっ(熊が歩く感じ)」、бұр- <u>алаң</u> 「ジグザグ」、соз- <u>алаң</u> 「ビヨーン(伸びる感じ)」

III. 構成による区分	1. 単純	шалп「ポチャン」、сарт「ボタン」、сырт「パタン」、көлбең「ヒラリ」、сопаң「ピョン(ある物が突出する感じ)」、кайкаң「グイッ」
	2. 複合	а) маң-маң「ノロノロ(ラクダの歩く感じ)」、гүр-гүр「ゴーゴー(車のエンジンの音や大量の水が流れる感じ)」、дір-дір「ブルブル」 b) арс-ұрс「ギャンギャン(犬などが吠える感じ)」、былк-сылк「ぐたっ(力がない感じ)」、жарк-жүрк「ピカピカ」

3.4.2.5 間投詞 (одағай)

話し手はある現象を認識して、それを基にして、ある感情や感覚を抱く。その感情や感覚を通して表される語を間投詞という。

区分	種類	例
I. 意味による区分	1. 感情 (көңіл күй)	па「うわあ・へえ(喜び、驚きを示す)」、пәлі「すごい(感心する示す)」、кап「ちえっ・しまった(慨嘆、遺憾を示す)」、пәһ-пәһ「すごい(感心する示す)」、oho「ほほお・うふっ(驚きや喜びを示す)」、oh「おお・ああ(困窮、恐怖、喜びを示す)」、пай-пай「おやおや(驚きや感心を示す)」、ту「おやまあ、何とまあ(驚きと不満を示す)」、әттең「ああ残念だ(残念さを示す)」、әттеген-ай「ああ悔しい(悔しさを示す)」、тәйірі「あーあ(不満を示す)」、түге「あーあ(不満を示す)」、и-и「あー(驚きや予想外な感じを示す)」、мәссаған「おやまあ・何とまあ(驚き、予想外な感じを示す)」、ойпырай「何とまあ(驚きを示す)」、беу「あー(驚き、感心、無念さを示す)」、пішту「うへっ(納得していない様子。上から目線で使う)」
	2. 呼かけ (ишарат)	Тәйт!「おい(やめろ)!」、Соп-соп! (牛などに対する呼かけ表現)、Кәне!「ほら(注意を促す)」、Жә!「さあ(仕切り直しを示す)」、Әрі!「どけ!」、Әлди-әлди! (子守歌のフレーズ)、Мох-Мох! (馬に対する呼かけ表現)、Көс-көс! (ラクダに対する呼かけ表現)、Әукім-әукім! (牛

		に対する呼かけ表現)、Шөре-шөре! (山羊に対する呼かけ表現)
	3. 慣習的表現 (тұрмыс-салт)	Ассалаумалейкум! 「アッサラームアライクム! (ムスリムの挨拶表現)」、Уағаликумуссәлам! 「ワーリクムサラーム! (上の挨拶に対する返答)」、Хош! 「オーケー!」、Ракмет! 「ありがとう!」、Күп! 「了解! (賛同を示す)」、Ләббай! 「承知しました。やります!」、Жәрәкімалла! (くしゃみをした人に使う言葉)
II. 形式による区分	1. 基本	oh 「おお・ああ (困窮、恐怖、喜びを示す)」、ой 「ええー (不満を示す)」、әй (呼掛け表現)、е 「ああ (納得を示す)」
	2. 派生	бәре <u>келді</u> ! 「すごい! (келді 来た)」、тәнір- <u>ай</u> 「不満を示す (тәнір テングリという神、-ай だなあ)」、япырмай 「不満を示す (-ай だなあ)」、ассалаумалейкум 「アッサラームアライクム (салаум 平和)」、мәссаға <u>ң</u> 「おやまあ・何とまあ (驚き、予想外な感じを示す) (саған 君に)」、әттеген- <u>ай</u> 「残念さを示す (әттең 残念さを示す、-ай だなあ)」

世界におけるカザフ人の数 (дүниежүзіндегі қазақ халқының саны)

国	人口
1. カザフスタン (Қазақстан)	14,220,321
2. 中国 (Қытай)	1,625,018
3. ウズベキスタン (Өзбекстан)	821,000
4. ロシア (Ресей)	591,970
5. モンゴル (Монғолия)	121,000
6. アメリカ合衆国 (АҚШ)	54,000
7. キルギス (Қырғызстан)	36,854
8. トルコ (Түркия)	30,000
9. トルクメニスタン (Түрікменстан)	20,000
10. ウクライナ (Украина)	15,000
11. アラブ諸国 (Араб елдері)	5,000
12. イラン (Иран)	5,000
13. アフガニスタン (Ауғанстан)	3,300
14. グルジア (Грузия)	3,000
15. モルドバ (Молдова)	3,000
16. アゼルバイジャン (Әзірбайжан)	3,000
17. オーストラリア (Австралия)	2,430
18. カナダ (Канада)	2,270
19. イギリス (Англия)	2,000
20. タジキスタン (Тәжікстан)	2,000
21. フランス (Франция)	2,000
22. オーストリア (Австрия)	1,685
23. ベラルーシ (Беларусь)	1,068
24. アルメニア (Армения)	1,000
25. ドイツ (ГФР)	1,000
26. パキスタン (Пәкістан)	1,000
27. エストニア (Эстония)	1,000
28. アルゼンチン (Аргентина)	700
29. スウェーデン (Швеция)	600
30. ラトビア (Латвия)	557

31. リトアニア (Литва)	500
32. イスラエル (Израиль)	200
合計	17,577,473

上のデータは人口調査の結果及び人口学者である M.Tatimov の調査結果に基づく。

付録 B

語彙集 (カザフ語・ロシア語・日本語)

A

ағырақ	белее	より白い
адам	человек	人
адам болу	будь человеком	一人前になる
аздап	помаленьку, понемногу	わずかに
айрықша	значительный, особенный, особо	特に
айтқыздыру	заставил сказать	言わせる
айтыс	состязание в песнях	詩の競技
ақ	белый	白い
ақ шашты	седой, беловолосый	白髪の
ақшалы	денежный	金持ちの
ақылсыз	глупый, бестолковый	愚かな
алу	бери	持つ、取る
алға	вперед	前に
алдап-сулау	забавлять, занимать, утешать	言いまぎらす
алдын-ала	заблаговременно, заранее, предварительно	前もって
алтау	шесть	6つ
алып бару	отнеси	持って行く
алып кайту	принеси	持って帰る
амалсыз	безвыходный, вынужденный	いや応のない
анау	та, те, то, тот	あれ
анда-санда	изредка, иногда, от случая к случаю, редко	時々
апару	отнеси	持って行く
арман ету	мечтай	将来の夢を見る
артқа	назад	後ろに
арып-ашу	исхудавший, изнемогающий, подавленный	痩せきる
аса	очень	極めて
ат жақты	широкоскулый, продолговатое лицо	馬みたいな細長い顔の
ата-ана	родители	両親
атақты	известный, знаменитый	有名な
ауыз жаласу	быть друг с другом в близких отношениях	仲間になる

ауызша	устно	口頭で
ауыл	деревня, село	村
ауыл шаруашылығы	сельское хозяйство	農業
ауыспалы	переменный, переходящий, переходные	交代可能な
ашушаң	возбудимый, вспыльчивый, нервный, раздражимый, злюка	怒りっぽい
ашық	открытый	開いた
аяқ киім	обувь	靴

Ә

әбден	вполне, окончательно, совсем, совершенно	すっかり
әдеби	литературный	文学的な
әдейі	специально, нарочно	わざと
әдейілеп	специально	わざわざ
әдемі	красивый	美しい
әзер	еле-еле, с трудом, едва-едва, кое-как	やっと
әзілқой	шутник	冗談好きな
әкелдіру	заставь принести	持ってこさせる
әкелу	принеси	持ってくる
әкеліну	был принесен (был доставлен)	持ってこられる
әкелісу	помог принести, привезти, поднести	互いに持ってくる
әлдекайдан	неизвестно откуда, откуда-то издалека	どこかから
әлдекашан	давно	もうすでに
әлдене	нечто, что-то	何か
әперу	подай, купи, достань	持って渡す、買ってあげる
әрбір	каждый	各々
әрең	едва, еле-еле	やっと
әркім	любой	それぞれの人
әрнеше	несколько	色々な
әрі	туда, дальше	あちらに、また
әскери	военный	軍の
әскери-саяси	военно-политический	軍政の

Б

бала	ребенок	子供
балалар бақшасы	детский сад	幼稚園

балалык	детство, ребячество	子供っぼさ
барған жоқ	не ходил	行かなかった
барлык	все	全て (の)
бармау	не ходи	行かない
барынша	сколько есть	できるだけ
барып келу	сходи	行って来る
баскаша	по-другому	異なる方法で
басыңқы	главный, господствующий	沈んだ、抑え込まれた
бәйтерек	тополь	大樹
бәрі	все	(その) 全て
бекерге	зря	無駄に
белбеу	пояс	ベルト
беру	дай	与える
бері	ближе, ближний, поближе	こちらに
бес жүз	пятьсот	500
бесеу	пять	5つ
бестен	по пять	5から
биыл	в этом году	今年
боз	бледноватый, блеклый	青白い、明るい灰色の
босқа	зря	無駄に
бос қою	отпустить, освободить	自由にさせる
бөспе	хвастун	自慢屋の
бұралқы	чужой, безродный, бесхозный	流浪の
бүгін	сегодня	今日
бүйту	сделай так, поступи так	このようにする
бүктеулі	сложенный	折りたたまれた
бүкіл	все	全ての
бүрмелі	сборчатый, в складку, в сборку	集められた
бүрсігүні	послезавтра	明後日
білгір	знающий, умудренный	教養のある
білім	знания	知識
білімдар	образованный	知識のある、博学な
білімпаз	ученый, знаток	教養のある
білімсіз	невежда, необразованный	無知な
бірге	вместе	一緒に
бірнеше	несколько, неоднократно, ряд	いくつか

бірінші	первый	最初の
---------	--------	-----

Г

гүлдену	процветать	栄える
гүлдеу	цвести	花が咲く

Д

дала	степь, поле	外
даурықпа	крикливый	騒々しい
дәнеме	ничто	何も～ない
дереу	немедленно, быстро, срочно	すぐに

Е

екеу	двое	2つ
екі	два	2
екіден	по два, попарно	2から
екі-екіден	по два, попарно	2つずつ
ел	население, народ	国
ел-жұрт	народ	国民
елу	пятьдесят	50
елу мың	пятьдесят тысяч	5万
елудей	около пятидесяти	50ほどの
ең	самый, весьма	最も
ерекше	особенный, исключительный, преимущественный	とても
ерте	рано	早く
ертең	завтра	明日
ерттеулі	оседланный	鞍が付いた
еріншек	лентяй	怠惰な
ешқайда	никуда	どこでも/どこへも～ない
ешқайсы	никакой	どれも～ない
ешкім	никто	誰も～ない
ештеме	ничего	何も～ない

Ж

жабық	закрытый	閉まった
жағымпаз	подхалим, льстец	へつらうのが上手い
жазғы	летний	夏の
жаздыгүні	летом	夏季に
жаздыру	заставил написать	書かせる

жазу	пиши	書く
жақсы	хороший	良い
жақсырақ	лучше	より良い
жалакор	кляузник, клеветник	中傷的な
жарамды	пригодный, годный, приемлемый, оперативный	適した
жасанды	искусственный, поддельный, фальшивый	作られた、人工的な
жаттанды	заученный, трафаретный	記憶した
жауын-шашын	осадки	降水
жәрдем ету	помоги	援助する
жедел	быстро, срочно, неотложный	早急に
жемқор	прожорливый, жадный	貪欲な、収賄するような
жеңіл	легкий	軽い
жер	земля	土地
жергілікті	местный, коренной, региональный	現地の
жетеу	семь	7つ
жеткілікті	вдоволь, обильно, достаточный, удовлетворительный	足りた、十分な
жетпістей	около семидесяти	70ほど
жинақы	аккуратный, собранный	きちんとした
жинаулы	собранный	片付けられた
жоғары	выше, ввысь, повышенный	上に
жорта	специально, предположительно	意図的に
жуғызу	заставил помыть	洗わせる
жуылу	быть умытым	洗われる
жуыну	умылся	自分を洗う
жүгірту	заставь бегать	走らせる
жүздеген	около сотни	100余りもの
жүздің жартысы	полсотни	100の半分 (50)
жүзінші	сотый	100番目
жүрек жалғау	перекусить	少し食べる
жылдам	быстро	素早く
жылдық	годовой	年間の
жылқы	лошадь	馬
жібек баулы	шелковая веревка	絹の紐の付いた
жігері құм болу	разочароваться	がっかりする

жігіт	парень	青年
-------	--------	----

З

зорға	еле-еле, едва	かろうじて
-------	---------------	-------

К

кәсіпқой	профессионал	専門的な
кейбіреу	некоторый	若干の人
келген емес	не приходил	来たことがない
келтіру	приди, ввези	来させる
келу	приди	来る
келіп кету	приди	来て去る
кен	широкий	鉱石
кенет	внезапно, вдруг, неожиданно, резко	突然に
кескізу	заставь резать	切らせる
кешке	вечером	夕方に
кешігу	опоздай	遅れる
киілген	был ношеным	お古の、すでに着られた
киіну	оделся	着替える
көгірек	синее	より青い
көзі ашық	глаза открыты	よく知っている
көйлекшең	раздетый	ドレスのまま
көк	синий, голубой, серый	青い
көңіл көтерерлік	увеселяющий, развлекающий	気分を上げてくれるような
көпшіл	любящий общество	社交的な
көре-біле тұра	зная	分かっている
көру	смотри	見る
көрші	сосед	隣人
көтеріңкі	приподнятый	持ち上げられた、高い
күзгі	осенний	秋の
күлдіргі	смешной, комический	滑稽な
күн көрерлік	существование	生活できるような
күнбағыс	подсолнух	ひまわり
кілең	одни	ばかり
кім	кто	誰
кіріп шығу	зайди	入って出る
кіші	младший	小さい

Қ

кабаған	злой (о собаке)	獰猛な
қабыл алу	согласись, прими	同意を得る
қазіргі	нынешний	現在の
қала	город	町
қалай	какой, какие, какое	どのように
қалалық	городской	市立の
калу	останься	残る
қанша	сколько	いくら
қара	черный	黒い
қара торы	брюнет	(肌が) 浅黒い
қартаң	староватый, пожилой, постаревший	年老いた
қарыздар	должник, долги	義務的な
қасақана	нарочно, злостно, умышленно	わざと
қашаған	имеющий привычку убегать (о животном)	群れからよく逃れるような
қоғамдық	общественный	社会の
қоғамдық-саяси	общественно-политический	社会政治の
қойшы	чабан, пастух овец	羊飼いい
қолы ашық	щедрый	気前の良い
қонымды	подходящий, соответствующий	ぴったりの
құлан таза	поправиться, оправиться окончательно, полностью	すっかり
құр	зря	唯一
құрама	объединенный	組み合わせられた
қызба	горячий, темпераментный	情熱的な
қызмет қылу	служи	貢献する
қызметтес	сослуживец	同労者の
қызыл-ала	пестрый	赤くてまだらの
қырық	сорок	40
қырықаяқ	сороконожка	ムカデ
қысқа бойлы	маленький ростом	背が低い
қысқы	зимний	冬の
қыстыгүні	зимой	冬季の/に

Л

лажсыздан	волей-неволей, вынужденно, скрепя сердцем	いや応なく
-----------	---	-------

М

майысқақ	гибкий	曲がりやすい
мақтаншақ	хвастун	自慢するような」
манырауық	часто, беспрестанно блеющий	メーメーとよく鳴くような羊
мәдени	культурный	文化的な
мен	я	私
мол	широкий, просторный	豊富な
мұнда	здесь	ここで
мынау	это	これ
мың жарым	полторы тысячи	千と半分 (1,500)
мыңдаған	тысяча, тысячный, тысячи	千余りもの
мыңнан	по тысяче	千から・ずつ
мыңыншы	тысячный	千番目

Н

нағыз	истинный, настоящий	本当に
нәзік	тонкий, слабый, нежный	繊細な
не	что	何
небір	всякий, разный	色々な

О

ой-қыр	неровность	谷と丘
ойланып-толғану	размышлять	考え込む
ойласу	советоваться, размышлять вместе	互いに考える
ойлы-қырлы	неровный	デコボコな
ойнау	играй	遊ぶ
ойын	игра	遊び
ойыншық	игрушка	おもちゃ
оқу	читай	読む
ол	он	彼・彼女
олар	они	彼ら・彼女ら
он бес	пятнадцать	15
ондаған	десятки	10余りもの
оннан	по десять	10から・ずつ
оннан екі	две десятых	10の内2つ
оныншы	десятый	10番目
опық жеу	горько сожалеть	後悔する

орынбасар	заместитель	代理人
осылай	так, таким образом	このように
от	огонь	火
отыздай	около тридцати	30ほど

Ө

өз	сам	自身
өзгеше	особенный, особый, характерный	特別に
өздерініз	вы сами	あなた達自身
өзім	я сам	私自身
өзің	ты сам	君自身
өзініз	вы сами	あなた自身
өнерпаз	образованный, искусный	熟練工
өңкей	сплошь, исключительно	～ばかり
өте	очень	とても
өткір	острый	鋭い

П

пайдалы	полезный	有益な
пайдасыз	бесполезный	役に立たない
пікірлес	единомышленник	意見が合う

С

салыну	был построенным, возведенным, увлекся, расположился	入れられる
сарғыш	желтоватый, бежевый	黄色っぽい
сары май	масло сливочное	バター
сәнқой	стиляга, шеголь, модница	流行に敏感な人
сезгіш	внимательный, чувствительный	敏感な
сен	ты	君
сенгіш	доверчивый	軽信な
сендер	вы	君達
сенімді	верный	誠実な
серіппелі	пружинный	反発力のある
сирек	редкий, редко	稀な
сонау	тот	ほら (その)
сөзшен	оратор, красноречивый, болтливый, разговорчивый	言葉の巧みな

сөйлесу	разговаривал	会話する
сөйлеу	говори	話す
су	вода	水
суық	холодный	寒い
сүзеген	бодливый	角でよく突くような
сүйту	делай так	そのようにする
сынық	разбитый	壊れた
сіздер	вы	あなた達

Т

тазару	чисти	きれいになる
тактайдай	ровный	平らな
тамыр-таныс	знакомые	友人知人
таңдамалы	отборный, избранный	選択された
танертең	утром	朝
тапқыр	находчивый	要領の良い
тапқыш	находчивый	精通した
тар	узкий	狭い
тарак	расческа	ヘアブラシ
таралу	быть причесанным	広められる、とかれる
тарану	причесался	自分の髪をとかす
тарихи	исторический	歴史的な
тасты	каменистый	石の
таудай	подобный горе	山のような
таулы	гористый	山の
таяқ жеу	быть наказанным	叱られる
тез	быстро	速く
текке	зря	無駄に
тиімді	выгодный, оптимальный, эффективный	利益のある
тоңғақ	мерзляк	寒がりの
тоңғыш	мерзляк	寒がりの
төмен	ниже, вниз, меньше, низкий	下に
төрт	четыре	4
төртеу	четыре	4つ
турашыл	справедливый, прямой	正義の
туынды	производный, вторичный	派生した
тұздау	соли	塩味にする

тұзды	соленый	塩っぱい
тұрғылықты	постоянный, коренной	居住した
түгел	весь, целиком, сполна	全て
түк	волосы (на теле), ворс, волосок	全く～ない
түнеугүні	не очень давно, тогдашний	当時
тым	слишком, очень, весьма, чрезмерно	とても
тынғылықты	основательный, аккуратный, исполнительный	徹底した
тыскары	вне, кроме	外側に
тікелей	прямой	直に
тілі ұзын	болтливый	よく話すような
тіпті	совсем, весьма, вовсе, решительно, ровно, сроду, совершенно	全く
тістеуік	клещи, щипцы	釘抜き

Ұ

ұзын бойлы	высокий (рост)	背の高い
ұйқышыл	сонливый	眠そうな
ұсақ-түйек	мелочь	些細な
ұшқыр	острый	速い

Ү

үй	дом	家
үйдей	большой, огромный	家のように大きな
үлгі кылу	стать в качестве примера	お手本にする
үлкен	большой	大きい
үшеу	три	3つ
үштен бір	одна третья	3分の1

Х

хабар	новости	知らせ
-------	---------	-----

Ш

шапшаң	быстро, резко	速く
шарасыздық	безвыходность	絶望
шаршап-шалдығу	завертеться, устать	疲れきる

Ы

ызақор	обидчивый, раздражительный	短気な
--------	----------------------------	-----

I

ілгері	вперед, впереди	先に
ісік	опухоль, отек, шишка	腫れ
ісіңкі	припухший	腫れた
ішке	внутри	中に
ішкері	внутри	中の方に
ішкі	внутренний	中の
іште	внутри	中で

補足資料

「やさしいカザフ語」開発のための資料

二ノ宮崇司、臼山利信

『カザフスタンに暮らす日本人ビジネス関係者向けのカザフ語
—日常生活のためのやさしいカザフ語とビジネスカザフ語—』の執筆に向けて

二ノ宮崇司

1. 背景

筆者はカザフスタンに暮らす日本人ビジネス関係者(ビジネスを担う人並びにその家族)のためのカザフ語教材を作りたいと考えている。教材のタイトルは表題の『カザフスタンに暮らす日本人ビジネス関係者向けのカザフ語—日常生活のためのやさしいカザフ語とビジネスカザフ語—』である。日本の会社からカザフスタンに派遣されてくる日本人ビジネスマン(ビジネスパーソンと呼ばれることもあるが、本稿はビジネスマンの呼び名を採用する)は現地スタッフと仕事上、英語、ロシア語、日本語、カザフ語でやり取りをする可能性がある。しかし現地の日系企業で働いた経験のあるカザフ人に聞いたところ、カザフスタンに赴任した日本人ビジネスマンがカザフ語でやり取りをすることはないという。2024年現在、彼らのビジネス言語は英語かロシア語が中心である。現地スタッフが日本語を習得している場合、日本語もビジネス言語になりうるものの、カザフ語が日系企業の間でビジネス言語とはならないようである。

日本人ビジネスマンは仕事の場面でなく、日常生活の場面において、ロシア語、カザフ語、英語をやり取りに使う可能性がある。カザフスタンの日常生活の場面において、これらの三言語はどのような場所で用いられるのだろうか。ロシア語とカザフ語はバザール、銀行、食堂のような生活に必須の場所で用いられ、一方の英語は一部のレストランやホテルといったあまり日常的でない場面で用いられると想像される。

カザフ語はカザフスタンの国家語であり、ロシア語はカザフスタンの公用語である。この両方の言語の使用がカザフスタンにおいて推奨されているものの、人によってその言語能力は異なる。両方の言語を同程度に使いこなせる者がいれば、カザフ語の方が得意な者、あるいはロシア語の方が得意な者が存在する。さらには、カザフ語を全く話さず理解もしないカザフ人も見られる。そのようなカザフ語を全く使用しない人たちは、特にカザフスタンの都市部と北部地域に多い。ソ連時代のカザフstanはカザフ語よりもロシア語が多く、多くの場面で優勢であったが、ソ連崩壊後、カザフ語の需要、すなわち、カザフstan社会におけるカザフ語の使用領域は確実に広がっている。これは、カザフstan政府がカザフ語の使用を推奨しているからである。ロシアの影響力の低下、ロシア語

を理解しない海外生まれのカザフ人のカザフスタンへの帰還³もカザフ語の需要を押し上げるのに一役買っている。

構想中の表題の教科書を執筆するにあたり、主な読者層を設定する必要がある。まず、「日常生活のためのやさしいカザフ語」の読者はカザフ語もロシア語も知らない日本人ビジネスマン及びその家族である。一方、「ビジネスカザフ語」の読者はカザフ語でビジネスをしたいと考えている日本人ビジネスマンである。

「日常生活のためのやさしいカザフ語」を使ってカザフスタンでの生活に慣れてきた日本人ビジネスマンは、安定した生活の次の段階として、カザフ人ビジネスマンとより深く交流するために、カザフ語の必要性を実感するかもしれない。2024年現在、カザフスタンのビジネス場面において、ロシア語の存在を無視することはできない。それはカザフスタンの会社がロシア系企業とやり取りをしたり、カザフスタンのビジネス分野における専門用語の多くがロシア語であったりするからである。しかしカザフ語の重要性が近年増え続けていることを考慮すれば、今後ビジネスカザフ語の普及も予想される。筆者はそれを見据えて、日本人ビジネスマンのためのビジネスカザフ語の教材を作ることを決めた。ビジネス関係者が自学自習できるような教材を作成する。

2. 日常生活のためのやさしいカザフ語

2.1 やさしいカザフ語の定義

やさしいカザフ語は「やさしい日本語」をもとに提案されたものである。日本学術振興会・基盤研究(C)「社会実装のための多様な「やさしい言語」に関する総合的研究」というプロジェクトのもと、筑波大学の白山利信教授が「世界に普及・拡大し得る「やさしい言語」研究の第一歩として、佐藤和之教授や庵功雄教授ほか先行研究による従来の優れた「やさしい日本語」研究の成果と蓄積を活かし発展させながら、国内外における「やさしい言語」研究の必要性・可能性とその課題を明らかにし、多様な「やさしい言語」研究の基盤を構築する」と提案した。プロジェクトのメンバーが「やさしい日本語」をもとに「やさしいフランス語」「やさしいドイツ語」「やさしい中国語」などの必要性を探っている。その一環として、筆者も「やさしいカザフ語」(оңай қазақ тілі)の必要性を検討し、その具体化を模索している。

白山・岡本(2020: 119)によれば、「やさしい日本語」とは普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすいことばのことを言う。この「やさしい日本語」はもともと地震や火事など災害時に、緊急事態を日本在住の外国人に理解させる目的で使われた日本語であったが、近年、災害だけでなく、外国人のための日常生活のサポートという形で「やさしい日本語」が展開されている(庵2016: 36-45)。2024年現在、国、県、市といった公共機関が中心となって、「やさしい言語」のガイ

³ ソ連崩壊後、カザフスタンに定住するためにカザフスタン以外の国から帰国したカザフ人をカザフ語で оралман (オラルマン) という。

ドラインを作成し、公開している。自治体や町内会からのお知らせ、学校からの便り、市町村の窓口での手続きなどで使われている。また NHK や河北新報といったメディア (参照サイト 1, 2) でも「やさしい日本語」でニュース情報などの情報を提供している。

白山・岡本 (2020: 119) の定義に倣うのであれば、やさしいカザフ語とは普通のカザフ語よりも簡単で、外国人にもわかりやすいことばと定義されるであろう。しかしその背景は「やさしい日本語」と異なる。まず、カザフスタン社会は日本社会と異なり、「やさしい言語」運動が見られない。2024 年現在、カザフスタンの市役所といった公共機関や街中の看板などでやさしいカザフ語が見られない。そのため、現時点において、カザフスタンの政府や社会に対して、やさしいカザフ語のガイドラインを出して、公共機関の間でやさしいカザフ語を整備するよう提案するとともに、カザフ語が使えなくて生活に不自由な思いをしている外国人にもやさしいカザフ語を自ら使用することを提案したい。言葉で不自由をしている人が日常生活上の問題を解消するための一つの手段として「やさしい言語」を用いるというのが本稿の立場である。それでは外国人はやさしいカザフ語を具体的にどのように使用していけばよいだろうか。例えば、カザフ語もロシア語も分からない日本人がカザフスタンに駐在するという状況において、日本人ビジネスマンは会社内で、またその子供はインターナショナルスクール内で、英語をコミュニケーションの手段として使うことが予想される。しかし、そこから外に出てカザフスタンの日常生活に入ってしまうと、途端にコミュニケーションが取れず、生活で困る可能性がある。やさしいカザフ語はそのような日本人の助けになる。カザフ語と日本語は文法構造が似ているため、カザフ語は日本人にとって学びやすい言語である。ロシア語もカザフ語も全く知らない日本人にとって、ロシア語よりもカザフ語を学習する方がより早くカザフスタンでの生活を安定化させやすいだろう。

やさしいカザフ語はカザフスタンに駐在する日本人にとって大きな助けになるかもしれないが、いつまでもそれに頼らない方がよい。語学を学ぶ余裕ができた場合、またやさしいカザフ語のコミュニケーションだけでは満足できない場合には、やさしいカザフ語を捨てて、普通のカザフ語を学ぶことが期待される。本教材はカザフスタンでカザフ語を軸に生活することを決めた人のためのものである。そのため、すでにロシア語でコミュニケーションが取れていて、カザフ語を学ぶ必要性を感じない人、カザフ語よりもロシア語の方が学習しやすい人はやさしいカザフ語を求める必要がない。また翻訳ツールだけを使って、コミュニケーションを取ることを望む人にも必要ない。

2.2 やさしいカザフ語のガイドライン作成

筆者は普通のカザフ語からやさしいカザフ語の文法、語彙、表現を抽出し、やさしいカザフ語のガイドラインを作成する。それをするために、他言語の「やさしい言語」の特徴を把握することが有益である。ここで筆者が着目したのは「やさしい日本語」とドイツにおける「やさしい言語」のガイドラインである。2.1 節で指摘した通り、「やさしい日本語」は主に外国人向けのものである。

一方、菅谷 (2020) (参照サイト 3) によれば、ドイツにおける「やさしい言語」は発達障害者向けのものである。以下に両言語のガイドラインを示す。「やさしい日本語」の例として、以下に、しまね国際センターの手引き (参照サイト 4) を挙げる。

しまね国際センター(島根県)の「やさしい日本語」のガイドライン

1. 伝える情報を選択し、必要に応じて補足説明をする
2. 一つの文を短くし、簡単な構造にする。
たとえば、「○○であり、▲▲なので、」⇒「○○です。▲▲です。だから、」
3. 難しい言葉は、簡単な語彙に言い換える。
たとえば、今朝⇒今日(きょう)の 朝(あさ)
4. 曖昧な表現は使わない。
たとえば、「おそらく」「たぶん」「思われます」などは避ける。
5. 文末はなるべく統一する。「です」「ます」「してください」形にする。
6. 漢字にはルビをつける。たとえば、「地震(じしん)」
7. その他
 - (a) 発音や意味が原語ごとに異なる場合があるので、カタカナ外来語はなるべく使わない、ローマ字はなるべく使わない。
たとえば、「デマ」⇒「うその 話(はなし)」
 - (b) 擬態語(「めちゃめちゃ」、「ふらふら」等)や擬音語(「ゴロゴロ」等)は使わない。
たとえば、「めちゃめちゃです」⇒「壊(こわ)れています」
 - (c) 二重否定は使わない。
たとえば、「行かないわけではないです」⇒「行(い)きます」
 - (d) 動詞を名詞化したものは、できるだけ動詞文にする。
たとえば、「揺れがあった」⇒「揺(ゆ)れた」
 - (e) 文節で区切って余白を入れ、「分かち書き」にする(特に全文ひらがなの場合)。
たとえば、「明日再度お越してください」⇒「明日(あした) もう一度(いちど) 来(き)て ください」
 - (f) 元号(平成・昭和等)は西暦に、年月日は「/」は用いない。
たとえば、「H25/10/12」⇒「2013 年(ねん)10 月(がつ)12 日(にち)」
 - (g) 方言は標準語にする。
 - (h) 時間は 12 時間表示にする。
たとえば、「15 時 30 分」⇒「午後(ごご)3 時(じ)30 分(ぶん)」

このガイドラインを見る限り、「やさしい日本語」は文法や語彙に関することだけでなく、漢字にルビをつけたり、分かち書きをしたり、ローマ字を極力使わないようにすることで、普通の日本語をやさしくすることが可能である。次は、ドイツの「やさしい言語」の規則である。その一部を以下に示す。

ドイツにおける「やさしい言語」のガイドラインの一部 (Maaß 2015: 129)

1. テキストの展開に注意する。
2. 情報の選択はテキストのテーマに基づいて行われる。
3. すべての単語タイプについて：同じ事物には同じ単語を使い、同義語を使わない。
4. 人称代名詞の使用：
 - (a) 一人称と二人称の人称代名詞を使用することが可能である。
 - (b) 三人称の人称代名詞は置き換えなければならない。ただし、指示対象の語を持たない *es* は使用できる (*Es regnet* 「雨が降っている」)。
 - (c) やさしい言語で表現される文章中の *Sie* は丁寧体である。大人の読者は一般的に *Sie* と呼ばれる。
 - (d) 三人称の人称代名詞は、それを表す名詞に置き換える。
 - (e) 言う・考える動詞の場合、直接法に変更する (*ich/wir* は再代名詞化)。
 - (f) 所有冠詞を名詞の前に置くことができる (=前置詞化)。

上のガイドラインの 4. (a-d) を見る限り、文法の中でも人称代名詞に関わる規則が提示されている。ドイツ語においては人称代名詞が問題になるようである。以上、日本語とドイツ語においてやさしさがどのように表されるのかを確認した。日本語とドイツ語で言語をやさしく表すストラテジーが異なっていた。今後、日本語やドイツ語など幾つかの「やさしい言語」のガイドラインを参考にしながら、やさしいカザフ語のガイドラインを作成する。上の諸規則を見ただけでも、全ての規則をやさしいカザフ語に適用できないのは明らかである。例えば、日本語とカザフ語は異なる正書法を持っているため、漢字にルビをつけたり、分かち書きをしたり、ローマ字をなるべく使わないようにするということは、やさしいカザフ語と無関係である。しまね国際センターによる「やさしい日本語」の手引きからやさしいカザフ語に応用できた規則は以下の通りである。

- ・一つの文を短くし、簡単な構造にする (例：Мен ауырып қалғандықтан, мектепке бара алмаймын 「私は病気になったので、学校に行くことができません」 → Мен ауырып қалдым. Сондықтан мектепке бара алмаймын. 「私は病気になりました。ですので、私は学校に行くことができません」)。
- ・難しい言葉は、簡単な語彙に言い換える (例：жеңге 「ジェング (兄の妻)」 → ағаның әйелі 「兄の妻」)。
- ・曖昧な表現は使わない (例：Ертең мен, мүмкін, барамын 「明日、私がおそらく行きます」 → Ертең мен барамын 「明日、私が行きます」)。
- ・擬態語や擬音語は使わない (例：Ана адам зып етіп жоқ болды. 「あの男がサッと消えていなくなりました」 → Ана адам жоқ 「あの男がいません」)。
- ・二重否定は使わない (例：Ертең мен мектепке бармаймын деп ойламаймын 「明日、私は学校に行かないとは思いません」 → Ертең мен мектепке барамын 「明日、私は学校に行きます」)。

ドイツの「やさしい言語」の規則 (Maaß 2015: 129) からやさしいカザフ語に適用できた規則は次の通りである。

- ・同義語を使わない (例: ұстаз「先生」と мұғалім「教師」はどちらかに統一する)
- ・一人称と二人称の人称代名詞を使用することが可能である (例: (Мен) мектепке барамын「私が学校に行きます」という文において、人称代名詞の Менを提示する)。
- ・三人称の人称代名詞は置き換えなければならない (例: Бүгін ол келеді「今日彼が来ます」→Бүгін Ерлан келеді「今日イェルランが来ます」)。

以上、「やさしい日本語」とドイツの「やさしい言語」の諸規則のうち、カザフ語に当てはめることが可能な規則とその例を示した。当然、これら以外にもやさしいカザフ語の規則はありうる。カザフ語固有の文法、語彙、表現を考慮して、より適切なやさしいカザフ語のガイドラインを作成する予定である。

2.3 やさしいカザフ語の学習内容

上で取り上げたやさしいカザフ語のガイドラインをもとに、「日常生活のためのやさしいカザフ語」の教科書作りを行う。カザフスタンで生活を送る中で様々な問題が発生し、やさしいカザフ語を通してそれらを解決する方法を学ぶというのが本教材の目的の一つである。ここでは、教材の利用者がどのような場面で、どのような点に注意しながら、そしてどのような事を学習するのかを述べる。まず、本教材は利用者がカザフスタンでの生活においてカザフ語を学習する場合、カザフ語の多くの文法、語彙、表現を学ぶ必要がないという立場を取る。利用者は生活に必要な最低限のカザフ語を学ぶ。教科書ではカザフスタンに住んでコミュニケーションが発生する場面として、アパートでの生活、買い物、食事、タクシーへの乗車、銀行の利用、市役所での手続き、病院・診療所での診察、博物館の見学などといったことが予想される。アパートの場面では、部屋の水がでない、明かりがつかないといった問題を解決するために、アパートの大家にやさしいカザフ語で事情を説明して、問題解決を目指すことになる。また買い物の場面では、スーパーマーケットで欲しい商品がない、レジの所で実際に支払った金額と領収書の金額が異なるといった問題が起きる可能性がある。その問題を解消する上でやさしいカザフ語が役に立つ。カザフスタンで生活をしていて、どのような問題が実際に起こるのかを日本人ビジネス関係者に聞き取り調査を行い、それをもとに各課の内容を吟味していく。

各課の構成内容は次の通りである。まず課の最初にカザフスタンの一般的状況を説明する。タクシーに乗る場合、タクシーを呼ぶ方法、乗車方法、支払い方法といったカザフスタンのタクシー事

情について説明する。また買い物をする場合、カザフスタンの商店の情報、商店での支払いなどについて説明する。「買い物」の一般的状況の説明例を以下に示す。

第1課 買い物

カザフスタンで買い物をする場合、スーパーマーケット、個人商店、バザール、ショッピングモールに行くことになります。カザフスタンにはどんなスーパーマーケットがあるでしょうか。例えば、Magnum や Small がカザフスタンでは有名です。Magnum は 2007 年に開店して以来、200 以上の店舗を持っています (2024 年現在)。アルマティの街中を歩いていると、色々な場所で Magnum を見かけます。会計での支払いは日本のスーパーマーケットと同様、有人レジと無人レジで行います。利用者は Magnum の店舗で買い物をすることもできますが、Magnum のサイトを見て、доставка つまり配送サービスも利用することが可能です。...

次に、やさしいカザフ語の使用に関する注意点を挙げる。一点目は、利用者がカザフ語を避けた方がよい状況を認識する必要があるということである。二点目は、言葉に頼らない、言葉以外の手段で可能な限り状況を説明したり、質問したりする状況を作り上げることである。その上でやさしいカザフ語を用いることを筆者は提案する。

一点目のやさしいカザフ語を避けた方がよい状況とはどのようなものであろうか。カザフスタンの都市部や北部地域において、カザフ人を含めカザフ語を用いない人たちがいる。彼らはカザフ語を全く理解していない、あるいはそれを理解するが話したくない人たちである。彼らは普段からロシア語に接しており、カザフ語を使用するコミュニティに属していない。そのような人たちに無理にカザフ語を使うことは避けた方がよい。場合によって、彼らとはカザフ語よりも英語あるいは第三の言語でコミュニケーションを取ることができるだろう。そのため、カザフ語を話したくない人たちには、たとえやさしいカザフ語であっても使用しない方がよい。

二点目の言葉に頼らない状況とは、カザフ人に目視で状況を確認してもらうことで問題を解決するというものである。例として、アパートの自室の明かりがつかない場合、「部屋の明かりがつかません。修理してください」と説明するよりも、明かりがつかない状況をビデオに録って、それをアパートの大家に見せることで、問題を解決することができる。また、スーパーマーケットでの会計の際、有人レジに行って、言葉によるやり取りを生じさせるのではなく、無人レジに行き、会計を済ませることができる。教科書では以下のような形で言葉に頼らない状況を取り上げる。

「言葉に頼らない状況の設定」

スーパーマーケットでは、言葉をほとんど使わなくても買い物ができます。必要な商品を見て、それをレジに持って行き、レジ係が提示した金額を渡して終わりです。たいていのスーパーマーケットのレジでは、レジ袋 (пакет) があるのか、現金払い (наличка) かといったことが尋ねられます。しかし無人レジの場合、レジ袋の選択面で、レジ袋を購入するかどうかを決めます。無人のレジの使い方は日本と同じだと思います。商品のバーコードを読み取

り機に近づけます。そしてレジ袋を購入するか否かを決めて、決済の画面に移動します。そこで、決済の方法を決めて終わりです。...

上の言葉に頼らない状況を設定することで、利用者はやさしいカザフ語で覚える量を減らすことができる。その分、如何にして言葉を使わない状況を作り上げるかが重要になる。言葉を使わないといけない状況であっても、可能な限り、言語の量を減らすことが望まれる。スーパーマーケットに行き、以前購入した商品が見られない場合、「昨日買った AAA という商品はどこにありますか?」と尋ねたくなるであろう。しかしやさしいカザフ語を使う場合、「(AAA という商品の画像を見せて) Кеше мынау болған. Бұл қайда?» 「昨日、これがありました。これはどこですか?」と簡易化した文で伝えることが推奨される。やさしいカザフ語を使う状況は以下の通りである。

「やさしいカザフ語を使う状況」

(1) 物の所在を確かめる

(状況 1) 物の所在を確かめたい場合、「қайда?» (どこですか?) という表現が便利です。しかし、初対面の相手にいきなりこの質問をするのは失礼にあたるので、まず挨拶文を置き、次に欲しい物がそもそも存在するのを確認した上で、その所在を確かめるとよいでしょう。

利用者: Сәлеметсіз бе. Қант бар ма? Қант қайда? 「こんにちは。砂糖がありますか? 砂糖はどこですか?」

店員: Ана жерде. 「あの場所にあります」

[使用する語彙]

қант 「砂糖」、ана 「あの」、жер 「場所」

[文法・表現]

日本語とカザフ語の語順は基本的に同じです。疑問の所在文の語順の場合、日本語は「Aはどこですか?」という表現になりますが、カザフ語の場合 «A қайда?» となります。

「A がありますか?」と尋ねたい場合、「A бар ма?» と言います。カザフ語の Yes/No 疑問文の場合、「ма?» という助詞が用いられますが、疑問代名詞の疑問文の場合、「ма?» は必要ありません...

やさしいカザフ語の使用の問題点として、仮に利用者がやさしいカザフ語で説明したとしても、聞き手のカザフ人がカザフ語ではなく、ロシア語で回答をする場合がある。その際は、「Қазақша айтыңызшы」「カザフ語で言ってください」と依頼したり、「Қазақша қалай болады?» 「カザフ語でどうなりますか?」と質問したりすることで、聞き手のロシア語使用を避けることができる。利用者はロシア語を話す必要はないが、幾つかのロシア語の単語を余裕のある範囲で覚えておくといだろう。カザフ人は野菜の幾つかの単語をロシア語で言う傾向がある。トマトはカザフ語の кызанақではなく、ロシア語の помидор を使用する。生姜はカザフ語の зімбірではなく、ロシア語の имбирь を使う。利用者は幾つかの単語をカザフ語ではなく、ロシア語で覚えた方がよい場合も

ある。しかし、注意点として、カザフ語とロシア語を混ぜて話すと、カザフ人の聞き手が話し手のことをロシア語が理解できる人であると勘違いしてしまう。以上、やさしいカザフ語とロシア語との関係性を取り上げた。

最後に、利用者は練習問題で、やさしいカザフ語を作る練習をする。例えば、バザールでお気に入りのオレンジを購入したいという状況で、「昨日売っていたトルコのオレンジはどこにありますか?」という文をやさしいカザフ語に訳す問題が出たとする。それに対して、「Кеше апельсин болған. Түркияның апельсині. Сол қайда?»「昨日、オレンジがありました。トルコのオレンジです。それはどこですか?」と答えることができる。練習問題の正答は1つでない。言葉に頼らない状況を想定することも場合によって正答として認められる。生活上の問題を解決するきっかけを読者に与えることが本教材の目的である。その一つとして、やさしいカザフ語が位置づけられる。

3. ビジネスカザフ語

本教材は「日常生活のためのやさしいカザフ語」を学んだ日本人ビジネスマンがカザフ人ビジネスマンとより深くコミュニケーションが取れるようにするために「ビジネスカザフ語」の学習の機会も提供する。

3.1 ビジネスカザフ語の定義

ビジネスとは英語の business から来ている単語であり、英語の一般的な辞書である『ジーニアス英和辞典 第4版』において、商売、商業、職業、仕事、業務など幾つかの意味を持つ単語である。日本語の辞典を見ても、これらの意味に概ね一致している。例えば、岩波書店の『広辞苑 第5版』は「ビジネス (business) 事務、実業、商業上の取引」、三省堂の『辞林 21』は「ビジネス (business) ①仕事、事業、商売 ②特に個人的な感情をまじえない金もうけの手段としての仕事」、三省堂の『新明解国語辞典 第4版』は「ビジネス (business) 一 事務、仕事 二 実業」と説明している。ビジネスは一般的には仕事、事業、商売という幅広い意味を有している。本稿のビジネスカザフ語は上のビジネスの意味に準じ、仕事や商売で使われるカザフ語と幅広く捉える。

3.2 ビジネスカザフ語に関する過去の教材 (Мухамадиева 2015)

本教材は幾つかのビジネス場面ごとに課を作成する。過去のビジネスカザフ語の教材である *Іскерлік қазақ тілі* 『ビジネスカザフ語』を見た所、表1のような5課構成であった。

表 1: 『ビジネスカザフ語』 (*Іскерлік қазақ тілі*) の目次 (Мухамадиева 2015: 151-152)

1.	「カザフスタンにおいて」 自己紹介、無線呼び出し、ファックスの文書、挨拶、日常コミュニケーションで使用される単語やフレーズ
2.	「仕事」 労働の権利、公告、仕事に必要な書類、経歴、CV、申請書、証明書、人物証明書

3.	「出張」 委任状、旅行、税関、税金、伝達書類
4.	「業務連絡」 契約、銀行、金銭、国際機関
5.	「売買」 許可書、業務文書、展示会、見本市、広告

Мухамадиева (2015) は仕事でありえそうな場面を幾つか設定し、それを基に学習項目を立てている。各課を細かく見た所、対話・テキストの読解、文法説明、語彙・表現のリストに付け加えて、文法問題、翻訳問題、質問文に対する回答という問題が用意されていた。さらには、CV や申請書のようなビジネス関係書類も載せられていた。以下は学習項目の配列の例である。

表 2: 『ビジネスカザフ語』 (Іскерлік қазақ тілі) 第 3 課の学習内容 (Мухамадиева 2015: 52-80)

「出張」
1. 語彙: 出張関係の語彙リスト p.52
2. 対話: 出張に関する雑談 p.53
3. 文法: 動詞 бару「行く」が取る格 p.53
4. 対話: 出張に関する雑談 p.54
「委任状」
5. 語彙: 委任状関係の語彙リスト p.54
6. 委任状の例 p.55-56
7. 練習問題: カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.56
8. 対話: 出張に関する雑談 p.57
9. 練習問題: 適切な格の指摘、カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.57
10. 文法: 基数詞と順序数詞 p.58
11. テキスト: 出張に関するテキストの読解 p.58
12. 練習問題: 出張書類の準備 p.59
13. テキスト: 大統領の公式出張に関するテキストの読解 p.60
14. 練習問題: カザフ語の文の暗記、諺の暗記とその諺からの話の構築 p.60
「旅」
15. 語彙: 旅関係の語彙リスト p.61
16. 文法: 動詞の -мақ 形 p.62
17. 練習問題: 適切な派生接辞の指摘、質問文に対する回答 p.62
18. 対話: 雑談 p.62
19. 文法: 位格 p.63
20. 練習問題: カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.63
21. 対話: ホテルのチェックイン p.63
22. テキスト: 旅に関するテキストの読解及びその内容確認 p.63
23. 文法: 後置詞 p.65
24. 練習問題: カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.65

25. 練習問題: ロシア語の文をカザフ語に翻訳 p.65
26. 対話: ホテルでのやり取り p.66
27. 練習問題: 質問文に対する回答、ロシア語の文をカザフ語に翻訳、句から文の構築 p.67
28. テキスト: レストランに関するテキストの読解、旅に関するテキストの読解 p.68-69
「税関」
29. 語彙: 税関関係の語彙リスト p.70
30. 文法: 位格の人称代名詞 p.71
31. 練習問題: 語彙のロシア語からカザフ語への翻訳、カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.71
32. 対話: 税関の場所を尋ねるやり取り p.71
33. 練習問題: カザフ語の文をロシア語に翻訳、ロシア語の文をカザフ語に翻訳 p.71
34. 対話: 税関でのやり取り p.72
35. 練習問題: 文の書き取り p.72
36. テキスト: 税関に関するテキストの読解及びその内容確認 p.73
37. 対話: 税関に関するやり取り p.74
38. ロシア語の文をカザフ語に翻訳、質問文に対する回答 p.75
「税金」
39. 語彙: 税金関係の語彙リスト p.75
40. 練習問題: 文の中の人称接辞を探す問題、カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.76
41. テキスト: 税関に関するテキストの読解 p.77
42. 語彙: 税金関係の語彙リスト p.77
43. 練習問題: カザフ語の文をロシア語に翻訳 p.78
44. 対話: 銀行でのやり取り p.78
45. 伝達書類の例 p.79
46. テキスト: コルガルジュン自然保護区に関するテキストの読解 p.79

次に Мухамадиева (2015) が取り上げた文法、語彙、表現の例を以下に示す。

文法：移動手段を表す格として助格がある。カザフ語において -пен / -бен が助格を指す。例えば、*«ұшақпен келдім»* 「私は飛行機で来た」、*«поейзбен келдім»* 「私は列車で来た」 (p.4) といった例である。

語彙：出張に関する語彙として *сапар»* 「出張機関」、*әріптес* 「同僚」 (p. 52) といった単語が挙げられた。

表現：出張関係の表現として *«Шақырғаныңызға рақмет»* 「ご招待いただきありがとうございます」、*«Мен асығыспын»* 「私は急いでいます」 (p.66) のような表現が挙げられた。

Мухамадиева (2015) の全体を確認したところ、文法習得が目的とされていないためか、カザフ語の文法が体系的に示されていないかった。Мухамадиева (2015) による練習問題は以下のようなものである。

- ・点線の位置に適切な接辞を置きなさい：Ол Түркия... тәжірибе алмасу... барады. (p.52)
- ・カザフ語の文をロシア語に訳しなさい：Бұл іскерлік сапарда ынтымақтастықты дамыту жолдары қаралды. (p.52)
- ・質問に対して回答をしなさい：Сен туристік сапармен қайда бармақсың? 「君は旅行でどこに行くつもりなのか?」 (p.62)

Мухамадиева (2015) にはビジネス関係書類の例が載っているなど、本教材に利用できる点もあるが、大きく改善しなければいけない点もある。一点目は、学習項目の配列である。表 2 のように、Мухамадиева (2015) が提示した項目の配列は、対話、語彙、文法、テキスト、練習問題のように一定の配列になっておらず、複雑な印象を与えるため、読者に読みにくい教材となっている。二点目は、古い技術についての情報の存在である。つまり、すでに内容が古くなっており、今の IT 時代の、現代社会の実情に合っていない。表 1 の第 1 課が示したように、無線呼び出しやファックスといった過去の技術に頼った連絡手段が取り上げられていた。2024 年現在、それらを用いている会社はほぼ皆無であり、専ら Email さらには Whatsapp や Telegram といったアプリがビジネスの連絡手段として用いられている。また Instagram による消費者への商品の宣伝、Zoom によるオンライン会議も会社の中で日常的になっている。三点目は、読者層を限定することである。世界のビジネスマンというよりは、日本人ビジネスマン向けに日本語で教材を執筆する。単に日本語で教材を書くというだけでなく、日本の会社文化とカザフスタンの会社文化の類似点と相違点が明らかになるような教材を作る。カザフスタンの会社と日本の会社にインタビューやアンケートを行い、両者の会社文化を知ることができるような教材を目指す。会社文化とは、会社における日常業務の仕方、同僚や上司、後輩との接し方、休暇の取り方、さらには就職活動から退職あるいは別の会社に転籍するまでの営みであるところでは定義しておく。カザフ人が会社でどのように働いているのか、同僚どのようにコミュニケーションを取っているのか、就職活動をどのように行っているのかといったことを筆者は知らない。そのため、それらを把握した上で、教材作成に取り組む。

Мухамадиева (2015) のようにビジネス場面で使う文法、語彙、表現を取り上げる事自体は妥当である。しかし本教材は Мухамадиева (2015) にあったような対話やテキストの読解を基本的に設けない。テキスト読解のようなインプットより、アウトプット重視の教材作成を心掛ける。カザフ語として正しいということより、多少間違っている、カザフ人のビジネスマンに説明や質問ができるような学習内容を準備する。

3.3 ビジネスカザフ語の学習内容

筆者は日本人向けのビジネスカザフ語教材を作成するあたり、Мухамадиева (2015) を参考にした。構想中の本教材はビジネス場面を通してカザフ語の語彙、文法、表現といった言語学的側面 (言語学体系) を学ぶというよりも、カザフスタンの会社文化を知ることが重視する立場を取る。教材でどのような語彙、文法、表現を選ぶのかということが問題になる。ビジネス語彙に関して、一般的

には経済、社会、法律、政治関係の用語が選ばれそうなものである。しかし、筆者が執筆するビジネスカザフ語の教材では、ビジネス場面のフィールド調査や会社へのインタビューを通して、現代カザフスタンのビジネスにふさわしい語彙を選定する。食品関係の会社をフィールド調査の対象にすれば、食品の名前、調理方法などが語彙に選ばれる。医療機器の会社を対象にすれば、機材に関することだけでなく、身体部位や病状なども学習語彙に選ばれる。表現と文法もフィールド調査によって選定される。文法に関して、ビジネスカザフ語に固有の文法があるのか現時点において不明である。ビジネス日本語の教材の場合、敬語がよく取り上げられる。日本語の敬語のように、カザフスタンのビジネス場面で重要な役割を果たす文法が存在するのであれば、教材にそれを積極的に取り入れたい。

次に練習問題について述べる。ある状況に基づいて、カザフ人の同僚や上司にカザフ語で報告や質問をしたり、さらにはカザフ語で計画を作ったりするような形式が考えられる。カザフ語の文法が多少の間違いがあっても許されるような問題を作りたい。例えば、以下のものが考えられる。

状況1：日本の健康食品の会社（鈴木健康食品会社）の視察団がカザフスタンの食品会社及び工場を視察に来ます。

練習問題1：以下の情報をもとに、いつ、何人、視察団が来るのかをカザフ語で同僚に伝えてください。

「2か月後の3月20日から3月22日にアルマティに滞在する。鈴木健康食品会社の鈴木太郎（部長）、木村次郎（工場の管理担当者）、佐藤三郎（秘書）が視察する予定である。」

練習問題2：鈴木健康食品会社からの視察団はアルマティでの滞在予定を3月20日から3月22日ではなく、3月15日から3月17日に変更すること希望しています。またドストック通りのカザフスタンホテルに宿泊する予定でしたが、会社の近くのホテルに宿泊することを希望しています。会社の近くにあるお勧めのホテルを教えてくださいという連絡がきました。カザフ語で日本側の要望を上司に伝えてください。

上のような、情報をまとめてカザフ語で伝える練習だけでなく、カザフ語で質問をしたり、仕事上の計画をカザフ語で作ったりするような練習問題を作りたい。ビジネスの場面の実情に合わせて、練習問題を作成する。

4. むすびにかえて

筆者は『カザフスタンに暮らす日本人ビジネス関係者向けのカザフ語一日常生活のためのやさしいカザフ語とビジネスカザフ語一』という教材を開発し、刊行する予定である。構想する教材は二部構成であり、第一部の「日常生活のためのやさしいカザフ語」は日本人ビジネスマン及びその家族向けに、第二部の「ビジネスカザフ語」はカザフスタンでの生活に慣れてきた日本人ビジネスマン向けに書かれる。

第一部の「日常生活のためのやさしいカザフ語」において、読者はやさしいカザフ語を用いて、カザフスタンでの日常生活上の諸問題を解決する方法を学ぶ。やさしいカザフ語は読者が自ら産出していくものである。「やさしい日本語」やドイツの「やさしい言語」と異なり、公共機関が提供するものではない。カザフスタンに住んでいるビジネスマン及びその家族にインタビューやアンケート調査をすることで、彼らの日常生活上の問題点を明らかにし、それを基に「日常生活のためのやさしいカザフ語」を執筆する。

一方、第二部の「ビジネスカザフ語」において、読者はカザフ人ビジネスマンと仕事上のやり取りで使えるカザフ語を学ぶ。Мухамадиева (2015) のように、本教材は日常業務の幾つかの場面を各課に設定したいが、どのような場面を設定すればよいかを決めかねている。業務内容が業種によって、また会社によって異なるため、本教材で取り扱うビジネス場面を具体化させるのは難しい。幾つかの企業を対象にして、会社のより一般的な業務内容を明らかにし、それをもとに教材開発を行うことも可能であるし、あるいはカザフスタンでニーズの高い業種の業務内容を調べて、教材を作ることも可能である。どちらの方針を取るかは今後の課題としたい。ビジネスカザフ語を作るにあたり、Мухамадиева (2015) のようなビジネスカザフ語の教科書を調べるだけでなく、日本とカザフスタンの会社文化の違いを知るために、ビジネス日本語の教材も調査したい。またカザフスタンの会社と在カザフスタンの日系企業にもインタビューとアンケート調査を行う予定である。カザフスタンの会社はロシアの会社文化の影響を色濃く受けていると考えられるため、場合によってビジネスロシア語についても調査する必要がでてくるだろう。

参考文献

1. 庵功雄 (2016) 『やさしい日本語―多文化共生社会へー』 岩波書店
2. 金田一京助 他 (編) (1989) 『新明解国語辞典 第4版』 三省堂
3. 小西友七・南出康世 (編) (2006) 『ジーニアス英和辞典 第4版』 大修館書店
4. Maaß, C. (2015) *Leichte Sprache. Das Regelbuch*. Münster u.a.: LIT Verlag.
5. 松村明 他 (監) (1993) 『辞林 21』 三省堂
6. Мухамадиева, Н. (2015) *Іскерлік қазақ тілі*. Астана: Фолиант баспасы.
7. 新村出 (編) (1998) 『広辞苑 第5版 普通版』 岩波書店
8. 白山利信・岡本能里子 (2020) 「「やさしい日本語」は多文化共生社会の橋渡し役」 柿原武史・上村圭介・長谷川由紀子 (編) 『今そこにある多言語なニッポン』 119-135: くろしお出版

参照サイト

1. News Web Easy: <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> (最終アクセス 2024 年 1 月 10 日)
2. やさしい にほんご ニュース: <https://kahoku.news/easyjapanese/> (最終アクセス 2024 年 1 月 10 日)
3. 菅谷泰行 (2020) 「ドイツ語圏のやさしいことば」 『障害学会第 17 回大会報告』

<http://www.arsvi.com/2020/20200919sy.htm> (最終アクセス 2024 年 1 月 10 日)

4. しまね国際センター「やさしい日本語」の手引き」

https://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/tabunka/sousei-tabunka.data/easy_japanese.pdf (最終アクセス 2024 年 1 月 10 日)

緊急時における病気関連の主要な用語 (カザフ語・日本語)

аурухана	病院 (hospital)
емхана	診療所 (clinic)
дәріхана	薬局 (pharmacy)
дәрігер	医者 (medical doctor)
мейірбике	看護師 (nurse)
жедел жәрдем машинасы	救急車 (ambulance)
терапия бөлімі	内科 (internal department)
хирургия бөлімі	外科 (surgical department)
ортопедия бөлімі	整形外科 (orthopedics department)
пластикалық хирургия бөлімі	形成外科 (plastic surgery department)
нейрохирургия бөлімі	脳神経外科 (neurosurgery department)
педиатрия бөлімі	小児科 (pediatrics)
гинекология	婦人科 (gynecology department)
перзентхана бөлімі	産科 (obstetrical department)
дерматология бөлімі	皮膚科 (dermatological department)
урология бөлімі	泌尿器科 (urology department)
офтальмология	眼科 (ophthalmological department)
отоларингология бөлімі	耳鼻咽喉科 (otorhinolaryngological department)
психиатрия бөлімі	精神科 (psychiatry department)
анестезиология бөлімі	麻酔科 (anesthesiology department)
стоматология	歯科 (dental department)
биохимиялық қан анализі	血液検査 (blood test)
рентгеноскопия	X 線検査 (X-ray inspection)
гастроскоп	胃カメラ (gastrofiberscope)
суық тию	風邪をひく (catch a cold)
тұмау тию	インフルエンザにかかる (get influenza)
бас ауыру	頭痛がする (have a headache)
іш ауыру	腹痛がする (have a stomachache)
сынык	骨折 (fracture)
кәтерлі ісік, рак	癌 (cancer)
жүрек аурулары	心臓病 (heart trouble)
ми инфаркты	脳梗塞 (cerebral infarction)

өкпе қабынуы, пневмония	肺炎 (pneumonia)
бүйрек жеткіліксіздігі	腎不全 (kidney failure)
қант диабеті	糖尿病 (diabetes)
жоғары қан қысымы	高血压 (high blood pressure)
депрессиялық бұзылыс	うつ病 (major depressive disorder)
көтеу	痔 (hemorrhoid)
тағамнан улану	食中毒 (food poisoning)
шөптен аллергия, шөп тозанынан туындайтын аллергия	花粉症 (hay fever)
вирусты гепатит	ウイルス性肝炎 (viral hepatitis)
жұқтырылған иммун тапшылығының синдромы (ЖИТС)	エイズ (acquired immunodeficiency syndrome) (AIDS)
сібір жарасы	炭疽 (anthrax)
туберкулез	結核 (tuberculosis)
микұрт	髄膜炎 (meningitis)
трихинеллез	旋毛虫症 (trichinosis)
дәрі, дәрі-дәрмек	薬 (medicine)
рецепт	処方箋 (prescription)
жағымсыз әсер	副作用 (side effect)
көк тамырға дәрі құю	点滴 (intravenous therapy)
таблетка	錠剤 (tablet)
капсула	カプセル (capsule)
ұнтақ дәрі	粉薬 (powdered medicine)
жақпа май	塗り薬 (ointment)
биологиялық белсенді қоспалар (ББК)	栄養補助食品 (supplement)
укол салу	注射する (inject)
сақтандыру	保険 (insurance)

カザフスタンの主要な緊急連絡先

警察	☎ 102
救急	☎ 103
消防	☎ 101
Interteach (外国人向けの私立診療所。保険の適用が概ね可能)	☎ +7 727 320 0200 ☎ +7 747 094 4600 https://www.interteach.kz/
Emirmed (私立診療所)	☎ +7 708 911 3790 https://emirmed.kz/
Сункар (私立診療所)	☎ +7 727 373 0606 https://densaulyk.kz/
Эвакуатор (故障車のレッカー移動)	☎ +7 701 176 4440
在カザフスタン日本国大使館 (代表)	☎ +7 717 297 7843 https://www.kz.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
在カザフスタン日本国大使館 (領事)	☎ +7 717 297 7872
アルファラビ・カザフ国立大学 (代表)	☎ +7 727 377 3330
アルファラビ・カザフ国立大学 «Керемет» 学生サービスセンター	☎ +7 727 221 1410, +7 727 221 1411 https://keremet.kaznu.kz/kz
アルファラビ・カザフ国立大学東洋学部	☎ +7 727 377 3333 (内線 1785)
アルファラビ・カザフ国立大学準備学部	☎ +7 727 377 3333 (内線 1730)
カザフスタン地域サービスセンター (ЦОН, ХККО)	☎ 1414 https://gov4c.kz/ru/
カザフスタン地域サービスセンター・メデウ地域担当 (Медеу аудандық бөлімі)	住所: Markov str., 44, 050040
カザフスタン地域サービスセンター・アルマル地域担当 (Алмалы аудандық бөлімі)	住所: Bogenbai batyr str., 221, 050026
カザフスタン日本センター (Алматы)	☎ +7 727 377 1339 https://kjc.kz/ru/

カザフスタンの生活で役に立つピクトグラム

ここではカザフスタンの生活で役に立つピクトグラムの例を幾つか紹介します。まず、2ГИС という地図のアプリ (同社のアルマトゥの地図については <https://2gis.kz/almaty> から確認可能) で示されるピクトグラムを挙げます。次に、カザフスタンのバスの中で見られるピクトグラムを紹介します。

		
病院	薬局	警察
		
地下鉄	バス停	銀行
		
トイレ	交通事故	道路工事

<https://help.2gis.ru/question/uslovnye-oboznacheniya-na-kartah-2gis>

		
飲食禁止	扉への背もたれ禁止	無賃乗車禁止

バスの中での禁止行為 (アルマトゥのバス内で撮影: 二ノ宮崇司)

カザフスタンの地図



[著者]

トゥユメバエフ・ジャンセイト・カンセイトル (Түймебаев Жансейіт Қансейітұлы)
アルファラビ・カザフ国立大学 学長

[翻訳版監修]

白山 利信

筑波大学人文社会系長、教授、国際室ロシア・中央アジア地域責任者、日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト実務責任者

[翻訳者]

二ノ宮 崇司

アルファラビ・カザフ国立大学東洋学部招聘教授、准教授 s0430062.ninomiya@gmail.com

シャダエヴァ・マディナ (Шадаева Мадина)

アルファラビ・カザフ国立大学東洋学部上級講師

[補足資料作成]

二ノ宮 崇司、白山 利信

教育出版物

カザフ語文法の手引き：第2版 (日本語訳)

Қазақ тілі: Грамматикалық анықтағыш. – 2-ші бас.

2025年3月31日発行

著者	トゥユメバエフ Zh. Q. (Түймебаев Ж.Қ.)
翻訳	二ノ宮 崇司、シャダエヴァ М. (Шадаева М.)
翻訳版監修	白山 利信
編集・校正	徳田由佳子
表紙デザイン	ナフィーサ・インセバエヴァ
協力	筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」
発行	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター
発行者	小野 正樹
	茨城県つくば市天王台 1-1-1 TEL 029-853-2426
印刷・製本	メディア情報株式会社
	茨城県つくば市葛城根崎 1 番地 TEL 029-893-3130
ISBN	978-4-910114-59-0

